

(様式4)

一般社団法人 薬学教育評価機構

(調書)

薬学教育評価 基礎資料

(平成26年5月1日現在)

昭和薬科大学薬学部

「基礎資料」作成上の注意事項

- 1 記述の対象となる年度が提示されていない場合は、自己点検・評価対象年度の5月1日現在の数値を記述してください。平成27年度に第三者評価を受ける大学の場合は、自己点検・評価対象年度の平成26年5月1日となります。
- 2 記述に際し、各シートの[注]を確認し、作成してください。
- 3 各シートの表中の表記例は、消去して作成してください。また、各シートに付されている[注]は消去しないでください。
- 4 各表に記入する数値について小数点以下の端数が出る場合、特に指示のない限り小数点以下第2位を四捨五入して小数点第1位まで表示してください。
- 5 説明を付す必要があると思われるものについては、備考欄に記述するか、欄外に大学独自の注をつけて説明を記してください。
- 6 提出形態について
 - ・基本的にA4判で作成してください。
 - ・表紙および目次を作成し、全体に通しページを付してください。
 - ・両面印刷して加除が可能な体裁でファイル綴じにした印刷物を提出してください。
 - ・カラー表記のあるページは、カラーで印刷してください。
 - ・PDFファイルに変換したデータを自己点検・評価書と同じCD-Rに保存してください。

薬学教育評価 基礎資料

(目次)

	資料概要	ページ
基礎資料 1	学年別授業科目	1 - 9
基礎資料 2	修学状況（在籍学生数・休学退学者数・学士課程修了状況）	10 - 12
基礎資料 3	薬学教育モデル・コアカリキュラム等のSBOsに該当する科目	13 - 59
基礎資料 4	カリキュラムマップ	60
基礎資料 5	語学教育の要素	61
基礎資料 6	4年次の実務実習事前学習スケジュール	62 - 68
基礎資料 7	学生受入状況について	69
基礎資料 8	教員・事務職員数	70
基礎資料 9	専任教員年齢構成	71
基礎資料10	専任教員の担当授業科目および時間数	72 - 81
基礎資料11	卒業研究の配属状況	82
基礎資料12	講義室等の数と面積	83
基礎資料13	学生閲覧室等の規模	84
基礎資料14	図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況	85
基礎資料15	専任教員の教育・研究業績	86 - 229

(基礎資料1-1) 学年別授業科目

	1 年 次										
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数 ※1	授業方法				単位数	
教養教育・語学教育	ヒューマニズムについて学ぶ	1年前期～4年後期	約135	2	269	コ	S			3	
	薬学への招待	前期	約121	2	242	コ	S		演	2	
	早期体験学習	前期・後期	約121	2	242	コ	S	実・見学	演	2	
	(択)人と文化Ⅰ:異文化の理解	前期・後期	26～37	8	242	コ	S		演	1	
	(択)人と文化Ⅱ:日本の文化・芸術の探求	前期・後期	25～38	8	244	コ	S			1	
	(択)人と文化Ⅲ:自然科学を学ぶ	前期・後期	22～37	8	241	コ	S		演	1	
	人と文化Ⅳ:人の行動と心理	前期・後期	約121	2	242	コ	S			1	
	運動と健康	前期・後期	約121	2	242	コ		実技	演	2	
	薬学英語入門Ⅰ RW-1	前期	29～32	8	246	コ			演	1	
	薬学英語入門Ⅰ LS-1	前期	29～32	8	246	コ			演	1	
	薬学英語入門Ⅰ RW-2	後期	29～32	8	243	コ			演	1	
	薬学英語入門Ⅰ RW-2	後期	29～32	8	243	コ			演	1	
	薬学の基礎としての物理:力学・波動	前期	約135	2	269	コ			演	2	
	薬学の基礎としての物理:電磁気学・量子論	後期	約134	2	267	コ			演	2	
	薬学の基礎としての化学:物質の構成と化学反応Ⅰ	前期	約132	2	263	コ			演	2	
	薬学の基礎としての化学:物質の構成と化学反応Ⅱ	後期	約138	2	276	コ			演	2	
	薬学の基礎としての生物:細胞と遺伝	前期	約131	2	262	コ				2	
薬学の基礎としての生物:系統と生理	後期	約126	2	251	コ				2		
薬学の基礎としての数学:微分積分学	前期	約127	2	254	コ			演	2		
薬学の基礎としての数学:線形代数学	後期	約124	2	248	コ			演	2		
薬学専門教育	物質の状態Ⅰ:化学熱力学	後期	約127	2	253	コ				2	
	化学平衡・化学物質の検出と定量	後期	約131	2	262	コ			演	2	
	有機化合物の成り立ちⅠ:基本構造	前期	約130	2	260	コ				2	
	有機化合物の成り立ちⅡ:基本的性質	後期	約138	2	276	コ				2	
	ヒトの成り立ち	前期	約121	2	242	コ				2	
	生体機能調節と生理活性分子Ⅰ	後期	約144	2	287	コ				2	
	細胞を構成する分子	後期	約132	2	264	コ			演	2	
実習	情報科学演習・実習	前期	約121	2	242	コ		実	演	1	
	基礎化学実験	後期	約121	2	241	コ		実		0.5	
	基礎生物実験	後期	約121	2	241	コ		実		0.5	
演習											
単位数の合計										(必須科目)	46 ※2
										(選択科目)	0
										合計	46

※1 履修者数には、休学者（前期科目は5/1・後期科目は10/1現在）および単位修得済みの留年者を含まない。また、下級年次科目履修の上級学年者も含む。

※2 ヒューマニズムについて学ぶを除く。

(凡例)
講義=コ PBL/SGD=S 実習=実 演習=演

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S
6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-2) 学年別授業科目

	2 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	ヒューマニズムについて学ぶ	前期・後期	約125	2	251	コ	S		3 ※1
	人と文化Ⅴ：社会のしくみを学ぶ	前期・後期	約30	8	251	コ	S		1
	人と文化Ⅵ：倫理の思想を学ぶ	前期・後期	約125	2	251	コ	S		1
	薬学英語入門Ⅱ RW-1	前期	約30	8	242	コ		演	1
	薬学英語入門Ⅱ LS-1	前期	約30	8	241	コ		演	1
	薬学英語入門Ⅱ RW-2	後期	約30	8	237	コ		演	1
	薬学英語入門Ⅱ LS-2	後期	約30	8	237	コ		演	1
薬学専門教育	物質の構造	前期	約125	2	249	コ		演	2
	物質の状態Ⅱ：溶液化学	前期	約120	2	240	コ			2
	有機化合物の性質と反応Ⅰ	前期	約120	2	236	コ		演	2
	生体分子の役割	前期	約125	2	247	コ		演	2
	薬になる動植物	前期	約145	2	292	コ			2
	物質の変化：反応速度論	後期	約120	2	241	コ		演	2
	生体分子：化学物質の構造決定	後期	約120	2	239	コ		演	2
	有機化合物の性質と反応Ⅱ	後期	約130	2	260	コ			2
	現代医療の中の生薬・漢方薬	後期	約125	2	254	コ			2
	生命体の基本単位としての細胞	前期	約125	2	252	コ			2
	生体機能調節と生理活性分子Ⅱ	前期	約120	2	242	コ			2
	ミクロの世界の生き物	前期	約125	2	253	コ			2
	生体エネルギー	前期	約125	2	248	コ		演	2
	生命情報を担う遺伝子	後期	約120	2	239	コ			2
	生活環境と健康	後期	約120	2	240	コ			2
薬の作用と生体内の動き	後期	約125	2	251	コ			2	
病原微生物・悪性新生物と戦う	後期	約125	2	245	コ			2	
実習	物質の性質と化学分析Ⅰ実習	前期	約115	2	231	コ	実		0.5
	物質の性質と化学分析Ⅱ実習	前期	約115	2	232	コ	実		0.5
	薬の合成と構造解析Ⅰ実習	前期	約115	2	231	コ	実		0.5
	生体構成分子とその機能実習	前期	約115	2	231	コ	実		0.5
	微生物の取扱い実習	後期	約115	2	232	コ	実		0.5
	事前実習Ⅰ（臨床薬剤師入門）	後期	約120	2	240	コ	演	S	2 ※2
演習									
単位数の合計							(必須科目)		42.5
							(選択科目)		0
							合計		42.5

※1 ヒューマニズムについて学ぶは、1~4年までの科目。

※2 事前実習Ⅰは4年次に単位認定となる。

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S 実習=実 演習=演

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加減し、記入してください。

(基礎資料1-3) 学年別授業科目

	3 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	ヒューマニズムについて学ぶ	前期・後期	約135	2	268	コ	S		3 ※1
	薬学英語入門Ⅲ-1	前期	約30	8	247	コ		演	1
	薬学英語入門Ⅲ-2	後期	約30	8	246	コ		演	1
薬学専門教育	医薬品の有機化学	前期	約125	2	253	コ		演	2
	薬の資源としての天然物	前期	約130	2	258	コ			2
	医療統計学	前期	約125	2	249	コ		演	2
	薬局方概論	前期	約125	2	251	コ		演	2
	分析技術の臨床応用	後期	約125	2	245	コ			2
	医薬品の創製と最適化	後期	約130	2	256	コ			2
	遺伝子操作とバイオ医薬品	前期	約130	2	256	コ			2
	身体をまもるシステム	前期	約125	2	249	コ		演	2
	化学物質の生体への影響	前期	約125	2	252	コ			2
	薬の効き方Ⅰ	前期	約125	2	251	コ			2
	薬物の臓器への到達と消失	前期	約135	2	267	コ			2
	体の変化を知る	前期	約125	2	249	コ			2
	製剤材料の性質	前期	約140	2	276	コ		演	2
	栄養と健康	後期	約125	2	247	コ		演	2
	社会・集団と健康、疾病の予防	後期	約125	2	253	コ			2
	医薬品の安全性	後期	約130	2	261	コ			2
	薬の効き方Ⅱ	前期	約145	2	286	コ			2
	薬物動態の解析	後期	約130	2	264	コ			2
	疾患と薬物治療Ⅰ：循環・造血・消化器系	後期	約125	2	254	コ			2
剤形をつくる	後期	約135	2	270	コ		演	2	
社会保障制度と薬局	後期	約130	2	258	コ		演	2	
実習	薬の合成と構造解析Ⅱ実習	前期	約120	2	243	コ	実		0.5
	生活環境と健康実習	前期	約120	2	243	コ	実		0.5
	薬の効き方実習	前期	約120	2	243	コ	実		0.5
	天然物医薬品の化学構造Ⅰ実習	後期	約120	2	243	コ	実		0.5
	天然物医薬品の化学構造Ⅱ実習	後期	約120	2	243	コ	実		0.5
	食品衛生と化学物質の毒性実習	後期	約120	2	243	コ	実		0.5
	薬物の体内動態の解析実習	後期	約120	2	243	コ	実		0.5
	事前実習Ⅰ（医療薬学概論）	前期・後期	約130	2	263	コ	演		2 ※2
演習									
単位数の合計							(必須科目)		47.5
							(選択科目)		0
							合計		47.5

※1 ヒューマニズムについて学ぶは、1~4年までの科目。

※2 事前実習Ⅰは4年次に単位認定となる。

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S 実習=実 演習=演

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義=コ、PBL/SGD=S
6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-4) 学年別授業科目

	4 年 次									
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数 ※1	授業方法				単位数
教養教育・語学教育	ヒューマニズムについて学ぶ	1年前期～4年後期	約100	2	199	コ	S			3
薬学専門教育	疾患と薬物治療Ⅱ：胃・肝臓病、生薬製剤、眼、耳鼻咽喉、代謝性、血液・造血器	前期		2	199	コ				2
	疾患と薬物治療Ⅲ：精神・神経・皮膚・免疫系	前期		2	199	コ				2
	薬物治療に役立つ情報	前期		2	199	コ	S		演	2
	テーラーメイド薬物治療を旨として	前期		2	199	コ			演	2
	薬物送達システム（DDS）	前期		2	199	コ	S		演	2
	薬剤師を取り巻く法律と制度	前期		2	199	コ				2
実習	疾患の病態と治療実習	前期		2	199		S	実		0.5
	製剤材料の性質と剤形の調製実習	前期		2	199			実		0.5
	実務実習事前実習Ⅰ	2年後期～4年前期		2	199	コ	S	実	演	2 ※3
	実務実習事前実習Ⅱ	後期		2	199			実	演	3
	総合薬学研究	4年前期～6年前期	0～13 ※2	1	199				研	5または13
演習										
単位数の合計									(必須科目)	21 ※4
									(選択科目)	
									合計	21

- ※1 履修者数には、休学者（前期科目は5/1・後期科目は10/1現在）および単位修得済みの留年者は含まない。また、下級年次科目履修の上級学年者も含む。
- ※2 総合薬学研究は、各研究室で行う。1研究室の人数は0～13名。
- ※3 2年次「臨床薬剤師入門」（20%）、3年次「医療薬学概論」（20%）、3年次「導入実習」（20%）、4年次「臨床薬剤師入門」（40%）でコースとなっているので、単位認定は4年前期終了後に行う。
- ※4 総合薬学研究を除く。

(凡例)
講義＝コ PBL/SGD＝S 実習＝実 演習＝演 研究＝研

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
- 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
- 4 実習は1組（実習グループ）の人数を記入してください。
- 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
- 「授業方法」の表記：講義＝コ、 PBL/SGD＝S
- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-5) 学年別授業科目

		5 年 次							
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育									
実習	病院・薬局実習（第Ⅰ期）	前期・後期	病院約80、薬局約90	病院1、薬局1	病院76、薬局85			実	20 ※1
	病院・薬局実習（第Ⅱ期）	前期・後期	病院約80、薬局約80	病院1、薬局1	病院80、薬局80			実	20 ※1
	病院・薬局実習（第Ⅲ期）	前期・後期	病院約80、薬局約70	病院1、薬局1	病院77、薬局68			実	20 ※1
	総合薬学研究	4年前期～6年前期	0～13	1	233			研	5または13
演習	薬物治療特論Ⅰ	前期・後期	112	1	112	コ			2 ※2
	薬物治療特論Ⅱ	前期・後期	112	1	112	コ	S		2 ※2
	薬物治療特論Ⅲ	前期・後期	112	1	112	コ			2 ※2
	医薬開発特論Ⅰ	前期・後期	13	1	13	コ	S	演	2 ※3
	医薬開発特論Ⅱ（インターンシップ）	前期・後期	13	1	7（7月末に確定）			実	2 ※3
	医薬開発特論Ⅱ（実用英語）	前期・後期	13	1	6（7月末に確定）			演	2 ※3
	医薬開発特論Ⅲ	前期・後期	13	1	13	コ		演	2 ※3
単位数の合計								(必須科目)	20又は26 ※4
								(選択科目)	
								合計	20又は26

- ※1 前期または後期に病院実習11週、薬局実習11週を行う。Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ期より、2回の実習に参加し、20単位を取得。
- ※2 臨床コースの学生は、全て必須科目
- ※3 情報コースの学生は、全て必須科目。但し、医薬開発特論Ⅱは、インターンシップ又は実用英語を選択する。
- ※4 総合コースの学生は、合計単位数が20となる。
臨床コースまたは、情報コースの学生は、※2または※3が必須科目のため、合計単位数が26となる。

(凡例)
講義=コ PBL/SGD=S 実習=実 演習=演

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマンズ教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
- 4 実習は1組（実習グループ）の人数を記入してください。
- 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-6) 学年別授業科目

6 年 次									
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育									
実習 (臨床コース)	総合薬学研究	4年前期～6年前期	0-13 ※1	1	107			研	4.5
	(択) 患者情報から病態を読む	前期	103	1	104※2	コ	S	実	1.5 ※3
	(択) 臨床試験の評価方法	前期	103	1	103	コ	S	演	1.5 ※3
	(択) アドバンスト実務実習	前期	5	1	3			実	6 ※4
	(択) 分子標的医薬品の創製	前期	103	1	19※2	コ		演	1.5 ※5
	(択) 医薬品相互作用	前期	103	1	44※2	コ		演	1.5 ※5
	(択) 在宅医療と薬局	前期	30	1	22	コ	S		1.5 ※5
	(択) 漢方処方	前期	103	1	69※2	コ			1.5 ※5
	(択) 専門薬剤師を目指して	前期	103	1	45※2	コ			1.5 ※5
	(択) 化粧品科学	前期	103	1	49	コ			1.5 ※5
	(択) 新興・再興感染症と戦う	前期	103	1	20	コ	S		1.5 ※5
(択) 実用薬学英語	前期	103	1	16	コ		演	1.5 ※5	
実習	最終総合演習	後期	106		106			演	5
単位数の合計						(必須科目)			9.5
						(選択科目)			6
						合計			15.5

※1 総合薬学研究は、各研究室で行う。1研究室の人数は0～13名。

※2 9月卒業予定の卒業延期生1名を含む。

※3 臨床コースで、アドバンスト実務実習を選択していない学生は、全員履修。

※4 アドバンスト実務実習を選択している学生は、※3と※5を履修する必要はない。

※5 臨床コースで、アドバンスト実務実習を選択していない学生は、2科目3単位以上を履修。

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S 実習=実 演習=演
研究=研

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。

5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S

6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-6) 学年別授業科目

		6 年 次								
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数
教養教育・語学教育										
薬学専門教育										
実習 (情報コース)	総合薬学研究	4年前期～6年前期	0-13 ※1	1	19			研	4.5	
	(択) 分子標的医薬品の創製	前期	19	1	19	コ		研	1.5 ※2	
	(択) 医薬品相互作用	前期	19	1	19	コ		研	1.5 ※2	
	(択) 在宅医療と薬局	前期	30	1	4	コ	S	研	1.5 ※3	
	(択) 漢方処方	前期	19	1	17	コ		研	1.5 ※3	
	(択) 専門薬剤師を目指して	前期	19	1	6	コ		研	1.5 ※3	
	(択) 香粧品の科学	前期	19	1	15	コ		研	1.5 ※3	
	(択) 新興・再興感染症と戦う	前期	19	1	1	コ	S	研	1.5 ※3	
	(択) 実用薬学英語	前期	19	1	4	コ		演	1.5 ※3	
実習	最終総合演習	後期	19		19			演	5	
単位数の合計								(必須科目)	9.5	
								(選択科目)	6	
								合計	15.5	

※1 総合薬学研究は、各研究室で行う。1研究室の人数は0～13名。

※2 情報コースの学生は、全員履修。

※3 情報コースの学生は、2科目3単位以上を履修。

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S 実習=実 演習=演
研究=研

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-6) 学年別授業科目

	6 年 次									
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数	
教養教育・語学教育										
薬学専門教育										
実習（総合コース）	総合薬学研究	4年前期～6年前期	0-13 ※1	1	106			研	12	
	(択) 化学系特論	前期	約53	1	52	コ			1.5 ※2	
	(択) 生物系特論	前期	約53	1	54	コ			1.5 ※2	
	(択) 分子標的医薬品の創製	前期	106	1	23	コ			1.5 ※3	
	(択) 医薬品相互作用	前期	106	1	18	コ		演	1.5 ※3	
	(択) 在宅医療と薬局	前期	30	1	4	コ	S		1.5 ※3	
	(択) 漢方処方	前期	106	1	45	コ			1.5 ※3	
	(択) 専門薬剤師を目指して	前期	106	1	19	コ			1.5 ※3	
	(択) 化粧品科学	前期	106	1	41	コ			1.5 ※3	
	(択) 新興・再興感染症と戦う	前期	106	1	2	コ	S		1.5 ※3	
(択) 実用薬学英語	前期	106	1	14	コ		演	1.5 ※3		
実習	最終総合演習	後期	106		106			演	5	
単位数の合計							(必須科目)			17
							(選択科目)			3
							合計			20

- ※1 総合薬学研究は、各研究室で行う。1研究室の人数は0～13名。
 ※2 総合コースの学生は、化学系特論または生物系特論を必ず履修。
 ※3 総合コースの学生は、1科目1.5単位以上を履修。

(凡例)			
講義=コ	PBL/SGD=S	実習=実	演習=演
研究=研			

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマンズ教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
 「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
 6 行は適宜加減し、記入してください。

(基礎資料1-7) 学年別授業科目

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	4	12
教養教育科目	16	26
語学教育科目	12	13.5
医療安全教育科目	9	19
生涯学習の意欲醸成科目	14	34または42
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	1	2

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単数を合算して記入してください。

総合コース

学 年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	46		46
2 年 次	42.5		42.5
3 年 次	47.5		47.5
4 年 次	21		21
5 年 次	20		20
6 年 次	12	3	15
合計	189	3	192

臨床コース

学 年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	46		46
2 年 次	42.5		42.5
3 年 次	47.5		47.5
4 年 次	21		21
5 年 次	26		26
6 年 次	4.5	6	10.5
合計	187.5	6	193.5

情報コース

学 年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	46		46
2 年 次	42.5		42.5
3 年 次	47.5		47.5
4 年 次	21		21
5 年 次	26		26
6 年 次	4.5	6	10.5
合計	187.5	6	193.5

(基礎資料2-1) 在籍学生数

		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次	6 年次	合計
入学年度 における	入学定員数	240	240	240	240	240	240	1440
	編入定員数							A
	入学者数	245	245	265	248	251	258	1512
各学年の在籍学生数		272	251	268	200	234	268	1493
編入学生数 (内) ※								D
留年者数 (内)		27	35	54	30	31	22	199
基準日 における	平成21年度				5	23		28
	平成22年度			4	25			29
	平成23年度		6	50				56
	平成24年度		29					29
	平成25年度	27						27
	平成26年度							
C / (A + B)		1.04	※ 編入生すべての編入した学年を、別添でご提出ください。					
D / B								

- [注] 1 「C / (A + B)」と「D / B」については、小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位まで表示してください。
- 2 「編入学生数 (内)」および「留年者数 (内)」は、「各学年の在籍学生数」の内数を記入してください。
- 3 平成26年度以外は年度末の現状を記入してください。

(基礎資料2-2) 休学者数、留年者数、退学者数および編入学者数

平成26年度版 ハンドブック P108 様式4(基礎資料2-2) 改定

	平成21年度				平成22年度				平成23年度				平成24年度				平成25年度				平成26年度									
	休学者数	留年者数	退学者数	編入者数	休学者数	留年者数	退学者数	編入者数	休学者数	留年者数	退学者数	編入者数	休学者数	留年者数	退学者数	編入者数	休学者数	留年者数	退学者数	編入者数	休学者数	留年者数	退学者数	編入者数						
総在籍学生数	1052				1243				1478				1522				1507				1493									
1年次	7	5			9	7				32	6			4	36	17				1	26	18			2	38	1			
2年次		16	9			12	7				19	3		1	23	8				2	15	7			2	24	8			
3年次		10	1			19	2			2	6				23	5				2	23	4			3	33	2			
4年次		3								1	3	1		2	5					5	1	4					8			
5年次										1															1					
6年次																									1					
合計	0	36	15	0	0	40	16	0	4	78	16	0	7	87	30	0	10	65	33	9	103	11	0	9	103	11	0			

[注] 平成26年度以外は年度末の現状を記入してください。

(基礎資料2-3) 学士課程修了状況

卒業者総数	平成23年度 (平成24年3月卒業)	平成24年度 (平成25年3月卒業)	平成25年度 (平成26年3月卒業)	平成26年度 (平成27年3月卒業)	平成27年度 (平成28年3月卒業)	平成28年度 (平成29年3月卒業)	入学者総数	卒業率 (%)
	202名	224名	208名	268名	234名	200名		
平成18年度入学者	202名	17名	2名	名	1名	名	平成19年度 256名	80.9%
平成19年度入学者	名	207名	12名	4名	2名	名	平成20年度 262名	74.0%
平成20年度入学者	名	名	194名	18名	5名	名	平成21年度 258名	95.3%
平成21年度入学者	名	名	名	246名	23名	5名	平成22年度 251名	80.9%
平成22年度入学者	名	名	名	名	203名	25名	平成23年度 248名	68.5%
平成23年度入学者	名	名	名	名	名	170名		

	専 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
1) 医薬品の創製と供給が社会に及ぼす影響に常に目を向ける。(態度)		ヒューマニズムについて学ぶ	ヒューマニズムについて学ぶ	ヒューマニズムについて学ぶ		
2) 医薬品の使用に関わる事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)						
【自己学習・生涯学習】						
1) 医療に関する諸問題から、自ら課題を見出し、それを解決する能力を醸成する。(知識・技能・態度)	ヒューマニズムについて学ぶ	ヒューマニズムについて学ぶ	ヒューマニズムについて学ぶ	ヒューマニズムについて学ぶ		
2) 医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する。(態度)						
(3) 信頼関係の確立を目指して						
【コミュニケーション】						
1) 言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。	ヒューマニズムについて学ぶ	ヒューマニズムについて学ぶ	ヒューマニズムについて学ぶ	ヒューマニズムについて学ぶ		在宅医療
2) 意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できる。						
3) 相手の立場、文化、習慣などによって、コミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。						
【相手の気持ちに配慮する】						
1) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる。	ヒューマニズムについて学ぶ	ヒューマニズムについて学ぶ	ヒューマニズムについて学ぶ	ヒューマニズムについて学ぶ		在宅医療
2) 相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。(知識・態度)						
3) 対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(技能)						
【患者の気持ちに配慮する】						
1) 病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。						
2) 患者の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度)	ヒューマニズムについて学ぶ		ヒューマニズムについて学ぶ	ヒューマニズムについて学ぶ		在宅医療
3) 患者の家族の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度)						
4) 患者やその家族の持つ価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できるよう努力する。(態度)						
5) 不自由体験などの体験学習を通して、患者の気持ちについて討議する。(知識・態度)	ヒューマニズムについて学ぶ					
【チームワーク】						
1) チームワークの重要性を例示して説明できる。						
2) チームに参加し、協調的態度で役割を果たす。(態度)	ヒューマニズムについて学ぶ		ヒューマニズムについて学ぶ	ヒューマニズムについて学ぶ		在宅医療
3) 自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。(態度)						
【地域社会の人々との信頼関係】						
1) 薬の専門家と地域社会の関わりを列挙できる。						
2) 薬の専門家に対する地域社会のニーズを収集し、討議する。(態度)	ヒューマニズムについて学ぶ		ヒューマニズムについて学ぶ	ヒューマニズムについて学ぶ		
B イントロダクション						
(1) 薬学への招待						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【薬学の歴史】							
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割を概説できる。							
2) 薬剤師の誕生と変遷の歴史を概説できる。	薬学への招待		実務実習事前実習 I (医療薬学概論)				
【薬剤師の活動分野】							
1) 薬剤師の活動分野 (医療機関、製薬企業、衛生行政など) について概説できる。							
2) 薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。							
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割について概説できる。	薬学への招待						
4) 医薬品の創製における薬剤師の役割について概説できる。							
5) 疾病の予防および健康管理における薬剤師の役割について概説できる。							
【薬について】							
1) 「薬とは何か」を概説できる。	薬学への招待						
2) 薬の発見の歴史を具体例を挙げて概説できる。			実務実習事前実習 I (医療薬学概論)				
3) 化学物質が医薬品として治療に使用されるまでの流れを概説できる。				薬物送達法			
4) 種々の剤形とその使い方について概説できる。				剤形をつくる			
5) 一般用医薬品と医療用医薬品の違いを概説できる。	薬学への招待						
【現代社会と薬学との接点】							
1) 先端医療を支える医薬品開発の現状について概説できる。	薬学への招待						
2) 麻薬、大麻、覚せい剤などを乱用することによる健康への影響を概説できる。				天然物化学			
3) 薬害について具体例を挙げ、その背景を概説できる。	薬学への招待						
【日本薬局方】							
1) 日本薬局方の意義と内容について概説できる。	薬学への招待			薬局方概論			
【総合演習】							
1) 医療と薬剤師の関わりについて考えを述べる。(態度)	早期体験学習						
2) 身近な医薬品を日本薬局方などを用いて調べる。(技能)				薬局方概論			
(2) 早期体験学習							
1) 病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。							
2) 閉局薬剤師の業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。(知識・態度)							
3) 製薬企業および保健衛生、健康に関わる行政機関の業務を見聞し、社会において果たしている役割について討議する。(知識・態度)	早期体験学習						
4) 保健、福祉の重要性を具体的な体験に基づいて発表する。(知識・態度)							
C 薬学専門教育							
【物理系薬学を学ぶ】							
C1 物質の物理的性質							
(1) 物質の構造							
【化学結合】							
1) 化学結合の成り立ちについて説明できる。	化学 I 基礎有機化学 I	化学 I 基礎有機化学 I					
2) 軌道の形成について説明できる。							
3) 分子軌道の基本概念を説明できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 共役や共鳴の概念を説明できる。		1年 化学I 基礎有機化学I	2年 化学I 基礎有機化学I				
【分子間相互作用】							
1) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。		化学II 基礎有機化学I	反応速度論 物質の構造				
2) ファンデルワールス力について例を挙げて説明できる。							
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。							
4) 分散力について例を挙げて説明できる。							
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。							
6) 電荷移動について例を挙げて説明できる。							
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。							
【原子・分子】							
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。		化学I 基礎有機化学I	物質の構造				
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。							
3) スピンとその磁気共鳴について説明できる。							
4) 分子の分極と双極子モーメントについて説明できる。							
5) 代表的な分光スペクトルを測定し、構造との関連を説明できる。(知識・技能)							
6) 偏光および旋光性について説明できる。							
7) 散乱および干渉について説明できる。							
8) 結晶構造と回折現象について説明できる。							
【放射線と放射能】							
1) 原子の構造と放射線変化について説明できる。		物質の構造 物理化学実習					
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの物質との相互作用について説明できる。							
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。							
4) 核反応および放射平衡について説明できる。							
5) 放射線の測定原理について説明できる。							
(2) 物質の状態 I							
【総論】							
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。		化学I 化学熱力学					
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。		化学熱力学					
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。							
【エネルギー】							
1) 系、外界、境界について説明できる。		化学I 化学熱力学					
2) 状態関数の種類と特徴について説明できる。							
3) 仕事および熱の概念を説明できる。							
4) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。							
5) 熱力学第一法則について式を用いて説明できる。							
6) 代表的な過程(変化)における熱と仕事を計算できる。(知識・技能)							
7) エンタルピーについて説明できる。							
8) 代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる。(知識・技能)							

業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		専 当 科 目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
9) 標準生成エンタルピーについて説明できる。	化学 I 化学熱力学						
【自発的な変化】							
1) エントロピーについて説明できる。	化学 II 化学熱力学						
2) 熱力学第二法則について説明できる。	化学熱力学						
3) 代表的な物理変化、化学変化に伴うエントロピー変化を計算できる。(知識、技能)	化学熱力学						
4) 熱力学第三法則について説明できる。							
5) 自由エネルギーについて説明できる。	化学 II 化学熱力学						
6) 熱力学関数の計算結果から、自発的な変化の方向と程度を予測できる。(知識、技能)							
7) 自由エネルギーの圧力と温度による変化を、式を用いて説明できる。							
8) 自由エネルギーと平衡定数の温度依存性 (van' t Hoffの式) について説明できる。	化学熱力学						
9) 共役反応について例を挙げて説明できる。							
(3) 物質の状態 II							
【物理平衡】							
1) 相変化に伴う熱の移動 (Clausius-Clapeyronの式など) について説明できる。		溶液化学					
2) 相平衡と相律について説明できる。							
3) 代表的な状態図 (一成分系、二成分系、三成分系相図) について説明できる。							
4) 物質の溶解平衡について説明できる。		溶液化学 物理化学実習					
5) 溶液の束一的性質 (浸透圧、沸点上昇、凝固点降下など) について説明できる。	化学 II	溶液化学					
6) 界面における平衡について説明できる。		溶液化学 物理化学実習					
7) 吸着平衡について説明できる。							
8) 代表的な物理平衡を観測し、平衡定数を求めることができる。(技能)	基礎化学実習						
【溶液の化学】							
1) 化学ポテンシャルについて説明できる。		溶液化学					
2) 活量と活量係数について説明できる。							
3) 平衡と化学ポテンシャルの関係を説明できる。							
4) 電解質のモル伝導度の濃度変化を説明できる。		溶液 I 化学 物理化学実習					
5) イオンの輸率と移動度について説明できる。							
6) イオン強度について説明できる。		溶液化学					
7) 電解質の活量係数の濃度依存性 (Debye-Hückel の式) について説明できる。							
【電気化学】							
1) 代表的な化学電池の種類とその構成について説明できる。							
2) 標準電極電位について説明できる。							
3) 起電力と標準自由エネルギー変化の関係を説明できる。		溶液化学					
4) Nernstの式が誘導できる。							
5) 濃淡電池について説明できる。							
6) 膜電位と能動輸送について説明できる。							
(4) 物質の変化							
【反応速度】							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		敵 当 科 目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 反応次数と速度定数について説明できる。 2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能) 3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。 4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能) 5) 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。 6) 反応速度と温度との関係(Arrheniusの式)を説明できる。 7) 衝突理論について概説できる。 8) 遷移状態理論について概説できる。 9) 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応など)について説明できる。 10) 酵素反応、およびその拮抗阻害と非拮抗阻害の機構について説明できる。	化学II	反応速度論					
	化学II	反応速度論 物理化学実習					
	化学II	反応速度論					
【物質の移動】							
1) 拡散および溶解速度について説明できる。		反応速度論					
2) 沈降現象について説明できる。							
3) 流動現象および粘度について説明できる。							
02 化学物質の分析							
(1) 化学平衡							
【酸と塩基】		化学II 分析化学					
1) 酸・塩基平衡を説明できる。							
2) 溶液の水素イオン濃度(pH)を測定できる。(技能)							
3) 溶液のpHを計算できる。(知識・技能)							
4) 緩衝作用について具体例を挙げて説明できる。			分析化学実習				
5) 代表的な緩衝液の特徴とその調製法を説明できる。							
6) 化学物質のpHによる分子形、イオン形の変化を説明できる。							
【各種の化学平衡】							
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。	化学II 分析化学						
2) 沈殿平衡(溶解度と溶解度積)について説明できる。							
3) 酸化還元電位について説明できる。							
4) 酸化還元平衡について説明できる。							
5) 分配平衡について説明できる。	分析化学						
6) イオン交換について説明できる。							
(2) 化学物質の検出と定量							
【定性試験】							
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。				薬局方概論			
2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。							
3) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の純度試験を列挙し、その内容を説明できる。							
【定量の基礎】							
1) 実験値を用いた計算および統計処理ができる。(技能)				薬局方概論			
2) 医薬品分析法のバリデーションについて説明できる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
3)	日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。						
4)	日本薬局方収載の容量分析法について列挙できる。			薬局方概論			
5)	日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。						
【容量分析】							
1)	中和滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学		薬局方概論			
2)	非水滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
3)	キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
4)	沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
5)	酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
6)	電気滴定（電位差滴定、電気伝導度滴定など）の原理、操作法および応用例を説明できる。						
7)	日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。（技能）						
【金属元素の分析】							
1)	原子吸光度法の原理、操作法および応用例を説明できる。			薬局方概論			
2)	蛍光分析法の原理、操作法および応用例を説明できる。		機器分析				
【クロマトグラフィー】							
1)	クロマトグラフィーの種類を列挙し、それぞれの特徴と分離機構を説明できる。			薬局方概論 有機化学実習Ⅱ			
2)	クロマトグラフィーで用いられる代表的な検出法と装置を説明できる。						
3)	薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析できる。（知識・技能）						
(3) 分析技術の臨床応用							
【分析の準備】							
1)	代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いができる。（技能）			臨床分析			
2)	臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。						
【分析技術】							
1)	臨床分析の分野で用いられる代表的な分析法を列挙できる。			臨床分析			
2)	免疫反応を用いた分析法の原理、実施法および応用例を説明できる。						
3)	酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明し、実施できる。（知識・技能）						
4)	電気泳動法の原理を説明し、実施できる。（知識・技能）						
5)	代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。						
6)	代表的なトライケミストリーについて概説できる。						
7)	代表的な画像診断技術（線検査、CTスキャン、MRI、超音波、核医学検査など）について概説できる。						
8)	画像診断薬（造影剤、放射性医薬品など）について概説できる。						
9)	薬学領域で採用されるその他の分析技術（バイオイメージング、マイクロチップなど）について概説できる。						
【薬物の分析】							
1)	毒物中毒における生体試料の取扱いについて説明できる。			臨床分析			
2)	代表的な中毒原因物質（乱用薬物を含む）のスクリーニング法を列挙し、説明できる。						
3)	代表的な中毒原因物質を分析できる。（技能）						
G3 生体分子の薬・かたちをとりえる							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		専 当 科 目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
(1) 生体分子を解析する手法							
【分光分析法】			機器分析 物理化学実習	薬局方概論			
1) 紫外可視吸光度測定法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。							
2) 蛍光光度法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。							
3) 赤外・ラマン分光スペクトルの原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。			機器分析				
4) 電子スピン共鳴 (ESR) スペクトル測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。							
5) 旋光度測定法 (旋光分散)、円偏光二色性測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。			機器分析 物理化学実習				
6) 代表的な生体分子 (核酸、タンパク質) の紫外および蛍光スペクトルを測定し、構造上の特徴と関連付けて説明できる。(知識・技能)			機器分析				
【核磁気共鳴スペクトル】							
1) 核磁気共鳴スペクトル測定法の原理を説明できる。			機器分析				
2) 生体分子の解析への核磁気共鳴スペクトル測定法の応用例について説明できる。							
【質量分析】							
1) 質量分析法の原理を説明できる。			機器分析				
2) 生体分子の解析への質量分析の応用例について説明できる。							
【X線結晶解析】							
1) X線結晶解析の原理を概説できる。			機器分析				医薬開発特論Ⅲ
2) 生体分子の解析へのX線結晶解析の応用例について説明できる。							
【相互作用の解析法】							
1) 生体分子間相互作用の解析法を概説できる。			機器分析				医薬開発特論Ⅲ
(2) 生体分子の立体構造と相互作用							
【立体構造】							
1) 生体分子 (タンパク質、核酸、脂質など) の立体構造を概説できる。							
2) タンパク質の立体構造の自由度について概説できる。							
3) タンパク質の立体構造を規定する因子 (疎水性相互作用、静電相互作用、水素結合など) について、具体例を用いて説明できる。			機器分析				医薬開発特論Ⅲ
4) タンパク質の折りたたみ過程について概説できる。							
5) 核酸の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。							
6) 生体膜の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。							
【相互作用】							
1) 鍵と鍵穴モデルおよび誘導適合モデルについて、具体例を挙げて説明できる。							
2) 転写・翻訳、シグナル伝達における代表的な生体分子間相互作用について、具体例を挙げて説明できる。			機器分析				医薬開発特論Ⅲ
3) 脂質の水中における分子集合構造 (膜、ミセル、膜タンパク質など) について説明できる。							
4) 生体高分子と医薬品の相互作用における立体構造的要因の重要性を、具体例を挙げて説明できる。							
04 化学物質の性質と反応							
(1) 化学物質の基本的性質							
【基本事項】							
1) 基本的な化合物を命名し、ルイス構造式で書くことができる。			基礎有機化学Ⅰ				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 薬学領域で用いられる代表的化合物を慣用名で記述できる。						
3) 有機化合物の性質に及ぼす共鳴の影響について説明できる。						
4) 有機反応における結合の開裂と生成の様式について説明できる。		有機化学 I				
5) 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離、転位) の特徴を概説できる。						
6) ルイス酸・塩基を定義することができる。						
7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルバニオン、ラジカル、カルベン) の構造と性質を説明できる。		有機化学 I				
8) 反応の進行を、エネルギー図を用いて説明できる。						
9) 有機反応を、電子の動きを示す矢印を用いて説明できる。						
【有機化合物の立体構造】						
1) 構造異性体と立体異性体について説明できる。						
2) キラリティーと光学活性を概説できる。						
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。						
4) ラセミ体とメソ化合物について説明できる。						
5) 絶対配置の表示法を説明できる。						
6) Fischer投影式とNewman投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。						
7) エタンおよびブタンの立体配座と安定性について説明できる。						
【無機化合物】						
1) 代表的な典型元素を列挙し、その特徴を説明できる。						
2) 代表的な遷移元素を列挙し、その特徴を説明できる。						
3) 窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。						
4) イオウ、リン、ハロゲンの酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。						
5) 代表的な無機医薬品を列挙できる。			薬局方概論			
【錯体】						
1) 代表的な錯体の名称、構造、基本的性質を説明できる。						
2) 配位結合を説明できる。						
3) 代表的なドナー原子、配位基、キレート試薬を列挙できる。						
4) 錯体の安定度定数について説明できる。						
5) 錯体の安定性に与える配位子の構造的要素 (キレート効果) について説明できる。						
6) 錯体の反応性について説明できる。						
7) 医薬品として用いられる代表的な錯体を列挙できる。						
(2) 有機化合物の習格						
【アルカン】						
1) 基本的な炭化水素およびアルキル基を IUPACの規則に従って命名することができる。						
2) アルカンの基本的な物性について説明できる。						
3) アルカンの構造異性体を図示し、その数を示すことができる。						
4) シクロアルカンの環の歪みを決定する要因について説明できる。						
5) シクロヘキサンのいす形配座と舟形配座を図示できる。						

	専 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
6) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクワトリアル) を図示できる。	基礎有機化学 I					
7) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。						
【アルケン・アルキンの反応性】						
1) アルケンへの代表的なシン型付加反応を列挙し、反応機構を説明できる。						
2) アルケンへの臭素の付加反応の機構を図示し、反応の立体特異性 (Markovnikov 則) を説明できる。	基礎有機化学 II					
3) アルケンへのハロゲン化水素の付加反応の位置選択性 (Markovnikov 則) について説明できる。						
4) カルボカチオンの級数と安定性について説明できる。						
5) 共役ジエンへのハロゲンの付加反応の特徴について説明できる。	有機化学 I					
6) アルケンの酸化的開裂反応を列挙し、構造解析への応用について説明できる。						
7) アルキンの代表的な反応を列挙し、説明できる。						
【芳香族化合物の反応性】						
1) 代表的な芳香族化合物を列挙し、その物性と反応性を説明できる。		有機化学 I				
2) 芳香族性 (Hückel 則) の概念を説明できる。		有機化学実習 I				
3) 芳香族化合物の求電子置換反応の機構を説明できる。						
4) 芳香族化合物の求電子置換反応の反応性および配向性に及ぼす置換基の効果を説明できる。		有機化学 I				
5) 芳香族化合物の代表的な求核置換反応について説明できる。						
(3) 官能基						
【概説】						
1) 代表的な官能基を列挙し、個々の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。	基礎有機化学 I					
2) 複数の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。						
3) 生体内高分子と薬物の相互作用における各官能基の役割を説明できる。			医薬品化学 I 医薬品化学 II			
4) 代表的な官能基の定性試験を実施できる。(技能)						
5) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)		有機化学実習 I				
6) 日常生活で用いられる化学物質を官能基別に列挙できる。		有機化学 II				
【有機ハロゲン化合物】						
1) 有機ハロゲン化合物の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
2) 求核置換反応 (S _N 1および S _N 2反応) の機構について、立体化学を含めて説明できる。	基礎有機化学 II					
3) ハロゲン化アルキルの脱ハロゲン化水素の機構を図示し、反応の位置選択性 (Saytzeff則) を説明できる。						
【アルコール・フェノール・チオール】						
1) アルコール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	基礎有機化学 II					
2) フェノール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
3) フェノール類、チオール類の抗酸化作用について説明できる。	基礎有機化学 II	有機化学 I				
【エーテル】						
1) エーテル類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
2) オキシラン類の開環反応における立体特異性と位置選択性を説明できる。						
【アルデヒド・ケトン・カルボン酸】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目										
		1年	2年	3年	4年	5年	6年					
1) アルデヒド類およびケトン類の性質と、代表的な求核付加反応を列挙し、説明できる。	基礎化学実習	有機化学 I 有機化学 II 有機化学実習 I	有機化学 I 有機化学 II 有機化学実習 I	有機化学実習 II								
								有機化学 II 有機化学実習 I	有機化学実習 II			
2) カルボン酸の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。												
3) カルボン酸誘導体 (酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド、ニトリル) の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。												
【アミン】												
1) アミン類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学 II 有機化学実習 I	有機化学実習 II									
2) 代表的な生体内アミンを列挙し、構造式を書くことができる。		生物有機化学										
【官能基の酸性度・塩基性】												
1) アルコール、チオール、フェノール、カルボン酸などの酸性度を比較して説明できる。	基礎有機化学 I	有機化学 I 有機化学 II 有機化学実習 I	有機化学 I 有機化学 II 有機化学実習 I									
2) アルコール、フェノール、カルボン酸、およびその誘導体の酸性度に影響を及ぼす因子を列挙し、説明できる。								有機化学 II				
3) 含窒素化合物の塩基性を説明できる。												
(4) 化学物質の構造決定												
【総論】												
1) 化学物質の構造決定に用いられる機器分析法の特徴を説明できる。		機器分析	天然物化学 天然物化学実習									
【¹H NMR】												
1) NMRスペクトルの概要と測定法を説明できる。		機器分析	天然物化学									
2) 化学シフトに及ぼす構造的要因を説明できる。												
3) 有機化合物中の代表的な水素原子について、おおよその化学シフト値を示すことができる。												
4) 重水添加による重水置換の方法と原理を説明できる。												
5) ¹ H NMRの積分値の意味を説明できる。												
6) ¹ H NMRシグナルが近接プロトンにより分裂 (カップリング) する理由と、分裂様式を説明できる。												
7) ¹ H NMRのスピニング結合定数から得られる情報を説明できる。												
8) 代表的な化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。(技能)												
【¹³C NMR】												
1) ¹³ C NMRの測定により得られる情報の概略を説明できる。		機器分析	天然物化学									
2) 代表的な構造中の炭素について、おおよその化学シフト値を示すことができる。												
【IRスペクトル】												
1) IRスペクトルの概要と測定法を説明できる。		機器分析	天然物化学									
2) IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)												
【紫外可視吸収スペクトル】												
1) 化学物質の構造決定における紫外可視吸収スペクトルの役割を説明できる。		機器分析										
【マススペクトル】												
1) マススペクトルの概要と測定法を説明できる。		機器分析										
2) イオン化の方法を列挙し、それらの特徴を説明できる。												
3) ピークの種類 (基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク) を説明できる。		機器分析	天然物化学									
4) 塩素原子や臭素原子を含む化合物のマススペクトルの特徴を説明できる。												

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
5)	代表的なフラグメントレーションについて概説できる。					
6)	高分解能マスマスベクトルにおける分子式の決定法を説明できる。		天然物化学			
7)	基本的な化合物のマスマスベクトルを解析できる。(技能)					
【比旋光度】						
1)	比旋光度測定法の概略を説明できる。					
2)	実測値を用いて比旋光度を計算できる。(技能)					
3)	比旋光度と絶対配置の関係を説明できる。					
4)	旋光分散と円二色性について、原理の概略と用途を説明できる。					
【総合演習】						
1)	代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる。(技能)			有機化学実習 II		
05 ターゲット分子の合成						
(1) 官能基の導入・変換						
1)	アルケンの代表的な合成法について説明できる。	基礎有機化学 II				
2)	アルキンの代表的な合成法について説明できる。					
3)	有機ハロゲン化合物の代表的な合成法について説明できる。					
4)	アルコールの代表的な合成法について説明できる。		有機化学 I			
5)	フェノールの代表的な合成法について説明できる。					
6)	エーテルの代表的な合成法について説明できる。					
7)	アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる。		有機化学 I 有機化学 II			
8)	カルボン酸の代表的な合成法について説明できる。					
9)	カルボン酸誘導体(エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物)の代表的な合成法について説明できる。		有機化学 II			
10)	アミンの代表的な合成法について説明できる。					
11)	代表的な官能基選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。					
12)	代表的な官能基を他の官能基に変換できる。(技能)					
(2) 複雑な化合物の合成						
【医薬骨格の構築法】						
1)	Diels-Alder反応の特徴を具体例を用いて説明できる。					
2)	転位反応を用いた代表的な医薬骨格の構築法を列挙できる。		有機化学 I			
3)	代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係を説明できる。	基礎化学実習	有機化学 II			
4)	代表的な炭素-炭素結合生成反応(アルドール反応、マロン酸エステル合成、Aldol縮合、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など)について概説できる。		有機化学 I 有機化学 II			
【位置および立体選択性】						
1)	代表的な位置選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。	基礎化学実習	有機化学 I			
2)	代表的な立体選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。	基礎有機化学 II 基礎化学実習				
【保護基】						
1)	官能基毎に代表的な保護基を列挙し、その応用例を説明できる。	基礎化学実習	有機化学 I			
【光学活性化合物】						
1)	光学活性化合物を得るための代表的な手法(光学分割、不斉合成など)を説明できる。	基礎有機化学 I 基礎化学実習				

		専 当 科 目				
		1年	2年	3年	4年	5年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
【総合演習】						
1)	課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。(知識・技能)	有機化学II				
2)	課題として与えられた医薬品を合成できる。(技能)	有機化学実習II				
3)	反応廃液を適切に処理する。(技能・態度)	分析化学実習				
06 生体分子・医薬品を化学で理解する						
(1) 生体分子のコアとパーツ						
【生体分子の化学構造】						
1)	タンパク質の高次構造を規定する結合 (アミド基間の水素結合、ジスルフィド結合など) および相互作用について説明できる。	細胞構成分子	医薬品化学I			
2)	糖類および多糖類の基本構造を概説できる。	生物有機化学				
3)	糖とタンパク質の代表的な結合様式を示すことができる。					
4)	核酸の立体構造を規定する化学結合、相互作用について説明できる。					
5)	生体膜を構成する脂質の化学構造の特徴を説明できる。					
【生体内で機能する複素環】						
1)	生体内に存在する代表的な複素環化合物を列挙し、構造式を書くことができる。	有機化学I 生物有機化学				
2)	核酸塩基の構造を書き、水素結合を形成する位置を示すことができる。	生物有機化学				
3)	複素環を含む代表的な補酵素 (フラビン、NAD、チアミン、ピリドキサール、葉酸など) の機能を化学反応性と関連させて説明できる。	生物有機化学 生体エネルギー				
【生体内で機能する糖体・無機化合物】						
1)	生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能について説明できる。	生物有機化学 生体エネルギー				
2)	活性酸素の構造、電子配置と性質を説明できる。	生物有機化学				
3)	一酸化窒素の電子配置と性質を説明できる。					
【化学から観る生体ダイナミクス】						
1)	代表的な酵素の基質結合部位が有する構造上の特徴を具体例を挙げて説明できる。	細胞構成分子				
2)	代表的な酵素 (キモトリプシン、リボヌクレアーゼなど) の作用機構を分子レベルで説明できる。					
3)	タンパク質リン酸化におけるATPの役割を化学的に説明できる。					
(2) 医薬品のコアとパーツ						
【医薬品のコアポネント】						
1)	代表的な医薬品のコア構造 (ファーマコフォア) を指摘し、分類できる。			医薬品化学I		
2)	医薬品に含まれる代表的な官能基を、その性質によって分類し、医薬品の効果と結びつけて説明できる。					
【医薬品に含まれる複素環】						
1)	医薬品として複素環化合物が薬用される概観を説明できる。			医薬品化学I		
2)	医薬品に含まれる代表的な複素環化合物を指摘し、分類することができる。	有機化学I				
3)	代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。					
4)	代表的な芳香族複素環の求電子試薬に対する反応性および配向性について説明できる。					
5)	代表的な芳香族複素環の求核試薬に対する反応性および配向性について説明できる。					
【医薬品と生体高分子】						
1)	生体高分子と非共有結合的に相互作用しうる官能基を列挙できる。			医薬品化学I		
2)	生体高分子と共有結合で相互作用しうる官能基を列挙できる。					

		専 当 科 目				
		1年	2年	3年	4年	5年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		基礎有機化学 I				
3) 分子模型、コンピュータソフトウェアなどを用いて化学物質の立体構造をシミュレートできる。 (知識・技能)						
【生体分子を模倣した医薬品】						
1) カテコールアミンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			医薬品化学 II			
2) アセチルコリンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
3) ステロイドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
4) 核酸アナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			医薬品化学 I			
5) ペプチドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			医薬品化学 II			
【生体内分子と反応する医薬品】						
1) アルキル化剤とDNA塩基の反応を説明できる。			医薬品化学 I			
2) インターカレーター的作用機序を図示し、説明できる。			医薬品化学 II			
3) β-ラクタムを持つ医薬品の作用機序を化学的に説明できる。			医薬品化学 II			
C7 自然が生み出す薬物						
(1) 薬になる動植物						
【生薬とは何か】						
1) 代表的な生薬を列挙し、その特徴を説明できる。		生薬学 I	生薬学実習		漢方処方	
2) 生薬の歴史について概説できる。		生薬学 II	天然物化学			
3) 生薬の生産と流通について概説できる。		生薬学 I				
【薬用植物】						
1) 代表的な薬用植物の形態を観察する。(技能)			生薬学実習			
2) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを列挙できる。						
3) 代表的な生薬の産地と基原植物の関係について、具体例を挙げて説明できる。		生薬学 I				
4) 代表的な薬用植物を形態が似ている植物と区別できる。(技能)						
5) 代表的な薬用植物に含有される薬効成分を説明できる。			生薬学実習			
【植物以外の医薬資源】						
1) 動物、鉱物由来の医薬品について具体例を挙げて説明できる。		生薬学 II				
【生薬成分の構造と生合成】						
1) 代表的な生薬成分を化学構造から分類し、それらの生合成経路を概説できる。		生薬学 II				
2) 代表的なテルペノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
3) 代表的な強心配糖体の構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
4) 代表的なアルカロイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
5) 代表的なフラボノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
6) 代表的なフェニルプロパノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
7) 代表的なポリケチドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
【農業、化粧品としての利用】						
1) 天然物質の農業、化粧品などの原料としての有用性について、具体例を挙げて説明できる。						
【生薬の同定と品質評価】						
					化粧品	

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
1) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。						
2) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)			生薬学実習			
3) 代表的な生薬の確認試験を実施できる。(技能)						
4) 代表的な生薬の純度試験を実施できる。(技能)						
5) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。						
(2) 薬の宝庫としての天然物						
【シーズの探索】						
1) 医薬品として使われている天然有機化合物およびその誘導体を、具体例を挙げて説明できる。		生薬学 I	天然物化学 天然物化学実習			
2) シーズの探索に貢献してきた伝統医学、民族植物学を例示して概説できる。						
3) 医薬原料としての天然物質の資源確保に関して問題点を列挙できる。						
【天然物質の取扱い】						
1) 天然物質の代表的な抽出法、分離精製法を列挙し、実施できる。(技能)						漢方処方
2) 代表的な天然有機化合物の構造決定法について具体例を挙げて概説できる。			天然物化学			
【微生物が生み出す医薬品】						
1) 抗生物質とは何かを説明し、化学構造に基づいて分類できる。		感染制御学				
【発酵による医薬品の生産】						
1) 微生物による抗生物質(ペニシリン、ストレプトマイシンなど)生産の過程を概説できる。		感染制御学				
【発酵による有用物質の生産】						
1) 微生物の生産する代表的な糖質、酵素を列挙し、利用法を説明できる。				バイオテクノロジー		
(3) 現代医療の中の生薬・漢方薬						
【漢方医学の基礎】						
1) 漢方医学の特徴について概説できる。						漢方処方
2) 漢方薬と民間薬、代替医療との相違について説明できる。						
3) 漢方薬と西洋薬の基本的な利用法の違いを概説できる。						
4) 漢方処方と「証」との関係について概説できる。						
5) 代表的な漢方処方の適応症と配合生薬を説明できる。		生薬学 II				漢方処方
6) 漢方処方に配合されている代表的な生薬を例示し、その有効成分を説明できる。			生薬学実習			
7) 漢方エキス製剤の特徴を煎液と比較して列挙できる。						
【漢方処方の応用】						
1) 代表的な疾患に用いられる生薬及び漢方処方の応用、使用上の注意について概説できる。		生薬学 II				漢方処方
2) 漢方薬の代表的な副作用や注意事項を説明できる。						
【生物系薬学を学ぶ】						
08 生命体の成り立ち						
(1) ヒトの成り立ち						
【概論】						
1) ヒトの身体を構成する臓器の名称、形態および体内での位置を説明できる。	解剖学 生体機能調節と活性 分子 I					
2) ヒトの身体を構成する各臓器の役割分担について概説できる。						
【神経系】						
1) 中枢神経系の構成と機能の概要を説明できる。	解剖学 生体機能調節と活性 分子 I					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
	敵 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
2) 体性神経系の構成と機能の概要を説明できる。	解剖学 生体機能調節と活性 分子 1					
3) 自律神経系の構成と機能の概要を説明できる。						
【骨格系・筋肉系】						
1) 主な骨と関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	解剖学 生体機能調節と活性 分子 1					
2) 主な骨格筋の名称を挙げ、位置を示すことができる。						
【皮膚】						
1) 皮膚について機能と構造を関連づけて説明できる。	解剖学 生体機能調節と活性 分子 1					
【循環器系】						
1) 心臓について機能と構造を関連づけて説明できる。	解剖学 生体機能調節と活性 分子 1					
2) 血管系について機能と構造を関連づけて説明できる。						
3) リンパ系について機能と構造を関連づけて説明できる。						
【呼吸器系】						
1) 肺、気管支について機能と構造を関連づけて説明できる。	解剖学 生体機能調節と活性 分子 1					
【消化器系】						
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について機能と構造を関連づけて説明できる。	解剖学 生体機能調節と活性 分子 1					
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について機能と構造を関連づけて説明できる。						
【泌尿器系】						
1) 腎臓、膀胱などの泌尿器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	解剖学 生体機能調節と活性 分子 1					
【生殖器系】						
1) 精巣、卵巣、子宮などの生殖系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	解剖学 生体機能調節と活性 分子 1					
【内分泌系】						
1) 脳下垂体、甲状腺、副腎などの内分泌系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	解剖学 生体機能調節と活性 分子 1					
【感覚器系】						
1) 眼、耳、鼻などの感覚器について機能と構造を関連づけて説明できる。	解剖学 生体機能調節と活性 分子 1					
【血液・造血器系】						
1) 骨髄、脾臓、胸腺などの血液・造血系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	解剖学 生体機能調節と活性 分子 1					
(2) 生命体の基本単位としての細胞						
【細胞と組織】						
1) 細胞集合による組織構築について説明できる。						
2) 臓器、組織を構成する代表的な細胞の種類を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。						
3) 代表的な細胞および組織を顕微鏡を用いて観察できる。(技能)						
【細胞膜】						
1) 細胞膜の構造と性質について説明できる。				細胞の機能		新興感染症
				細胞の機能		新興感染症

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 細胞膜を構成する代表的な生体分子を列挙し、その機能を説明できる。		細胞の機能				
3) 細胞膜を介した物質移動について説明できる。						新興感染症
【細胞内小器官】						
1) 細胞内小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)の構造と機能を説明できる。		細胞の機能				
【細胞の分裂と死】						
1) 体細胞分裂の機構について説明できる。		細胞の機能 遺伝子				
2) 生殖細胞の分裂機構について説明できる。						
3) アポトーシスとネクローシスについて説明できる。		細胞の機能 細胞の機能 遺伝子				
4) 正常細胞とがん細胞の違いを対比して説明できる。						
【細胞間コミュニケーション】						
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。		細胞の機能				
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類、分布、性質を説明できる。						
(3) 生体の機能調節						
【神経・筋の調節機構】						
1) 神経系の興奮と伝導の調節機構を説明できる。	解剖学 生体機能調節と活性 分子1					
2) シナプス伝達の調節機構を説明できる。						
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。						
4) 筋収縮の調節機構を説明できる。						
【ホルモンによる調節機構】						
1) 主要なホルモンの分泌機構および作用機構を説明できる。	生体機能調節と活性 分子1					
2) 血糖の調節機構を説明できる。						
【循環・呼吸系の調節機構】						
1) 血圧の調節機構を説明できる。	解剖学 生体機能調節と活性 分子1					
2) 肺および組織におけるガス交換を説明できる。						
3) 血液凝固・線溶系の機構を説明できる。						
【体液の調節機構】						
1) 体液の調節機構を説明できる。	生体機能調節と活性 分子1					
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構を説明できる。						
【消化・吸収の調節機構】						
1) 消化、吸収における神経の役割について説明できる。	解剖学 生体機能調節と活性 分子1					
2) 消化、吸収におけるホルモンの役割について説明できる。						
【体温の調節機構】						
1) 体温の調節機構を説明できる。	生体機能調節と活性 分子1					
(4) 小さな生き物たち						
【総論】						
1) 生態系の中で微生物の役割について説明できる。						
2) 原核生物と真核生物の違いを説明できる。		微生物学				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【細菌】						
1) 細菌の構造と増殖機構を説明できる。						
2) 細菌の系統的分類について説明でき、主な細菌を列挙できる。						
3) グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌の違いを説明できる。		微生物学				
4) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、スピロヘータ、放線菌についてその特性を説明できる。						
5) 腸内細菌の役割について説明できる。						
6) 細菌の遺伝子伝達 (接合、形質導入、形質転換) について説明できる。						
【細菌毒素】						
1) 代表的な細菌毒素の作用を説明できる。		微生物学				
【ウイルス】						
1) 代表的なウイルスの構造と増殖過程を説明できる。						
2) ウイルスの分類法について概説できる。		微生物学				
3) 代表的な動物ウイルスの培養法、定量法について説明できる。						
【真菌・原虫・その他の微生物】						
1) 主な真菌の性状について説明できる。		微生物学				
2) 主な原虫、寄生虫の生活史について説明できる。						
【消毒と滅菌】						
1) 滅菌、消毒、防腐および殺菌、精菌の概念を説明できる。						
2) 主な消毒薬を適切に使用する。(技能・態度) (OSCEの対象)		微生物実習				
3) 主な滅菌法を実施できる。(技能) (OSCEの対象)						
【検出方法】						
1) グラム染色を実施できる。(技能)						
2) 無菌操作を実施できる。(技能)						
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)		微生物実習				
4) 細菌の同定に用いる代表的な試験法 (生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験) について説明できる。						
5) 代表的な細菌を同定できる。(技能)						
09 生命をミクロに理解する						
(1) 細胞を構成する分子						
【脂質】						
1) 脂質を分類し、構造の特徴と役割を説明できる。	細胞構成分子					
2) 脂防酸の種類と役割を説明できる。						
3) 脂防酸の生合成経路を説明できる。						
4) コレステロールの生合成経路と代謝を説明できる。						
【糖質】						
1) グルコースの構造、性質、役割を説明できる。	細胞構成分子					
2) グルコース以外の代表的な単糖、および二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。						天然物化学 天然物化学実習
3) 代表的な多糖の構造と役割を説明できる。						
4) 糖質の定性および定量試験法を実施できる。(技能)						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
<p>1) 酵素反応の特性を一般的な化学反応と対比させて説明できる。</p> <p>2) 酵素を反応様式により分類し、代表的なものについて性質と役割を説明できる。</p> <p>3) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。</p> <p>4) 酵素反応速度論について説明できる。</p> <p>5) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。</p> <p>6) 代表的な酵素の活性を測定できる。(技能)</p>	細胞構成分子						
		生化学実習					
【酵素以外の機能タンパク質】							
<p>1) 細胞内外の物質や情報の授受に必要なタンパク質(受容体、チャネルなど)の構造と機能を概説できる。</p> <p>2) 物質の輸送を担うタンパク質の構造と機能を概説できる。</p> <p>3) 血漿リポタンパク質の種類と機能を概説できる。</p> <p>4) 細胞内で情報を伝達する主要なタンパク質を列挙し、その機能を概説できる。</p> <p>5) 細胞骨格を形成するタンパク質の種類と役割について概説できる。</p>	細胞構成分子						
【タンパク質の取扱い】							
<p>1) タンパク質の定性、定量試験法を実施できる。(技能)</p> <p>2) タンパク質の分離、精製と分子量の測定法を説明し、実施できる。(知識・技能)</p> <p>3) タンパク質のアミノ酸配列決定法を説明できる。</p>	細胞構成分子						
(4) 生体エネルギー							
【栄養素の利用】							
<p>1) 食物中の栄養成分の消化・吸収、体内運搬について概説できる。</p>		生体エネルギー					
【ATPの産生】							
<p>1) ATPが高エネルギー化合物であることを、化学構造をもとに説明できる。</p> <p>2) 解糖系について説明できる。</p> <p>3) クエン酸回路について説明できる。</p> <p>4) 電子伝達系(酸化リン酸化)について説明できる。</p> <p>5) 脂肪酸のβ酸化反応について説明できる。</p> <p>6) アセチルCoAのエネルギー代謝における役割を説明できる。</p> <p>7) エネルギー産生におけるミトコンドリアの役割を説明できる。</p> <p>8) ATP産生阻害物質を列挙し、その阻害機構を説明できる。</p> <p>9) ペントースリン酸回路の生理的役割を説明できる。</p> <p>10) アルコール発酵、乳酸発酵の生理的役割を説明できる。</p>		生体エネルギー					
【軌跡状態と糖生状態】							
<p>1) グリコーゲンの役割について説明できる。</p> <p>2) 糖新生について説明できる。</p> <p>3) 軌跡状態のエネルギー代謝(ケトン体の利用など)について説明できる。</p> <p>4) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。</p> <p>5) 食餌性の血糖変動について説明できる。</p> <p>6) インスリンとグルカゴンの役割を説明できる。</p> <p>7) 糖から脂肪酸への合成経路を説明できる。</p>		生体エネルギー					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		敵 当 科 目				
		1年	2年	3年	4年	5年
8) ケト原性アミノ酸と糖原性アミノ酸について説明できる。		生体エネルギー				
(5) 生理活性分子とシグナル分子						
【ホルモン】						
1) 代表的なペプチドホルモンを挙げ、その産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。						
2) 代表的なアミノ酸誘導体ホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。		生体機能調節と活性分子II				
3) 代表的なステロイドホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。						
4) 代表的なホルモン異常による疾患を挙げ、その病態を説明できる。						
【オートコイドなど】						
1) エイコサノイドとはどのようなものか説明できる。						
2) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生合成経路を説明できる。						
3) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生理的意義 (生理活性) を説明できる。		生体機能調節と活性分子II				
4) 主な生理活性アミン (セロトニン、ヒスタミンなど) の生合成と役割について説明できる。						
5) 主な生理活性ペプチド (アンギオテンジン、ブラジキニンなど) の役割について説明できる。						
6) 一酸化窒素の生合成経路と生体内での役割を説明できる。						
【神経伝達物質】						
1) モノアミン系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
2) アミノ酸系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。		生体機能調節と活性分子II				
3) ペプチド系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
4) アセチルコリンの生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
【サイトカイン・増殖因子・ケモカイン】						
1) 代表的なサイトカインを挙げ、それらの役割を概説できる。		生体機能調節と活性分子II				
2) 代表的な増殖因子を挙げ、それらの役割を概説できる。						
3) 代表的なケモカインを挙げ、それらの役割を概説できる。						
【細胞内情報伝達】						
1) 細胞内情報伝達に關与するセカンドメッセンジャーおよびカルシウムイオンなどを、具体例を挙げ説明できる。		細胞の機能生体機能調節と活性分子II				
2) 細胞膜受容体からタンパク系を介して細胞内へ情報を伝達する主な経路について概説できる。						
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介して情報を伝達する主な経路について概説できる。						
4) 代表的な細胞内 (核内) 受容体の具体例を挙げて説明できる。						
(6) 遺伝子を操作する						
【遺伝子操作の基本】						
1) 組換えDNA技術の概要を説明できる。						
2) 細胞からDNAを抽出できる。 (技能)						バイオテクノロジー
3) DNAを制限酵素により切断し、電気泳動法により分離できる。 (技能)		生化学実習				
4) 組換えDNA実験指針を理解し守る。 (態度)						
5) 遺伝子取扱いに関する安全性と倫理について配慮する。 (態度)						バイオテクノロジー
【遺伝子のクローニング技術】						
1) 遺伝子クローニング法の概要を説明できる。						バイオテクノロジー

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
2) cDNAとゲノミックDNAの違いについて説明できる。						
3) 遺伝子ライブラリーについて説明できる。			バイオテクノロジー			
4) PCR法による遺伝子増幅の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)		生化学実習				
5) RNAの逆転写と逆転写酵素について説明できる。			バイオテクノロジー			
6) DNA塩基配列の決定法を説明できる。		生化学実習				
7) コンピューターを用いて特徴的な塩基配列を検索できる。(技能)						
【遺伝子機能の解析技術】						
1) 細胞(組織)における特定のDNAおよびRNAを検出する方法を説明できる。						
2) 外来遺伝子を細胞中で発現させる方法を概説できる。			バイオテクノロジー			
3) 特定の遺伝子を導入した動物、あるいは特定の遺伝子を破壊した動物の作成法を概説できる。						
4) 遺伝子工学の医療分野での応用について例を挙げて説明できる。						
C10 生体防御						
(1) 身体をまもる						
【生体防御反応】						
1) 自然免疫と獲得免疫の特徴とその違いを説明できる。						
2) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアーについて説明できる。			免疫学			新興感染症
3) 補体について、その活性化経路と機能を説明できる。						
4) 免疫反応の特徴(自己と非自己、特異性、記憶)を説明できる。						
5) クローン選択説を説明できる。						
6) 体液性免疫と細胞性免疫を比較して説明できる。						
【免疫を担当する組織・細胞】						
1) 免疫に関与する組織と細胞を列挙できる。						
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。			免疫学			新興感染症
3) 食細胞が自然免疫で果たす役割を説明できる。						
4) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。						
【分子レベルで見た免疫のしくみ】						
1) 抗体分子の種類、構造、役割を説明できる。						
2) T細胞の構造と機能および抗原提示経路での役割について説明できる。						
3) T細胞による抗原の認識について説明できる。						
4) 抗体分子および細胞抗原受容体の多様性を生み出す機構(遺伝子再構成)を概説できる。			免疫学			新興感染症
5) 免疫系に関わる主なサイトカイン、ケモカインを挙げ、その作用を説明できる。						
(2) 免疫系の機能・免疫系の応用						
【免疫系が関与する疾患】						
1) アレルギーについて分類し、担当細胞および反応機構を説明できる。						
2) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。			免疫学			新興感染症
3) 代表的な自己免疫疾患の特徴と成因について説明できる。						
4) 代表的な免疫不全症候群を挙げ、その特徴と成因を説明できる。						
【免疫応答のコントロール】						
1) 臓器移植と免疫反応の関わり(拒絶反応、免疫抑制剤など)について説明できる。			免疫学			新興感染症

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 細菌、ウイルス、寄生虫などの感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。			免疫学			新興感染症
3) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。						
4) 代表的な免疫賦活療法について概説できる。						
【予防接種】						
1) 予防接種の原理とワクチンについて説明できる。			免疫学			新興感染症
2) 主なワクチン(生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチン) について基本的特徴を説明できる。						
3) 予防接種について、その種類と実施状況を説明できる。						
【免疫反応の利用】						
1) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の作製方法を説明できる。			免疫学			新興感染症
2) 抗原抗体反応を利用した代表的な検査方法の原理を説明できる。						
3) 沈降、凝集反応を利用して抗原を検出できる。(技能)						
4) ELISA法、ウエスタンブロット法などを用いて抗原を検出、判定できる。(技能)						
(3) 感染症にかかると						
【代表的な感染症】						
1) 主なDNAウイルス (Δサイトメガロウイルス、ΔEBウイルス、ヒトヘルペスウイルス、Δアデノウイルス、ΔパルボウイルスB19、B型肝炎ウイルス) が引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
2) 主なRNAウイルス (Δポリオウイルス、Δコクサッキーウイルス、Δエコーウイルス、Δライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、Δ麻疹ウイルス、Δムンプスウイルス) が引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
3) レトロウイルス (HIV、HTLV) が引き起こす疾患について概説できる。						
4) グラム陰性球菌 (ブドウ球菌、レンサ球菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
5) グラム陰性球菌 (淋菌、Δ髄膜炎菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
6) グラム陽性球菌 (破傷風菌、Δガス壊疽菌、ボツリヌス菌、Δジフテリア菌、Δ炭疽菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
7) グラム陰性桿菌 (大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、Δチフス菌、Δペスト菌、コレラ菌、Δ百日咳菌、肺炎ヒプトオ菌、緑膿菌、Δフルセラ菌、レジオネラ菌、Δインフルエンザ菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。			免疫学			新興感染症
8) グラム陰性スピリルム属病原菌 (ヘリコバクター・ピロリ菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
9) 抗酸菌 (結核菌、非定型抗酸菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
10) スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
11) 真菌 (アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、Δムコール) の微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
12) 代表的な原虫、寄生虫の代表的な疾患について概説できる。						
13) プリオア感染症の病原体の特徴と発症機序について概説できる。						
【感染症の予防】						
1) 院内感染について、発生要因、感染経路、原因微生物、およびその防止対策を概説できる。			免疫学			新興感染症
【健康と環境】						
C11 健康						
(1) 栄養と健康						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【栄養素】			食品衛生学 衛生化学実習			
1) 栄養素 (三大栄養素、ビタミン、ミネラル) を列挙し、それぞれの役割について説明できる。			食品衛生学 衛生化学実習			
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。			食品衛生学 衛生化学実習			
3) 脂質の体内運搬における血漿リポタンパク質の栄養学的意義を説明できる。			食品衛生学 衛生化学実習			
4) 食品中のタンパク質の栄養的な価値 (栄養価) を説明できる。			食品衛生学			
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、エネルギー所要量の意味を説明できる。			食品衛生学 衛生化学実習			
6) 栄養素の栄養所要量の意義について説明できる。						
7) 日本における栄養摂取の現状と問題点について説明できる。						
8) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。						
【食品の品質と管理】						
1) 食品が腐敗する機構について説明できる。			食品衛生学			
2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)			食品衛生学 衛生化学実習			
3) 食品の腐敗を引き起こす主な反応とその機構を説明できる。			食品衛生学			
4) 食品の変質を防ぐ方法 (保存法) を説明できる。						
5) 食品成分由来の発がん物質を列挙し、その生成機構を説明できる。						
6) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。						
7) 食品添加物の法的規制と問題点について説明できる。						
8) 主な食品添加物の試験法を実施できる。(技能)						
9) 代表的な保藏機能食品を列挙し、その特徴を説明できる。			食品衛生学 衛生化学実習			
10) 遺伝子組換え食品の現状を説明し、その問題点について討議する。(知識・態度)						
【食中毒】						
1) 食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。			食品衛生学 天然物化学実習 衛生化学実習			
2) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。			食品衛生学 天然物化学実習			
3) 食中毒の原因となる自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。						
4) 代表的なマイコトキシンを列挙し、それによる健康障害について概説できる。			食品衛生学 天然物化学 天然物化学実習			
5) 化学物質 (重金属、残留農薬など) による食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。						
(2) 社会・集団と健康						
【保健統計】						
1) 集団の健康と疾病の現状を把握する上での人口統計の意義を概説できる。			社会と健康			
2) 人口動態と人口動態について説明できる。						
3) 国勢調査の目的と意義を説明できる。						
4) 死亡に関する様々な指標の定義と意義について説明できる。						
5) 人口の将来予測に必要な指標を列挙し、その意義について説明できる。						
【健康と疾病をめぐる日本の現状】						
1) 死因別死亡率の変遷について説明できる。			社会と健康			
2) 日本における人口の推移と将来予測について説明できる。						

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)			社会と健康			
3) 高齢化と少子化によりもたらされる問題点を列挙し、討議する。(知識・態度)						
【疫学】						
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。						
2) 疫学の三要因(病因、環境要因、宿主要因)について説明できる。						
3) 疫学の種類(記述疫学、分析疫学など)とその方法について説明できる。						
4) 患者・対照研究の方法の概要を説明し、オッズ比を計算できる。(知識・技能)			社会と健康			
5) 要因・対照研究(コホート研究)の方法の概要を説明し、相対危険度、寄与危険度を計算できる。(知識・技能)						
6) 医薬品の作用・副作用の調査における疫学的手法の有用性を概説できる。						
7) 疫学データを解釈する上での注意点を列挙できる。						
(3) 疾病の予防						
【健康とは】						
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。			社会と健康			新興感染症
2) 世界保健機構(WHO)の役割について概説できる。						
【疾病の予防とは】						
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。						
2) 疾病の予防における予防接種の意義について説明できる。			社会と健康			新興感染症
3) 新生児マススクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。						
4) 疾病の予防における薬剤師の役割について討議する。(態度)						
【感染症の現状とその予防】						
1) 現代における感染症(日和見感染、院内感染、国際感染症など)の特徴について説明できる。						
2) 新興感染症および再興感染症について代表的な例を挙げて説明できる。						
3) 一、二、三類感染症および代表的な四類感染症を列挙し、分類の根拠を説明できる。			社会と健康			新興感染症
4) 母子感染する疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。						
5) 性行為感染症を列挙し、その予防対策と治療について説明できる。						
6) 予防接種法と結核予防法の定める定期予防接種の種類を挙げ、接種時期などを説明できる。						
【生活習慣病とその予防】						
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。						
2) 生活習慣病のリスク要因を列挙できる。						
3) 食生活と喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。			社会と健康			新興感染症
【職業病とその予防】						
1) 主な職業病を列挙し、その原因と症状を説明できる。			社会と健康			新興感染症
C12 環境						
(1) 化学物質の生体への影響						
【化学物質の代謝・代謝的活性化】						
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。						
2) 第一相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。			化学物質の毒性			
3) 第二相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。						
【化学物質による発がん】						

	専 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。						
2) 変異原性試験 (Ames試験など) の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)						
3) 発がんのイニシエーションとプロモーションについて概説できる。			化学物質の毒性			
4) 代表的ながん遺伝子とがん抑制遺伝子を挙げ、それらの異常とがん化との関連を説明できる。		遺伝子				
【化学物質の毒性】						
1) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。						
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質を列挙できる。						
3) 重金属、農薬、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。						
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。			化学物質の毒性			
5) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量 (NOAEL) などについて概説できる。						
6) 化学物質の安全摂取量 (日許容摂取量など) について説明できる。						
7) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制 (化審法など) を説明できる。						
8) 環境ホルモン (内分泌攪乱化学物質) が人の健康に及ぼす影響を説明し、その予防策を提案する。(態度)						
【化学物質による中毒と処置】						
1) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。			臨床分析 化学物質の毒性			
2) 化学物質の中毒量、作用器官、中毒症状、救急処置法、解毒法を検索することができる。(技能)			化学物質の毒性			
【電離放射線の生体への影響】						
1) 人に影響を与える電離放射線の種類を列挙できる。						
2) 電離放射線被曝における線量と生体損傷の関係を体外被曝と体内被曝に分けて説明できる。						
3) 電離放射線および放射性核種の標的臓器・組織を挙げ、その感受性の差異を説明できる。			化学物質の毒性			
4) 電離放射線の生体影響に変化を及ぼす因子 (酸素効果など) について説明できる。						
5) 電離放射線を防御する方法について概説できる。						
6) 電離放射線の医療への応用について概説できる。						
【非電離放射線の生体への影響】						
1) 非電離放射線の種類を列挙できる。						
2) 紫外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。						
3) 赤外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。						
(2) 生活環境と健康						
【地球環境と生態系】						
1) 地球環境の成り立ちについて概説できる。						
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。						
3) 人の健康と環境の関係を人が生態系の一員であることをふまえて討議する。(態度)			環境と健康			
4) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。						
5) 食物連鎖を介した化学物質の生物濃縮について具体例を挙げて説明できる。						
6) 化学物質の環境内動態と人の健康への影響について例を挙げて説明できる。						
7) 環境中に存在する主な放射性核種 (天然、人工) を挙げ、人の健康への影響について説明できる。						
			環境科学実習			
						新興感染症

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目										
		1年	2年	3年	4年	5年	6年					
【水環境】 1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。 2) 水の浄化法について説明できる。 3) 水の塩素処理の原理と問題点について説明できる。 4) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能) 5) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。 6) 水質汚濁の主な指標を水域ごとに列挙し、その意味を説明できる。 7) DO、BOD、CODを測定できる。(技能) 8) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。		環境と健康	環境科学実習				新興感染症					
	【大気環境】 1) 空気の成分を説明できる。 2) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源について説明できる。 3) 主な大気汚染物質の濃度を測定し、健康影響について説明できる。(知識・技能) 4) 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。		環境と健康	環境科学実習				新興感染症				
		【室内環境】 1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能) 2) 室内環境と健康との関係について説明できる。 3) 室内環境の保全のために配慮すべき事項について説明できる。 4) シックハウス症候群について概説できる。		環境と健康					新興感染症			
			【医薬物】 1) 医薬物の種類を列挙できる。 2) 医薬物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。 3) 医薬廃棄物を安全に廃棄、処理する。(技能・態度) 4) マニフェスト制度について説明できる。 5) PRTR法について概説できる。		環境と健康					新興感染症		
				【環境保全と法的規制】 1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。 2) 環境基本法の理念を説明できる。 3) 大気汚染を防止するための法規制について説明できる。 4) 水質汚濁を防止するための法規制について説明できる。		環境と健康					新興感染症	
					【薬と疾病】 C13 薬の効くプロセス 【薬の作用】 1) 薬物の用量と作用の関係を説明できる。 2) アゴニストとアンタゴニストについて説明できる。 3) 薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。 4) 代表的な薬物受容体を列挙し、刺激あるいは阻害された場合の生理反応を説明できる。 5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化された場合の生理反応を説明できる。		薬の作用					新興感染症

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) 薬効に個人差が生じる要因を列挙できる。						
7) 代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。		薬の作用				新興感染症
8) 薬物依存性について具体例を挙げて説明できる。						
【薬の運命】						
1) 薬物の体内動態 (吸収、分布、代謝、排泄) と薬効発現の関わりについて説明できる。			薬物動態 I			
2) 薬物の代表的な投与方法 (剤形、投与経路) を列挙し、その意義を説明できる。						
3) 経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化 (崩壊、分散、溶解など) を説明できる。						新興感染症
4) 薬物の生体内分布における循環系の重要性を説明できる。						
5) 生体内の薬物の主要な排泄経路を、例を挙げて説明できる。						
【薬の副作用】						
1) 薬物の主作用と副作用 (有害作用)、毒性との関連について説明できる。		薬の作用	医薬品化学 I			新興感染症
2) 副作用と有害事象の違いについて説明できる。						
【動物実験】						
1) 動物実験における倫理について配慮する。(態度)			薬理実習			新興感染症
2) 代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)						
3) 実験動物での代表的な薬物投与方法を実施できる。(技能)						
(2) 薬の効き方 I						
【中枢神経系に作用する薬】						
1) 代表的な全身麻酔薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
2) 代表的な催眠薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な鎮痛薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
4) 代表的な中枢神経疾患 (てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など) の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬の効き方 I			
5) 代表的な精神疾患 (統合失調症、うつ病など) の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
6) 中枢神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。			薬の効き方 I 薬理実習			
【自律神経系に作用する薬】						
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の作用	医薬品化学 II			
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能) △技能であるから OSI には馴染まない			医薬品化学 II 薬理実習			
【知覚神経系・運動神経系に作用する薬】						
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物 (局所麻酔薬など) を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の作用				
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理実習			
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能)						
【循環器系に作用する薬】						
1) 代表的な抗不整脈薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の作用	薬の効き方 I			
2) 代表的な心不全治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						

	薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 代表的な虚血性心疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の作用	薬の効き方 I			
4) 代表的な高血圧治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【呼吸器系に作用する薬】						
1) 代表的な呼吸器薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬の効き方 II			
2) 代表的な鎮咳薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な気管支喘息治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【化学構造】						
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。		薬の作用	医薬品化学 I			
(3) 薬の効き方 II						
【ホルモンと薬】						
1) ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。			薬の効き方 II			
2) 代表的な糖質コルチコイド代用薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な性ホルモン代用薬および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。						
【消化器系に作用する薬】						
1) 代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬の効き方 II			
2) その他の消化器疾患に対する代表的治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な嘔吐薬と制吐薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。						
4) 代表的な肝臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
5) 代表的な膵臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【腎に作用する薬】						
1) 利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。			薬の効き方 II			
【血液・造血器系に作用する薬】						
1) 代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			薬の効き方 I			
2) 代表的な抗血栓薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な造血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
【代謝系に作用する薬】						
1) 代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			薬の効き方 I			
2) 代表的な高脂血症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
3) 代表的な高尿酸血症・痛風治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
4) カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬をあげ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【救急・アレルギーと薬】						
1) 代表的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。			薬の効き方 II			
2) 慢性筋攣縮リウマチの代表的な治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。						
3) アレルギーの代表的な治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。						
【化学構造】						
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。			医薬品化学 I			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
(4) 薬物の臓器への到達と消失							
【吸収】				薬物動態 I	薬物送達法		新興感染症
1) 薬物の主な吸収部位を列挙できる。							
2) 消化管の構造、機能と薬物吸収の関係を説明できる。							
3) 受動拡散 (単純拡散)、促進拡散の特徴を説明できる。							
4) 能動輸送の特徴を説明できる。							
5) 非経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。							
6) 薬物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。							
【分布】				薬物動態 I			新興感染症
1) 薬物が生体内に取り込まれた後、組織間で濃度差が生じる要因を説明できる。							
2) 薬物の脳への移行について、その機構と血液-脳関門の意義を説明できる。							
3) 薬物の胎児への移行について、その機構と血液-胎盤関門の意義を説明できる。				薬物動態 I 薬物動態実習			新興感染症
4) 薬物の体液中での存在状態 (血漿タンパク結合など) を組織への移行と関連づけて説明できる。							
5) 薬物分布の変動要因 (血流量、タンパク結合性、分布容積など) について説明できる。							
6) 分布容積が著しく大きい代表的な薬物を列挙できる。							
7) 代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる。(技能)							
【代謝】				薬物動態 I			新興感染症
1) 薬物分子の体内での化学的変化とそれが起こる部位を列挙して説明できる。							
2) 薬物代謝が薬効に及ぼす影響について説明できる。				薬物動態 I 薬物動態実習			
3) 薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素を列挙できる。							
4) シトクロムP-450の構造、性質、反応様式について説明できる。							
5) 薬物の酸化反応について具体的な例を挙げて説明できる。				薬物動態 I			新興感染症
6) 薬物の還元・加水分解、抱合について具体的な例を挙げて説明できる。				薬物動態 I 薬物動態実習			
7) 薬物代謝酵素の変動要因 (誘導、阻害、加齢、SNPsなど) について説明できる。							
8) 初回通過効果について説明できる。							
9) 肝および固有クリアランスについて説明できる。							
【排泄】				薬物動態 I			新興感染症
1) 腎における排泄機構について説明できる。							
2) 腎クリアランスについて説明できる。							
3) 糸球体ろ過速度について説明できる。							
4) 胆汁中排泄について説明できる。				薬物動態 I			新興感染症
5) 腸肝循環を説明し、代表的な腸肝循環の薬物を列挙できる。							
6) 唾液・乳汁中への排泄について説明できる。							
7) 尿中排泄率の高い代表的な薬物を列挙できる。							
【相互作用】				薬物動態 I			医薬品相互作用 新興感染症
1) 薬物動態に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。							
2) 薬効に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。							
(5) 薬物動態の解析							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		専 当 科 目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【薬動学】							
1) 薬物動態に関わる代表的なパラメータを列挙し、概説できる。							
2) 薬物の生物学的利用能の意味とその計算法を説明できる。							
3) 線形1-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)							
4) 線形2-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)							
5) 線形コンパートメントモデルと非線形コンパートメントモデルの違いを説明できる。							
6) 生物学的半減期を説明し、計算できる。(知識・技能)				薬物動態 II			
7) 全身クリアランスについて説明し、計算できる。(知識・技能)							
8) 非線形性の薬物動態について具体例を挙げて説明できる。							
9) モデルによらない薬物動態の解析法を列挙し説明できる。							
10) 薬物の肝および腎クリアランスの計算ができる。(技能)							
11) 点滴静注の血中濃度計算ができる。(技能)							
12) 連続投与における血中濃度計算ができる。(技能)							
【TDM (Therapeutic Drug Monitoring)】							
1) 治療的薬物モニタリング (TDM) の意義を説明できる。				臨床分析 薬物動態 II			
2) TDMが必要とされる代表的な薬物を列挙できる。				薬物動態実習			
3) 薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる。(技能)							
4) 至適血中濃度を維持するための投与計画について、薬動学的パラメータを用いて説明できる。							
5) 代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる。(技能)				薬物動態 II			
G14 薬物治療							
(1) 体の変化を知る							
【症候】							
1) 以下の症候について、生じる原因とそれらに伴う代表的疾患を説明できる。発熱、頭痛、発疹、黄疸、チアノーゼ、脱水、浮腫、悪心・嘔吐、便秘、腹部膨満、貧血、出血傾向、胸痛、心悸亢進・動悸、高血圧、低血圧、ショック、呼吸困難、咳、口渇、月経異常、痛み、意識障害、運動障害、知覚障害、記憶障害、しびれ、けいれん、血尿、頻尿、排尿障害、視力障害、聴力障害、めまい				薬物治療 I	病態・治療実習 事前実習 I	薬物治療特論 II	在宅医療 新興感染症
【症候と臨床検査値】							
1) 代表的な肝臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						薬物治療特論 I	
2) 代表的な腎臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						薬物治療特論 I 薬物治療特論 II	
3) 代表的な呼吸機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						薬物治療特論 I	
4) 代表的な心臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						薬物治療 I 体の変化	新興感染症
5) 代表的な血液および血液凝固検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						薬物治療特論 I 薬物治療特論 II	
6) 代表的な内分泌・代謝疾患に関する検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。							
7) 感染時および炎症時に認められる代表的な臨床検査値の変動を述べることができる。							
8) 悪性腫瘍に関する代表的な臨床検査を列挙し、推測される腫瘍部位を挙げることができる。							

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
9) 尿および糞便を用いた代表的な臨床検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			薬物治療 I 体の変化	病態・治療実習 事前実習 I	薬物治療特論 I	新興感染症
10) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、その検査値の臨床的意義を説明できる。			臨床分析 薬物治療 I 体の変化		薬物治療特論 I 薬物治療特論 II	
11) 代表的なバイタルサインを列挙できる。						
(2) 疾患と薬物治療 (心臓疾患等)						
【薬物治療の位置づけ】						
1) 代表的な疾患における薬物治療と非薬物治療 (外科手術、食事療法など) の位置づけを説明できる。			薬物治療 I		薬物治療特論 I 薬物治療特論 II	新興感染症
2) 適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる。(知識・技能)						
【心臓・血管系の疾患】						
1) 心臓および血管系における代表的な疾患を挙げることができる。			薬物治療 I		薬物治療特論 I	新興感染症
2) 不整脈の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。					薬物治療特論 I 薬物治療特論 II	
3) 心不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療 I	薬物治療 II 病態・治療実習	薬物治療特論 I 薬物治療特論 II	新興感染症
4) 高血圧の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
6) 以下の疾患について概説できる。閉塞性動脈硬化症、心原性ショック					薬物治療特論 I	
【血液・造血系の疾患】						
1) 血液・造血器における代表的な疾患を挙げることができる。			薬物治療 I	薬物治療 II 薬物治療 III 病態・治療実習	薬物治療特論 I	在宅医療 新興感染症
2) 貧血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物治療 II 薬物治療 III		
3) 白血病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 播種性血管内凝固症候群 (DIC) の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 以下の疾患について概説できる。血小板病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓						
【消化器系疾患】						
1) 消化器系の部位別 (食道、胃・十二指腸、小腸・大腸、胆道、肝臓、膵臓) に代表的な疾患を挙げるができる。			薬物治療 I		薬物治療特論 I	新興感染症
2) 消化性潰瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療 I	薬物治療 II 病態・治療実習	薬物治療特論 I	新興感染症
4) 肝炎・肝硬変の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物治療 II		
6) 以下の疾患について概説できる。食道癌、胃癌、大腸癌、肝臓癌、膵臓癌、胃がん、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病						
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。(技能)			薬物治療 I	薬物治療 II	薬物治療特論 I 薬物治療特論 II	新興感染症
(3) 疾患と薬物治療 (腎臓疾患等)						
【腎臓・尿路の疾患】						
1) 腎臓および尿路における代表的な疾患を挙げることができる。			薬物治療 I	薬物治療 II	薬物治療特論 I 薬物治療特論 II	新興感染症

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療 I	薬物治療 II		新興感染症
3) ネフローゼ症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患について概説できる。糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石						
【生殖器疾患】						
1) 男性および女性生殖器に関する代表的な疾患を挙げることができる。			薬物治療 I	薬物治療 II	薬物治療特論 I	新興感染症
2) 前立腺肥大の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。					薬物治療特論 I	
3) 以下の疾患について概説できる。前立腺癌、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮癌、子宮内膜炎						
【呼吸器・胸部の疾患】						
1) 肺と気道に関する代表的な疾患を挙げることができる。			薬物治療 I	薬物治療 III	薬物治療特論 I	新興感染症
2) 閉塞性気道疾患（気管支喘息、肺気腫）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 以下の疾患について概説できる。上気道炎（かぜ症候群）、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌					薬物治療特論 II	
【内分泌系疾患】						
1) ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 甲状腺機能異常症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。					薬物治療特論 I	新興感染症
3) クッシング症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療 I			
4) 尿崩症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
5) 以下の疾患について概説できる。上皮小体機能異常症、アルドステロン症、アジソン病					薬物治療特論 I	
【代謝性疾患】						
1) 糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療 I		薬物治療特論 I	新興感染症
2) 高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物治療 II		
3) 高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
【神経・筋の疾患】						
1) 神経・筋に関する代表的な疾患を挙げることができる。						
2) 脳血管疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) てんかんの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) パーキンソン病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療 I	薬物治療 III	薬物治療特論 I	新興感染症
5) アルツハイマー病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
6) 以下の疾患について概説できる。重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、熱性けいれん、脳腫瘍、一過性脳虚血発作、脳血管性痴呆						
【総合演習】						
1) 指定された疾患別について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。			薬物治療 I	薬物治療 II	薬物治療特論 II	新興感染症
(4) 疾患と薬物治療 (精神疾患等)						
【精神疾患】						
1) 代表的な精神疾患を挙げることができる。						
2) 統合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) うつ病、躁うつ病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療 I	薬物治療 III	薬物治療特論 I	在宅医療 新興感染症
4) 以下の疾患を概説できる。神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症						
【耳鼻咽喉の疾患】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 耳鼻咽喉に関する代表的な疾患を挙げることができる。			薬物治療 I	薬物治療 II 薬物治療 III	薬物治療特論 I	新興感染症
2) めまいの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 以下の疾患を概説できる。メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎						
【皮膚疾患】						
1) 皮膚に関する代表的な疾患を挙げることができる。			薬物治療 I		薬物治療特論 I	新興感染症
2) アトピー性皮膚炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 皮膚真菌症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。蕁麻疹、薬疹、水疱症、乾燥、接触性皮膚炎、光線過敏症						
【眼疾患】						
1) 眼に関する代表的な疾患を挙げることができる。			薬物治療 I	薬物治療 II	薬物治療特論 I	新興感染症
2) 緑内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。結膜炎、網膜症						
【骨・関節の疾患】						
1) 骨、関節に関する代表的な疾患を挙げることができる。			薬物治療 I		薬物治療特論 I	新興感染症
2) 骨粗鬆症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 慢性関節リウマチの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 以下の疾患を概説できる。変形性関節症、骨軟化症						
【アレルギー・免疫疾患】						
1) 代表的なアレルギー・免疫に関する疾患を挙げることができる。			薬物治療 I		薬物治療特論 I	新興感染症
2) アナフィラキシーショックの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
3) 自己免疫疾患（全身性エリテマトーデスなど）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4) 後天性免疫不全症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
【移植医療】						
1) 移植に関連した病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療 I	薬物治療 III		新興感染症
【緩和ケアと長期療養】						
1) 慢性疼痛に対して使用される薬物を列挙し、使用上の注意について説明できる。			薬物治療 I	薬物治療 III	薬物治療特論 II	新興感染症
2) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について説明できる。						
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。 (技能)			薬物治療 I	薬物治療 II	薬物治療特論 II	新興感染症
(5) 病原微生物・悪性新生物と闘う						
【感染症】						
1) 主な感染症を列挙し、その病態と原因を説明できる。		感染制御学			薬物治療特論 II	新興感染症
【抗菌薬】						
1) 抗菌薬作用点に基づいて分類できる。						
2) 代表的な抗菌薬の基本構造を示すことができる。		感染制御学				新興感染症
3) 代表的なβ-ラクタム系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) テトラサイクリン系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
5) マクロライド系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
6) アミノ配糖体系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。						
7) ペリドンカルボン酸系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
8) サルファ薬 (ST合剤を含む) の有効な感染症を列挙できる。		感染制御学				新興感染症
9) 代表的な抗結核薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
10) 細菌感染症に關係する代表的な生物学的製剤を挙げ、その作用機序を説明できる。						
11) 代表的な抗菌薬の使用上の注意について説明できる。					薬物治療特論II	
12) 特徴的な組織移行性を示す抗菌薬を列挙できる。						
【抗原虫・寄生虫薬】						
1) 代表的な抗原虫・寄生虫薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。		感染制御学				新興感染症
【抗真菌薬】						
1) 代表的な抗真菌薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。		感染制御学				新興感染症
【抗ウイルス薬】						
1) 代表的な抗ウイルス薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。		感染制御学				新興感染症
2) 抗ウイルス薬の併用療法において考慮すべき点を挙げ、説明できる。						
【抗菌薬の耐性と副作用】						
1) 主要な化学療法薬の耐性獲得機構を説明できる。						
2) 主要な化学療法薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。		感染制御学				新興感染症
【悪性腫瘍の病態と治療】						
1) 悪性腫瘍の病態生理、症状、治療について概説できる。						
2) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけについて概説できる。		感染制御学				新興感染症
3) 化学療法薬が有効な悪性腫瘍を、治療例を挙げて説明できる。						
【抗悪性腫瘍薬】						
1) 代表的な抗悪性腫瘍薬を列挙できる。					薬物治療特論II	
2) 代表的なアルキル化薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
3) 代表的な代謝拮抗薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
4) 代表的な抗腫瘍抗生物質を列挙し、作用機序を説明できる。		感染制御学				新興感染症
5) 抗腫瘍薬として用いられる代表的な植物アルカロイドを列挙し、作用機序を説明できる。						
6) 抗腫瘍薬として用いられる代表的なホルモン関連薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
7) 代表的な白金錯体を挙げ、作用機序を説明できる。						
8) 代表的な抗悪性腫瘍薬の基本構造を示すことができる。						
【抗悪性腫瘍薬の耐性と副作用】						
1) 主要な抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。						
2) 主要な抗悪性腫瘍薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。		感染制御学			薬物治療特論II	新興感染症
3) 副作用軽減のための対処法を説明できる。						
C15 薬物治療に役立つ情報						
(1) 医薬品情報						
【情報】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 医薬品として必須の情報を列挙できる。			医療統計学 薬の安全性	医薬品情報学 事前実習 I		臨床試験
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割を説明できる。				事前実習 I		
3) 医薬品の開発過程で得られる情報の種類を列挙できる。						
4) 医薬品の市販後に得られる情報の種類を列挙できる。						
5) 医薬品情報に関係する代表的な法律と制度について概説できる。				事前実習 I		
【情報源】						
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料について説明できる。			医療統計学	医薬品情報学 事前実習 I		臨床試験
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。				事前実習 I		
3) 厚生労働省、製薬企業などの発行する資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。			医療統計学	医薬品情報学 事前実習 I		
4) 医薬品添付文書 (医療用、一般用) の法的位置づけと用途を説明できる。						
5) 医薬品添付文書 (医療用、一般用) に記載される項目を列挙し、その必要性を説明できる。						
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと用途を説明できる。						
7) 医療用医薬品添付文書と医薬品インタビューフォームの違いがわかる。(技能)						
【収集・評価・加工・提供・管理】						
1) 目的 (効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など) に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。(技能)			医療統計学	医薬品情報学 事前実習 I		臨床試験 在宅医療
2) 医薬品情報を質的に評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。(技能)						
3) 医薬品情報を目的に合わせて適切に加工し、提供できる。(知識・態度)						
4) 医薬品情報の加工、提供、管理の際に、知的所有権、守秘義務に配慮する。(知識・態度)						
5) 主な医薬品情報の提供手段を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
【データベース】						
1) 代表的な医薬品情報データベースを列挙し、それらの特徴を説明できる。			医療統計学	医薬品情報学 事前実習 I		臨床試験
2) 医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、適切に検索できる。(知識・技能)						
3) インターネットなどを利用して代表的な医薬品情報を収集できる。(技能)				事前実習 I	薬物治療特論 II	
【EBM (Evidence-Based Medicine)】						
1) EBMの基本概念と有用性について説明できる。			医療統計学	医薬品情報学 事前実習 I		臨床試験
2) EBM実践のプロセスを概説できる。						
3) 臨床研究方法 (ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究など) の長所と短所を概説できる。			医療統計学	医薬品情報学 事前実習 I		臨床試験
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる。(知識・技能)						
5) 真のエンドポイントと代用のエンドポイントの違いを説明できる。						
6) 臨床適用上の効果指標 (オッズ比、必要治療数、相対危険度など) について説明できる。						
【総合演習】						
1) 医薬品の採用、選択に当たって検討すべき項目を列挙できる。			医療統計学	医薬品情報学 事前実習 I	薬物治療特論 II	臨床試験
2) 医薬品に関する論文を評価、要約し、臨床上の問題を解決するために必要な情報を提示できる。(知識・技能)						
(2) 患者情報						
【情報と情報源】						
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。				医薬品情報学 事前実習 I		
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	敵 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【収集・評価・管理】						
1) 問題志向型システム (POS) を説明できる。						
2) 薬歴、診療録、看護記録などから患者基本情報を収集できる。(技能)					薬物治療特論II	
3) 患者、介護者との適切なインタビュから患者基本情報を収集できる。(技能)						
4) 得られた患者情報から医薬品の効果および副作用などを評価し、対処法を提案する。(知識・技能)						
5) SOAPなどの形式で患者記録を作成できる。(技能)						
6) チーム医療において患者情報を共有することの重要性を感じとる。(態度)						
7) 患者情報の取扱いにおいて守秘義務を遵守し、管理の重要性を説明できる。(知識・態度)						
(3) テーラーメイド薬物治療を目指して						
【遺伝的素因】						
1) 薬物の作用発現に及ぼす代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。						
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。					個別化治療の基礎	
3) 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。						
【年齢的要因】						
1) 新生児、乳児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
2) 幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。					個別化治療の基礎	
3) 高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【生理的要因】						
1) 生殖、妊娠時における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
2) 授乳期に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
3) 栄養状態の異なる患者 (肥満など) に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。					個別化治療の基礎	
【合併症】						
1) 腎臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
2) 肝臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。					個別化治療の基礎	
【投与計画】						
1) 患者固有の薬動学的パラメータを用いて投与設計ができる。(知識・技能)						
2) ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。						
3) 薬動力学的パラメータを用いて投与設計ができる。(知識・技能)						
4) 薬物作用の日内変動を考慮した用法について概説できる。						
【医薬品をつくる】						
C16 製剤化のサイエンス						
(1) 製剤材料の性質						
【物質の溶解】						
1) 溶液の濃度と性質について説明できる。						
2) 物質の溶解とその速度について説明できる。						
3) 溶解した物質の膜透過速度について説明できる。						
4) 物質の溶解に対して酸・塩基反応が果たす役割を説明できる。						
					製剤材料	

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	専 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【分散系】						
1) 界面の性質について説明できる。			製剤材料			
2) 代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。						
3) 乳剤の型と性質について説明できる。				製剤実習		
4) 代表的な分散系を列挙し、その性質について説明できる。						
5) 分散粒子の沈降現象について説明できる。						
【製剤材料の物性】						
1) 流動と変形 (レオロジー) の概念を理解し、代表的なモデルについて説明できる。			製剤材料			
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質について説明できる。						
3) 製剤分野で汎用される高分子の物性について説明できる。				製剤実習		
4) 粉体の性質について説明できる。						
5) 製剤材料としての分子集合体について説明できる。						
6) 薬物と製剤材料の安定性に影響する要因、安定化方法を列挙し、説明できる。			製剤実習			
7) 粉末 X 線回折測定法の原理と利用法について概略を説明できる。						
8) 製剤材料の物性を測定できる。(技能)			製剤実習			
(2) 剤形をつくる						
【代表的な製剤】						
1) 代表的な剤形の種類と特徴を説明できる。			剤形をつくる			
2) 代表的な固形製剤の種類と性質について説明できる。				製剤実習		
3) 代表的な半固形製剤の種類と性質について説明できる。						
4) 代表的な液状製剤の種類と性質について説明できる。						
5) 代表的な無菌製剤の種類と性質について説明できる。				製剤実習		
6) エアゾール剤とその類似製剤について説明できる。						
7) 代表的な製剤添加物の種類と性質について説明できる。						
8) 代表的な製剤の有効性と安全性評価法について説明できる。						
【製剤化】						
1) 製剤化の単位操作および汎用される製剤機構について説明できる。			剤形をつくる			
2) 単位操作を組み合わせて代表的製剤を調製できる。(技能)						
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。			剤形をつくる			
【製剤試験法】						
1) 日本薬局方の製剤に関連する試験法を列挙できる。			剤形をつくる			
2) 日本薬局方の製剤に関連する代表的な試験法を実施し、品質管理に適用できる。(技能)						
(3) DDS (Drug Delivery System : 薬物送達システム)						
【DDSの必要性】						
1) 従来の医薬品製剤の有効性、安全性、信頼性における主な問題点を列挙できる。						薬物送達法
2) DDS の概念と有用性について説明できる。						製剤実習
【放出制御製剤】						
1) 放出制御製剤 (徐放性製剤を含む) の利点について説明できる。						
2) 代表的な放出制御製剤を列挙できる。						薬物送達法

	敵 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
3) 代表的な徐放性製剤における徐放化の手段について説明できる。						
4) 徐放性製剤に用いられる製剤材料の種類と性質について説明できる。				薬物送達法		
5) 経皮投与製剤の特徴と利点について説明できる						
6) 腸溶製剤の特徴と利点について説明できる。						
【ターゲティング】						
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。				薬物送達法		
2) 代表的なドラッグキャリアーを列挙し、そのメカニズムを説明できる。						
【プロドラッグ】						
1) 代表的なプロドラッグを列挙し、そのメカニズムと有用性について説明できる。				薬物送達法		
【その他のDDS】						
1) 代表的な生体膜透過促進法について説明できる。				薬物送達法		
C17 医薬品の開発と生産						
【医薬品開発のながれ】						
【医薬品開発のコンセプト】						
1) 医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子を列挙できる。				薬物送達法	医薬開発特論 I 医薬開発特論 II	
2) 疾病統計により示される日本の疾病の特徴について説明できる。						
【医薬品市場と開発すべき医薬品】						
1) 医療用医薬品で日本市場および世界市場での売上高上位の医薬品を列挙できる。					医薬開発特論 I 医薬開発特論 II	
2) 新規医薬品の価格を決定する要因について概説できる。						
3) ジェネリック医薬品の役割について概説できる。				薬物送達法	医薬開発特論 II 医薬開発特論 I 医薬開発特論 II	
4) 希少疾病に対する医薬品 (オーファンドラッグ) 開発の重要性について説明できる。						
【非臨床試験】						
1) 非臨床試験の目的と実施概要を説明できる。					薬の安全性	医薬開発特論 II
【医薬品の承認】						
1) 臨床試験の目的と実施概要を説明できる。						
2) 医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセスを説明できる。				事前実習 I	医薬開発特論 I 医薬開発特論 II 医薬開発特論 III	
3) 市販後調査の制度とその意義について説明できる。		社会のしくみ				
4) 医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション (ICH) について概説できる。						
【医薬品の製造と品質管理】						
1) 医薬品の工業的規模での製造工程の特色を開発レベルのそれと対比させて概説できる。						医薬開発特論 II 医薬開発特論 III
2) 医薬品の品質管理の意義と、薬剤師の役割について説明できる。		社会のしくみ		薬物送達法		
3) 医薬品製造において環境保全に配慮すべき点を列挙し、その対処法を概説できる。						
【規範】						
1) GLP (Good Laboratory Practice)、GMP (Good Manufacturing Practice)、GCP (Good Clinical Practice)、GPIISP (Good Post-Marketing Surveillance Practice) の概略と意義について説明できる。				薬物送達法	医薬開発特論 II	
【特許】						
1) 医薬品の創製における知的財産権について概説できる。				薬物送達法	医薬開発特論 II	
【薬書】						

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		社会のしくみ		薬物送達法	医薬開発特論 II	
1) 代表的な薬物の例 (サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジンなど) について、その原因と社会的背景を説明し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)						
(2) リード化合物の創製と最適化						
【医薬品創製の歴史】			医薬品化学 II	薬物送達法	医薬開発特論 III	
1) 古典的な医薬品開発から理論的な創薬への歴史について説明できる。						
【標的体分子との相互作用】						
1) 医薬品開発の標的となる代表的な生体分子を列挙できる。				薬物送達法		
2) 医薬品と標的体分子の相互作用を、具体例を挙げて立体化学的観点から説明できる。			医薬品化学 II	薬物送達法	医薬開発特論 III	
3) 立体異性体と生物活性の関係について具体例を挙げて説明できる。						
4) 医薬品の構造とアゴニスト活性、アンタゴニスト活性との関係について具体例を挙げて説明できる。						
【スクリーニング】						
1) スクリーニングの対象となる化合物の起源について説明できる。				薬物送達法		
2) 代表的なスクリーニング法を列挙し、概説できる。						
【リード化合物の最適化】						
1) 定量的構造活性相関のパラメーターを列挙し、その薬理活性に及ぼす効果について概説できる。						
2) 生物学的等価性 (バイオアインスター) の意義について概説できる。			医薬品化学 II			
3) 薬物動態を考慮したドラッグデザインについて概説できる。				薬物送達法		
(3) バイオ医薬品とゲノム情報						
【組換え体医薬品】						
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。				薬物送達法		
2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。			バイオテクノロジー			
3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。						
【遺伝子治療】						
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)				薬物送達法		
【細胞を利用した治療】						
1) 再生医療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)				薬物送達法		
【ゲノム情報の創薬への利用】						
1) ヒトゲノムの構造と多様性を説明できる。						
2) バイオインフォマティクスについて概説できる。						
3) 遺伝子多型 (欠損、増幅) の解析に用いられる方法 (ゲノミックサブセット法など) について概説できる。						
4) ゲノム情報の創薬への利用について、創薬ターゲットの探索の代表例 (イマチニブなど) を挙げ、ゲノム創薬の流れについて説明できる。				薬物送達法		
【疾患関連遺伝子】						
1) 代表的な疾患 (癌、糖尿病など) 関連遺伝子について説明できる。						
2) 疾患関連遺伝子情報の薬物療法への応用例を挙げ、概説できる。						
(4) 治療						
【治療の意義と業務】						
1) 治療に関してヘルシンキ宣言が意図するところを説明できる。						
2) 医薬品創製における治療の役割を説明できる。						
			医療統計学	事前実習 I	医薬開発特論 I 医薬開発特論 II 医薬開発特論 III	臨床試験

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
3) 治験 (第 I、II、およびⅢ相) の内容を説明できる。			医療統計学	事前実習 I	医薬開発特論 II 医薬開発特論 III	臨床試験
4) 公正な治験の推進を確保するための制度を説明できる。					医薬開発特論 I 医薬開発特論 II 医薬開発特論 III	
5) 治験における被験者の人権の保護と安全性の確保、および福祉の重要性について討議する。(態度)						
6) 治験業務に携わる各組織の役割と責任を概説できる。						
【治験における薬剤師の役割】						
1) 治験における薬剤師の役割 (治験薬管理者など) を説明できる。			医療統計学	事前実習 I	医薬開発特論 I 医薬開発特論 II 医薬開発特論 III	臨床試験
2) 治験コーディネーターの業務と責任を説明できる。					医薬開発特論 II 医薬開発特論 III	
3) 治験に際し、被験者に説明すべき項目を列挙できる。					医薬開発特論 I 医薬開発特論 II 医薬開発特論 III	
4) インフォームド・コンセントと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。(態度)						
(5) バイオスタティスティクス						
【生物統計の基礎】						
1) 帰無仮説の概念を説明できる。			医療統計学			臨床試験
2) パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分けを説明できる。						
3) 主な二群間の平均値の検定法 (t-検定、Mann-Whitney U検定) について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)						
4) χ^2 検定の適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)						
5) 最小二乗法による直線回帰を説明でき、回帰係数の有意性を検定できる。(知識・技能)						
6) 主な多重比較検定法 (分散分析、Dunnnett検定、Tukey検定など) の概要を説明できる。						
7) 主な多変量解析の概要を説明できる。						
【臨床への応用】						
1) 臨床試験の代表的な研究デザイン (症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験) の特色を説明できる。			医療統計学			臨床試験
2) バイアスの種類をあげ、特徴を説明できる。						
3) バイアスを回避するための計画上の技法 (盲検化、ランダム化) について説明できる。						
4) リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能)						
5) 基本的な生存時間解析法 (Kaplan-Meier曲線など) の特徴を説明できる。						
C18 薬学と社会						
(1) 薬剤師を取り巻く法律と制度						
【医療の担い手としての使命】						
1) 薬剤師の医療の担い手としての倫理的責任を自覚する。(態度)				薬事関係法規 事前実習 I		
2) 医療過誤、リスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を果たす。(態度)						
【法律と制度】						
1) 薬剤師に関連する法令の構成を説明できる。	薬学への招待					
2) 薬事法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。		社会のしくみ				
3) 薬剤師法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。	薬学への招待				薬事関係法規	在宅医療
4) 薬剤師に関わる医療法の内容を説明できる。						
5) 医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法などの関連法規と薬剤師の関わりを説明できる。						

	敵 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
6) 医薬品による副作用が生じた場合の被害救済について、その制度と内容を概説できる。		社会のしくみ		薬事関係法規	医薬開発特論 I	在宅医療
7) 製造物責任法を概説できる。						
【管理薬】						
1) 麻薬及び向精神薬取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。						
2) 覚せい剤取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。		社会のしくみ		薬事関係法規		
3) 大麻取締法およびあへん法を概説できる。						
4) 毒物及び劇物取締法を概説できる。						
【放射性医薬品】						
1) 放射性医薬品の管理、取扱いに関する基準（放射性医薬品基準など）および制度について概説できる。		物質の構造				
2) 代表的な放射性医薬品を列挙し、その品質管理に関する試験法を概説できる。						
(2) 社会保障制度と薬剤経済						
【社会保障制度】						
1) 日本における社会保障制度のしくみを説明できる。		社会のしくみ	社会と薬局	薬事関係法規		在宅医療
2) 社会保障制度の中での医療保険制度の役割を概説できる。						
3) 介護保険制度のしくみを説明できる。						
4) 高齢者医療保健制度のしくみを説明できる。						
【医療保険】						
1) 医療保険の成り立ちと現状を説明できる。		社会のしくみ	社会と薬局	薬事関係法規		在宅医療
2) 医療保険のしくみを説明できる。						
3) 医療保険の種類を列挙できる。						
4) 国民の福祉健康における医療保険の貢献と問題点について概説できる。						
【薬剤経済】						
1) 国民医療費の動向を概説できる。						
2) 保険医療と薬価制度の関係を概説できる。						
3) 診療報酬と薬価基準について説明できる。						
4) 医療費の内訳を概説できる。						
5) 薬物治療の経済評価手法を概説できる。						
6) 代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる。（知識・技能）						
(3) コミュニティファーマシー						
【地域薬局の役割】						
1) 地域薬局の役割を列挙できる。						
2) 在宅医療および在宅介護における薬局と薬剤師の役割を説明できる。	薬学への招待		社会と薬局	事前実習 I		在宅医療
3) 学校薬剤師の役割を説明できる。						
【医薬分業】						
1) 医薬分業のしくみと意義を説明できる。						
2) 医薬分業の現状を概説し、将来像を展望する。（知識・態度）			社会と薬局	事前実習 I		
3) かかりつけ薬局の意義を説明できる。						
【薬局の業務運営】						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	敵 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 保険薬剤師療養担当規則および保険医療養担当規則を概説できる。			社会と薬局	薬事関係法規		
2) 薬局の形態および業務運営ガイドラインを概説できる。						
3) 医薬品の流通のしくみを概説できる。						
4) 調剤報酬および調剤報酬明細書 (レセプト) について説明できる。						
【OTC薬・セルフメディケーション】						
1) 地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する。(態度)		社会のしくみ	社会と薬局	事前実習 I		
2) 主な一般用医薬品 (OTC薬) を列挙し、使用目的を説明できる。						
3) 漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品について概説できる。						

(基礎資料 3-2) 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

- [注] 1 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名または実習項目名を実施学年の欄に記入してください。
- 2 同じ科目名・項目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。
- 3 「(7)の事前学習のまとめ」において大学でSBOsの設定がある場合は、記入してください。必要ならば、行を適宜追加してください。

※科目名は略称名を使用

	実務実習モデル・コアカリキュラム (実務実習事前学習) SBOs		
	2年	3年	4年
D 実務実習教育			
(I) 実務実習事前学習			
(1) 事前学習を始めるにあたって			
《薬剤師業務に注目する》			
1. 医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。			
2. 医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割、保険調剤について概説できる。	臨床薬剤師入門	医療薬学概論導入実習	事前実習 I 事前実習 II
3. 薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する。(態度)			
《チーム医療に注目する》			
4. 医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる。			
5. チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。	臨床薬剤師入門	医療薬学概論	事前実習 I
6. 自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。(態度)			
《医薬分業に注目する》			
7. 医薬分業の仕組みと意義を概説できる。	臨床薬剤師入門	医療薬学概論	事前実習 I
(2) 処方せんと調剤			
《処方せんの基礎》			
1. 処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。			
2. 処方オーダーリングシステムを概説できる。			
3. 処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。			
4. 調剤を法的根拠に基づいて説明できる。			
5. 代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる。(知識・技能)			
6. 不適切な処方せんの処置について説明できる。			
《医薬品の用法・用量》			
7. 代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。			
8. 患者に適した剤形を選択できる。(知識・技能)			
9. 患者の特性(新生児、小児、高齢者、妊婦など)に適した用法・用量について説明できる。			
10. 患者の特性に適した用量を計算できる。(技能)			
11. 病態(腎、肝疾患など)に適した用量設定について説明できる。			
		医療薬学概論 導入実習	事前実習 I 事前実習 II
		医療薬学概論	事前実習 I 事前実習 II
		医療薬学概論 導入実習	事前実習 I 事前実習 II

《服薬指導の基礎》		臨床薬剤師入門	医療薬学概論	事前実習 I	
12.	服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。				
《調剤室業務入門》					
13.	代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる。(技能)		導入実習	事前実習 I 事前実習 II	
14.	処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。(技能)				
15.	処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。(技能)				
16.	調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。(技能)				
17.	処方せん例の鑑査の意義とその必要性について討議する。(態度)				
《(3) 疑義照会》					
《疑義照会の意義と根拠》					
1.	疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる。		導入実習	事前実習 I 事前実習 II	
3.	特定の配合によって生じる医薬品の性状、外觀の変化を観察する。(技能)				
4.	不適切な処方せん例について、その理由を説明できる。				
《疑義照会入門》					
5.	処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する。(態度)		導入実習	事前実習 I 事前実習 II	
6.	代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。				
7.	代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。				
8.	代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。				
9.	疑義照会の流れを説明できる。				
10.	疑義照会をシミュレートする。(技能・態度)				
《(4) 医薬品の管理と供給》					
《医薬品の安定性に注目する》					
1.	医薬品管理の意義と必要性について説明できる。		医療薬学概論		
2.	代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる。				
《特別な配慮を要する医薬品》					
3.	毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる。		医療薬学概論		
4.	麻薬、向精神薬などの管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。				
5.	血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる。				
6.	輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。				
7.	代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。				
8.	生物製剤の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。				
9.	麻薬の取扱いをシミュレートできる。(技能)				
10.	代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる。				
11.	放射性医薬品の管理と取扱い(投薬、廃棄など)について説明できる。				
					事前実習 I 事前実習 II

《製剤化の基礎》									
12.	院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。					医療薬学概論 導入実習			
13.	薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。					医療薬学概論 導入実習			事前実習 I 事前実習 II
14.	代表的な院内製剤を調製できる。(技能)								
15.	無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)								
16.	抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。(技能)								事前実習 II
《注射剤と輸液》									
17.	注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる。								
18.	代表的な配合変化を検出できる。(技能)								事前実習 I 事前実習 II
19.	代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる。								
20.	体内電解質の過不足を判断して補正できる。(技能)								
《消毒薬》									
21.	代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。					医療薬学概論導入実習			事前実習 II
22.	消毒薬調製時の注意点を説明できる。					医療薬学概論			
(5) リスクマネージメント									
《安全管理に注目する》									
1.	薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる。					医療薬学概論			
2.	誤りを生じやすい投薬例を列挙できる。								
3.	院内感染の回避方法について説明できる。					臨床薬剤師入門			
《副作用に注目する》									
4.	代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。								事前実習 I 事前実習 II
(6) リスクマネージメント入門									
5.	誤りを生じやすい調剤を列挙できる。								
6.	リスクを回避するための具体策を提案する。(態度)								
7.	事故が起こった場合の対処方法について提案する。(態度)					臨床薬剤師入門			
(6) 服薬指導と患者情報									
《服薬指導に必要な技能と態度》									
1.	患者の基本的権利、自己決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。								
2.	代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる。					医療薬学概論			事前実習 I 事前実習 II
3.	代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。								
4.	インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。(態度)								
5.	適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。(技能・態度)								
6.	医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。(知識・態度)								
7.	患者接遇に際し、配慮しなければならぬ注意点を列挙できる。								事前実習 I 事前実習 II

《患者情報の重要性に注目する》		事前実習 I 事前実習 II
8. 服薬指導に必要な患者情報を列挙できる。	導入実習	
9. 患者背景、情報（コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など）を把握できる。（技能）		
10. 医師、看護師などとの情報の共有化の重要性を説明できる。		
《服薬指導入門》		事前実習 I 事前実習 II
11. 代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる。（知識・技能）		
12. 共感的態度で患者インタビューを行う。（技能・態度）		
13. 患者背景に配慮した服薬指導ができる。（技能）		
14. 代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。（技能）		
《7》事前学習のまとめ		事前実習 II

基礎資料4 カリキュラムマップ

系	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
I 薬学教養教育	ヒューマンズムについて学ぶ: 生と死(生と死)/ヒューマンズムについて学ぶ: 医療の担い手/ヒューマンズムについて学ぶ: 信頼関係												
	薬学への招待												
	早期体験学習												
	人と文化 I: 異文化	人と文化 I: 異文化	人と文化 V: 社会のしくみ	人と文化 V: 社会のしくみ									
	人と文化 II: 日本の文化	人と文化 II: 日本の文化	人と文化 VI: 倫理	人と文化 VI: 倫理									
	人と文化 III: 自然科学	人と文化 III: 自然科学											
	人と文化 IV: 行動と心理	人と文化 IV: 行動と心理											
	保健体育学(体育実技含む)												
英語 I RW-1	英語 I RW-2	英語 II RW-1	英語 II RW-2	英語 III-1	英語 III-2								
英語 I LS-1	英語 I LS-2	英語 II LS-1	英語 II LS-2										
II 基礎薬学教育	力学・波動	電磁気学・量子論											
	化学 I	化学 II											
	生物学 I	生物学 II											
	微分積分学	微分方程式・線形代数											
(III 薬学専門教育) (化学・物理系)	化学熱力学	物質の構造	反応速度論			臨床分析							
	分析化学	溶液化学	機器分析	医薬品化学 I	医薬品化学 II								
	基礎有機化学 I	基礎有機化学 II	有機化学 I	有機化学 II	医療統計学								
			生物有機化学		薬局方概論								
			生薬学 I	生薬学 II	天然物化学								
(IV 薬学専門教育) (生物・医療系)	解剖学	細胞構成分子	細胞の機能	遺伝子	バイオテクノロジー	食品衛生学							
		生体機能調節と活性分子 I	生体機能調節と活性分子 II	環境と健康	免疫学	社会と健康	医薬品情報学						
			微生物学	薬の作用	化学物質の毒性	薬の安全性	個別化治療の基礎						
			生体エネルギー	感染制御学	薬の効き方 I	薬の効き方 II	薬事関係法規						
					薬物動態 I	薬物動態 II							
					体の変化	社会と薬局	薬物治療 III						
						薬物治療 I	薬物治療 II						
					製剤材料	剤形をつくる	薬物送達法						
V 薬学専門系 実習教育	体育実技	体育実技	分析化学実習		環境科学実習	生薬学実習	病態・治療実習						
	情報科学実習	基礎化学実習	物理化学実習		薬理実習	天然物化学実習	製剤実習						
		基礎生物学実習	有機化学実習 I		有機化学実習 II	衛生化学実習							
		生化学実習	微生物実習			薬物動態実習							
VI 実務実習 教育			事前実習 I (「臨床薬剤師入門」「医療薬学概論」を含む)							病院・薬局実習			
												事前実習 II	
VII 卒業実習教育	総合薬学演習								薬学研究				
	薬学アドバンスト教育								臨床薬学コース	薬物治療特論 I			
									薬物治療特論 II				
									薬物治療特論 III				
									情報薬学コース	医薬開発特論 I			
									医薬開発特論 II				
									医薬開発特論 III				
									臨床薬学コース指定科目	患者情報			
										臨床試験			
									アドバンスト実務実習				
									情報薬学コース指定科目	分子標的医薬品			
										医薬品相互作用			
									総合薬学コース指定科目	化学系特論			
										生物系特論			
									自由選択科目	在宅医療			
										漢方処方			
										専門薬剤師			
										化粧品			
										新興感染症			
										実用薬学英語			
										分子標的医薬品			
										医薬品相互作用			
VIII 薬学総合教育												最終総合演習	

(基礎資料5) 語学教育の要素

科目名	開講年生	要素			
		読み	書き	聞く	話す
薬学英語入門ⅠRW-1	1	○	○		
薬学英語入門ⅠLS-1	1			○	○
薬学英語入門ⅠRW-2	1	○	○		
薬学英語入門ⅠLS-2	1			○	○
薬学英語入門ⅡRW-1	2	○	○		
薬学英語入門ⅡLS-1	2			○	○
薬学英語入門ⅡRW-2	2	○	○		
薬学英語入門ⅡLS-2	2			○	○
薬学英語入門Ⅲ-1	3	○	○	○	○
薬学英語入門Ⅲ-2	3	○	○	○	○
実用英語	5	○	○	○	○
実用薬学英語	6	○	○	○	○

[注] 要素欄の該当するものに○印をお付けください。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成26年5月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月						
	火						
	水						
	木	1日			実務実習事前学習説明会	S601, S602, S604講義	S201, S202, S204, S403, S404, S405, S406, S407講義
	金	2日			TDM講義	S102, S103, S107講義・演習	S101講義
第2週	月	5日	祝日				
	火	6日	振替休日				
	水	7日					
	木	8日					
	金	9日					
	土						
第3週	月	12日			S301講義	S302, S402講義・演習	S104, S105, S503, S506講義
	火	13日			S205, S206, S209, S603, S208, S605 S G D		
	水	14日					
	木	15日			S205, S206, S209, S603, S208, S605 S G D		
	金	16日					
第4週	月	19日			S301講義	S302, S402講義・演習	S104, S105, S503, S506講義
	火	20日			S205, S206, S209, S603, S208, S605 S G D		
	水	21日					
	木	22日			S205, S206, S209, S603, S208, S605 S G D		
	金	23日					
第5週	月	26日					
	火	27日					
	水	28日					
	木	29日					
	金	30日					

- [注]
- 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。
 - 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）
 - 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成26年6月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週	月	2日			S210, S211, S410, S506, S507実習		
	火	3日			S202, S203, S204, S205, S206, S207, S210, S506, S507実習		
	水	4日					
	木	5日			S504, S505, S601, S602, S603, S604, S605, S606実習		
	金	6日					
第2週	月	9日			S304, S306実習		
	火	10日			S501実習		
	水	11日					
	木	12日			S411, S412, S413, S506, S507実習		
	金	13日					
第3週	月	16日			S210, S211, S410, S506, S507実習		
	火	17日			S202, S203, S204, S205, S206, S207, S210, S506, S507実習		
	水	18日					
	木	19日			S504, S505, S601, S602, S603, S604, S605, S606実習		
	金	20日					
第4週	月	23日			S304, S306実習		
	火	24日			S501実習		
	水	25日					
	木	26日			S411, S412, S413, S506, S507実習		
	金	27日					
第5週	月	30日			漢方実習		

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）
 - 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成26年7月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週							
	火	1日			保険請求		
	水	2日					
	木	3日			TDM演習		
	金	4日			保険請求		
第2週	月	7日					
	火	8日			実習試験		
	水	9日					
	木	10日					
	金	11日					
第3週	月	14日					
	火	15日					
	水	16日					
	木	17日					
	金	18日					
第4週	月	21日					
	火	22日					
	水	23日					
	木	24日					
	金	25日					
第5週	月	28日					
	火	29日					
	水	30日					
	木	31日					

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）
 - 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成26年9月								
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	
第1週	月	1日						
	火	2日						
	水	3日			フィジカルアセスメント講義, S101講義			
	木	4日			S202, S203, S204, S205, S206, S207, S210, S401, S603, S606実習			
	金	5日						
第2週	月	8日			S202, S203, S204, S205, S206, S207, S210, S401, S603, S606実習			
	火	9日			S202, S203, S204, S205, S206, S207, S210, S502実習			
	水	10日						
	木	11日			S202, S203, S204, S205, S206, S207, S210, S502実習			
	金	12日						
第3週	月	15日	祝日					
	火	16日			S411実習			
	水	17日						
	木	18日			S411実習			
	金	19日						
第4週	月	22日			S601, S602, S603, S604, S605, S606実習			
	火	23日	祝日					
	水	24日	卒業論文発表会					
	木	25日	卒業論文発表会					
	金	26日						
第5週	月	29日			S601, S602, S603, S604, S605, S606実習			
	火	30日			S601, S602, S603, S604, S605, S606実習			

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）
 - 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成26年10月								
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	
第1週								
	水	1日						
	木	2日			S601, S602, S603, S604, S605, S606実習			
	金	3日						
第2週	月	6日			S601, S602, S603, S604, S605, S606実習			
	火	7日			S601, S602, S603, S604, S605, S606実習			
	水	8日						
	木	9日			バイタルサインチェック・フィジカルアセスメント実習			
	金	10日						
第3週	月	13日	祝日					
	火	14日			バイタルサインチェック・フィジカルアセスメント実習			
	水	15日						
	木	16日						
	金	17日						
第4週	月	20日			S202, S203, S204, S205, S206, S207, S210, S701実習			
	火	21日			S202, S203, S204, S205, S206, S207, S210, S701実習			
	水	22日						
	木	23日			S210, S606, S701実習			
	金	24日						
第5週	月	27日			S210, S606, S701実習			
	火	28日			S210, S411, S701実習			
	水	29日			実習試験			
	木	30日			S210, S411, S701実習			
	金	31日						

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）
 - 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成27年2月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週							
第2週	月	2日					
	火	3日					
	水	4日					
	木	5日					
	金	6日					
第3週	月	9日					
	火	10日					
	水	11日					
	木	12日					
	金	13日					
第4週	月	16日					
	火	17日					
	水	18日					
	木	19日					
	金	20日					
第5週	月	23日			S201, S202, S203, S204, S606実習		
	火	24日			S202, S203, S204, S205, S206, S207, S210実習		
	水	25日					
	木	26日			S202, S203, S204, S205, S206, S207, S210実習		
	金	27日			S202, S203, S204, S205, S206, S207, S210, S302, S506, S606実習		

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）
 - 3 **上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。**

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成27年3月							
(週)	(曜日)	(日)	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
第1週							
第2週	月	2日			S408, S409, S410, S414実習		
	火	3日			S301, S303, S304, S305, S306実習		
	水	4日			実習試験		
	木	5日					
	金	6日					
第3週	月	9日					
	火	10日					
	水	11日					
	木	12日					
	金	13日					
第4週	月	16日					
	火	17日					
	水	18日					
	木	19日					
	金	20日					
第5週	月	23日					
	火	24日					
	水	25日					
	木	26日					
	金	27日					

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）
 - 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料7) 学生受入状況について

学部	学科名	入試の種類			平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	募集定員数に対する入学者数の比率(6年間の平均)
			受験者数	合格者数	入試(21年度実施)	入試(22年度実施)	入試(23年度実施)	入試(24年度実施)	入試(25年度実施)	入試(26年度実施)	
薬学部	一般入試(B方式)	受験者数			1,098	1,016	966	1,269	1,498	1,448	
		合格者数			329	315	264	218	244	282	
		入学者数(A)			120	103	130	80	91	116	
		募集定員数(B)			100	100	100	100	100	100	
	A/B*100(%)			120%	103%	130%	80%	91%	116%		
	大学入試センター入試(A方式)	受験者数			617	747	801	804	1,042	700	
		合格者数			134	153	139	135	132	156	
		入学者数(A)			5	8	5	7	5	12	
		募集定員数(B)			10	10	10	10	10	10	
	A/B*100(%)			50%	80%	50%	70%	50%	120%		
	A〇入試	受験者数									
		合格者数									
入学者数(A)											
募集定員数(B)											
A/B*100(%)											
附属校推薦	受験者数										
	合格者数										
	入学者数(A)										
	募集定員数(B)										
A/B*100(%)											
指定校推薦	受験者数			73	67	84	105	107	89		
	合格者数			73	67	84	105	107	89		
	入学者数(A)			72	67	84	104	106	89		
	募集定員数(B)			80	80	80	80	80	80		
A/B*100(%)			90%	84%	105%	130%	133%	111%			
公募推薦入試	受験者数			50	59	51	68	93	65		
	合格者数			22	24	21	21	20	13		
	入学者数(A)			22	24	21	21	20	13		
	募集定員数(B)			20	20	20	20	20	20		
A/B*100(%)			110%	120%	105%	105%	100%	65%			
社会人入試	受験者数										
	合格者数										
	入学者数(A)										
	募集定員数(B)										
A/B*100(%)											
留学生入試	受験者数										
	合格者数										
	入学者数(A)										
	募集定員数(B)										
A/B*100(%)											
帰国生徒入試	受験者数										
	合格者数										
	入学者数(A)										
	募集定員数(B)										
A/B*100(%)											
一般・センター試験併用入試(C方式)	受験者数			217	242	213	288	411	321		
	合格者数			74	71	45	50	41	49		
	入学者数(A)			32	46	25	33	23	25		
	募集定員数(B)			30	30	30	30	30	30		
A/B*100(%)			107%	153%	83%	110%	77%	83%			
学科計	受験者数			2,055	2,131	2,115	2,534	3,151	2,623		
	合格者数			632	630	553	529	544	589		
	入学者数(A)			251	248	265	245	245	255		
	募集定員数(B)			240	240	240	240	240	240		
	A/B*100(%)			105%	103%	110%	102%	102%	106%		

- [注] 1 「編入学試験」は、この表には記入しないでください。
- 2 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
- 3 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合を算出してください。
- 4 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
- 5 各入学(募集)定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
- 6 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
- 7 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考)〇年次に・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

(基礎資料8) 教員・事務職員数

①設置基準において、必要な6年制薬学科の教員数 * 1	58名
②設置基準において、必要な実務家教員数 * 2	7名

* 1 大学設置基準 第2条別表第一、イ備考四

* 2 大学設置基準 別表第一、イ十号

(教員の部)	教授	准教授	専任講師	助教	助手	備考
教養教育	3	1	1	0	0	
語学教育	1	1	0	0	0	
薬学基礎教育	2	1	3	2	0	
専門薬学教育	12	4	10	11(3)	0	特任助教3名
実務実習教育	11(2)	4(2)	3(1)	2(2)	0	()内は実務家教員
小計	29	11	17	15	0	
専任教員数	72 (7)					
(事務職員の部)	局長	部長	課長	事務員	その他の職種	備考
大学業務関連	0	0	4	20	0	TA
法人業務関連	0	1	3	7	0	
小計	0	1	7	27	0	
事務職員数	35					

- [注] 1 主に担当する科目(業務)で算出し、重複しないように注意してください。
- 2 該当する場合は、()内に実務家教員、見なし教員または特任等の数を記入し、「備考」欄にその内訳を記入してください。(例示: 6(2)=6名のうち2名が特任)
- 3 該当する場合は、()内に臨時・嘱託事務職員数を記入してください。(例示: 3(1)=3名のうち1名が嘱託事務職員)
- 4 「その他の職種」の欄に記入した数については、「備考」にその職種名を記入してください。
- 5 専任教務補助員(例えば、いわゆる副手、実験補助員等)、ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)については、「備考」欄にその各々の名称と人数を記入してください。

(基礎資料9) 専任教員年齢構成

職位	70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	計
教授	0	14(3)	12(2)	3	0	0	29(5)
	0%	48%	42%	10%	0%	0%	100%
准教授	0	2	3(2)	5	1	0	11(2)
	0%	18%	27%	46%	9%	0%	100%
専任講師	0	2(1)	6(2)	5(3)	4(1)	0	17(7)
	0%	12%	35%	29%	24%	0%	100%
助教	0	1	0	2(1)	11(5)	1	15(6)
	0%	7%	0%	13%	73%	7%	100%
合計	0	19(4)	21(6)	15(4)	16(6)	1	72(20)
	0%	26%	29%	21%	22%	2%	100%
定年年齢	65歳						

[注] 1 上段には人数、下段には%を記入してください。

2 () に女性の数を記入してください。(例示：2(1)=2名のうち1名が女性)

3 「定年年齢」には、規定された定年退職年齢を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職年月日	授業科目											最終学歴及び学位称号														
								科目名		毎週授業時間数						年間平均毎週授業時間数																	
								前期	後期	講義	前期	後期	演習	前期	後期		実験・実習・実技	前期		後期	計												
薬学科	薬品物理化学	教授	秋澤 宏行 あきさわ ひろゆき	男	43	2013.4.1	2013.4.1	早期体験学習・特別支援学校 実習																	京都大学 大学院薬学研究科 修士課程修了 博士(薬学)								
								化学熱力学	3.0																								
								溶液化学 物質の構造	3.0 1.4																								
								物理化学実習 化学系特論	0.2 4.6																								
薬学科	総合感染免疫学	教授	石戸 聡 いしと 聡	男	51	2012.4.1	2012.4.1	薬学への招待																	神戸大学 大学院医学研究科 博士課程修了 医学博士								
								微生物学	1.6																								
								ハイオテクノロジー	1.6																								
								免疫学 感染制御学 微生物実習 生物系特論	3.0 1.6 0.1 8.3																								
薬学科	生化学	教授	伊東 進 いとう すすむ	男	51	2010.4.1	2010.4.1	薬学への招待																	大阪大学 大学院薬学研究科 博士後期課程修了 薬学博士								
								早期体験学習・病院見学実習	0.4																								
								細胞の機能	1.6																								
								遺伝子 ハイオテクノロジー 生化学実習 生物系特論	1.4 1.4 0.1 3.5																								
薬学科	学修支援室	教授	宇都宮 郁 うつのみや いく	男	55	2013.10.1	1998.4.1	薬物治療 I	0.6															東京大学 薬学部卒業 博士(薬学)									
								薬物治療 III	2.0																								
								生体機能調節と活性分子 II	1.6																								
								計	3.6	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	2.1			
薬学科	体育学	教授	江成 元伸 えいなり もとのぶ	男	63	2005.7.1	1977.4.1	早期体験学習・救急法																東京大学 大学院教育学研究科 修士課程修了 教育学修士									
								保健体育学(体育実技含む)	3.2																								
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	
								基礎有機化学 I 基礎有機化学 II 基礎有機化学実習 II 化学系特論	3.0 0.2 0.2 0.2																								
薬学科	衛生化学	教授	小椋 康光 おぐら やすみつ	男	46	2009.4.1	2009.4.1	ヒューマニズムについて学ぶ:																千葉大学 大学院薬学研究科 博士後期課程修了 博士(薬学)									
								医療の担い手 食品衛生学 化学物質の毒性 衛生化学実習 生物系特論	0.2 1.8 1.8 0.3 2.1																								
								計	3.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3
								計	0.2	1.8	1.8	0.3	2.1	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

薬学科	薬剤師実務教育	助教	中村 美樹	女	32	2011.9.1	2011.9.1	2011.9.1	専前実習Ⅰ、Ⅱ(導入実習含む)	0.2								大学院薬学研究所 修士課程修了 修士(薬学)
薬学科	薬化学	助教	橋本 善光	男	30	2014.4.1	2014.4.1	2014.4.1	早期体験学習・病院見学実習 有機化学実習Ⅰ	0.2	0.0	0.0	4.3	8.4	4.5	8.6	6.6	東京工業大学 大学院理工学研究科 修士課程修了 博士(理学)
薬学科	薬物治療学	助教	瀧田 浩一	男	44	2012.4.1	2012.4.1	2012.4.1	早期体験学習・解剖学実習 早期体験学習・病院見学実習 病態・治療実習	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0	3.4	0.0	1.7	広島大学 大学院生物圏科学 研究所博士課程修了 博士(学術)
薬学科	薬物動態学	特任助教	上原 正太郎	男	31	2014.4.1	2014.4.1	2014.4.1	早期体験学習・病院見学実習 薬物動態実習				0.2					徳島大学 大学院工学研究科 博士前期課程修了 博士(薬学)
薬学科	薬理学	特任助教	高田 剛	男	29	2014.4.1	2014.4.1	2014.4.1	早期体験学習・病院見学実習 薬理実習	0.0	0.0	0.0	0.2	3.2	0.2	3.2	1.7	昭和薬科大学 大学院薬学研究所 博士課程修了 博士(薬学)
薬学科	生化学	特任助教	中野 なおこ	女	32	2014.4.1	2014.4.1	2014.4.1	早期体験学習・病院見学実習 生化学実習	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0	3.4	0.0	1.7	筑波大学 大学院人間総合科学 研究所修了 博士(医学)
									計	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0	3.4	0.0	1.7	

[注] 1 「所属学科」には、() に兼任の学科名を記入してください。

2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。

3 「授業科目」欄については、セメスター制の場合は研究室、3学期制の場合は、適宜、欄を修正して記入してください。

4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)

5 1 授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時間数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。(例：実習科目「□□□□」は担当教員2名で前後期各6.0時間の場合、6.0時間を2で除す。) また、担当時間数が明らかな場合はそれを考慮して時間数を算出してください。(例：前期の講義科目「○○○○」で○教員が担当時間3.0時間、◇教員が担当時間1.5時間と明らかな場合)

6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。

7 卒業研究は授業科目から除外して作成してください。

(基礎資料11) 卒業研究の配属状況

4年生の在籍学生数	200名
5年生の在籍学生数	234名
6年生の在籍学生数	231名
卒業延期学生の在籍学生数	37名

	配属講座など	指導教員数	4年次				5年次				6年次				卒業延期学生				総計
			臨床薬学	情報薬学	総合薬学	計	臨床薬学	情報薬学	総合薬学	計	臨床薬学	情報薬学	総合薬学	計	臨床薬学	情報薬学	総合薬学	計	
1	薬剤学	3			10	10	3	1	10	14	3	1	9	13	1			1	38
2	薬物動態学	4	5		5	10	6		7	13	4	1	5	10	1			1	34
3	薬理学	4	5	1	9	15	3		11	14	3		10	13			1	1	43
4	薬物治療学	2	2	1	6	9	7	1	6	14	3	1	8	12		1		1	36
5	衛生化学	2		1	10	11	2	1	11	14	3	1	7	11	1			1	37
6	生化学	3	1		8	9	2		11	13			12	12				0	34
7	統合感染免疫学	3	3		7	10	7	1	6	14		1	5	6			1	1	31
8	天然物化学	2	3	1	6	10	4	1	6	11	5	1	5	11	2		1	3	35
9	薬化学	3			10	10	3		9	12			7	7		1		1	30
10	医薬分子化学	3	3		10	13	1	1	11	13	2	1	10	13	1	1		2	41
11	薬品化学	3	1		9	10				0	1		3	4				0	14
12	薬品物理化学	2			5	5	5	1	4	10	2		2	4	2	1	1	4	23
13	薬品分析化学	3	3		7	10	6		8	14	1	1	11	13			2	2	39
14	医薬情報評価教育 戸田	1				0				0	6	1		7	1			1	8
15	医薬情報評価教育 串田	1				0				0	4			4				0	4
16	臨床化学分析教育 福森	1				0	3	1		4	3			3				0	7
17	臨床化学分析教育 千葉	1	2			2	4			4	5	1		6	1			1	13
18	薬品作用学教育 田口	1				0				0	2	2	3	7				0	7
19	薬品作用学教育 萩原	1	3			3	3			3	5			5	1	1		2	13
20	薬品作用学教育 濱島	1	3			3	4			4	4			4				0	11
21	薬品作用学教育 堀口	1	3			3	3		1	4	5	1	2	8		1		1	16
22	漢方治療学教育 北島	1				0	4	1		5	3	1		4	2			2	11
23	漢方治療学教育 高野	1	2		1	3	2		2	4	5	1	3	9	1	1	2	4	20
24	医療薬学教育研究センター(小野寺)	1	3			3				0				0				0	3
25	医療薬学教育研究センター(増田)	1	3			3				0				0		1	1	2	5
26	医療薬学教育研究センター(高田)	1	3			3				0				0				0	3
27	薬剤師実務教育 濱本	1	4			4	1		2	3	2			2				0	9
28	薬剤師実務教育 山本	1	2	1		3				0				0				0	3
29	薬剤師実務教育 廣原	1	3			3	5			5	6			6	2			2	16
30	薬剤師実務教育 渡部	1	3			3	4			4	6			6				0	13
31	薬剤師実務教育 土肥	1	3			3				0				0				0	3
32	化学系薬学教育 毛利	1	2	1		3	2	1	1	4	4	1	2	7				0	14
33	化学系薬学教育 小池	1	2	1		3	3	1		4	3	1		4	1			1	12
34	生物系薬学教育 船本	1	3			3	4			4	5			5				0	12
35	生物系薬学教育 中里	1	1		1	2	4			4	2		1	3	1			1	10
36	数理科学 瀧澤	1	1	1		2	2	1	1	4	3			3				0	9
37	英語・鈴木	1	3			3				0				0				0	3
38	英語・堀内	1	3			3	5			5	2	1		3				0	11
39	体育 江成	1				0	5	1		6	2	1		3	1			1	10
40	臨床心理学	1	3			3	3		1	4	2		1	3	1			1	11
41	応用数学 繁田	1	2			2	3			3				0				0	5
42	学修支援室	3	5			5				0				0				0	5
合計		68	88	8	104	200	113	13	108	234	106	19	106	231	20	8	9	37	702

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。
2 指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。
3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。

(基礎資料12) 講義室等の数と面積

キャンパス	講義室等	室数	総面積(m ²) (A)	専用・共用 の別	収容人員 (総数)	利用学生 総数 (B)	利用学生1人当 たり面積(m ²) (A/B)	備考
町田キャンパス (全学共通)	講義室	57	10,353	専用	3,663			
	実験実習室	16	7,059	専用	910			
	コンピュータ演習室	1	310	専用	130			
	学生自習室	3	366	専用	158			

- [注] 1 6年制薬学教育において使用するキャンパスごとに記入してください。
- 2 全学で全ての施設を共用している場合は、「キャンパス」欄に「全学共通」と記入してください。
- 3 共有・全学共通の場合は備考欄にその学部名(学生数)を記載し、「利用学生総数(B)」欄にもその数を含めて記入してください。
- 4 「利用学生1人当たり面積」は、小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位まで記入してください。
- 5 例示のように適宜行を追加して作成してください。

(基礎資料13) 学生閲覧室等の規模

図書室(館)の名称	学生閲覧室 座席数(A)	学生収容 定員数(B)	収容定員に対する 座席数の割合(%) $A/B * 100$	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況	備考
図書館	141	1,459	9.7	学習室	42	コピー機一台設置	学部1440 修士10 博士9
計	141	1,459	10		42		

- [注] 1 「学生収容定員(B)」には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。
 2 「備考」欄には学生収容定員(B)の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。
 3 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理末端をいくつ設置しているか等を記載してください。

(基礎資料14) 図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数 (数)		定期刊行物の種類 (種類)		視聴覚資料の 所蔵数 (点数)	電子ジャー ナルの種類 (種類)	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の冊数	開架図書の 冊数(内)	国内書	外国書			平成25年度	平成24年度	平成23年度	
図書館	85,574	85,574	391	459	312	5,328	947	1,011	1,315	分室なし
計	85,574	85,574	391	459	312	5,328	947	1,011	1,315	

- [注] 1 雑誌等すでに製本済みのは図書の冊数に加えても結構です。
- 2 開架図書の冊数(内)は、図書の冊数のうち何冊かを記入してください。
- 3 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含めてください。
- 4 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。
- 5 視聴覚資料の所蔵数については、タイトル数を記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬品物理化学	職名 教授	氏名 秋澤 宏行
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2013年1月10日	科目「化学熱力学」において、視聴覚資料を利用した講義を行った。(授業評価: 3.78)
		2014年4月15日	科目「溶液化学」において、視聴覚資料を用いた講義を行った。また、その講義は、学生が理解を深めることができるように、問題演習とも組み合わせた。
2 作成した教科書、教材、参考書		2008年9月5日	前任大学での科目「基礎薬学I実習」のなかの放射薬品学実習の実習書の改訂を行った。
		2010年11月5日	共著(第2章担当)で無機化合物・錯体[第2版]—生物無機化学の基礎—(廣川書店)を出版した。
		2011年12月30日	共著(第4章後半部担当)でNEW 放射化学・放射薬品学 第2版(廣川書店)を出版した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2011年10月31日	旭川医科大学病院薬剤部から招かれて、「放射性医薬品の基礎と取扱いの注意事項」について講演を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Renal uptake and metabolism of radiopharmaceuticals derived from peptides and proteins.	共著	2008年9月	Adv. Drug Deliver. Rev., 60(12) , 1319-1328.
(著書) Technetium-99m radiopharmaceuticals for monitoring drug resistance. In: Technetium-99m Radiopharmaceuticals: Status and Trends.	共著	2009年12月	In: Technetium-99m Radiopharmaceuticals: Status and Trends., IAEA, Vienna, pp. 255-267.
(論文) In vitro and in vivo evaluations of a radioiodinated thymidine phosphorylase inhibitor as a tumor diagnostic agent for angiogenic enzyme imaging.	共著	2010年5月	Nucl. Med. Biol., 37(4) , 427-432.
(論文) Renal brush border enzyme-cleavable linkages for low renal radioactivity levels of radiolabeled antibody fragments.	共著	2013年2月	Bioconjugate Chem., 24(2) , 291-299.
(論文) Design, synthesis and biological evaluation of negatively charged ¹¹¹ In-DTPA-octreotide derivatives.	共著	2014年2月	Bioorg. Med. Chem., 22(4) , 1377-1382.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
2008年11月～2009年7月	アイソトープ・放射線研究発表会運営委員
2009年4月～2011年3月	日本薬学会トピックス専門小委員
2011年3月～2012年3月	日本薬学会第132年会プログラム編成委員
2013年12月～2014年11月	アイソトープ・放射線研究発表会運営委員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 統合感染免疫学	職名 教授	氏名 石戸 聡
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成25年4月10日～7月10日	科目「身体をまもるシステム」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。(授業評価: 4.32)
		平成25年5月30日～6月27日	科目「ミクロの世界の生き物」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。(授業評価: 4.22)
		平成25年6月10日～7月4日	科目「遺伝子操作とバイオ医薬品」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。(授業評価: 4.34)
2 作成した教科書、教材、参考書		平成25年9月19日～10月10日	科目「微生物学実習」に関する実習書を刊行した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Loss of MHC II ubiquitination inhibits the activation and differentiation of CD4 T cells.	共著	2014年5月	Int. Immunol. 26(5):283-9.
Multidimensional umbrella sampling and replica-exchange molecular dynamics simulations for structure prediction of transmembrane helix dimers.	共著	2014年2月	J. Comput. Chem. 5:35(4):300-8.
MITOL regulates endoplasmic reticulum-mitochondria contacts via Mitofusin2.	共著	2013年7月	Mol. Cell. 51(1):20-34.
MARCH1-mediated MHCII ubiquitination promotes dendritic cell selection of natural regulatory T cells.	共著	2013年6月	J Exp Med. 3:210(6):1069-77.
Encounter with antigen-specific promoted CD4 cells promotes MHC class II degradation in dendritic cells.	共著	2012年11月	Proc. Natl. Acad. Sci. U S A. 20:109(47):19380-5.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Loss of MHC II ubiquitination induces negative consequence to dendritic cells		2014年6月	8th International Workshop on Antigen Processing & Presentation
Loss of MHC class II ubiquitination negatively regulates dendritic cells		2013年7月	THE 35th NAITO CONFERENCE
III 学会および社会における主な活動			
平成24年10月～平成28年9月	日本免疫学会評議委員		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 生化学	職名 教授	氏名 伊東 進
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2010年9月30日	科目「バイオテクノロジー」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。(授業評価: 3.9)
		2011年3月31日	科目「遺伝子」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。
		2011年3月31日	科目「細胞を構成する分子」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。
		2011年9月30日	科目「バイオテクノロジー」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。(授業評価: 3.8)
		2012年3月31日	科目「細胞を構成する分子」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。(授業評価: 4.0)
		2012年3月31日	科目「遺伝子」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。(授業評価: 3.9)
		2012年9月30日	科目「バイオテクノロジー」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。
		2013年3月31日	科目「細胞を構成する分子」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。(授業評価: 4.0)
		2013年3月31日	科目「遺伝子」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。(授業評価: 3.9)
		2013年9月30日	科目「バイオテクノロジー」において、学外講師を招き共同で実習教育を行い、実践的教育を充実した。(授業評価: 3.8)
		2013年9月30日	科目「生命体の基本単位としての細胞」において、学外講師を招き共同で実習教育を行い、実践的教育を充実した。(授業評価: 3.9)
	2014年3月31日	科目「遺伝子」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。(授業評価: 4.0)	
2 作成した教科書、教材、参考書		2012年9月20日	科目「遺伝子」に関する参考書「がん増殖と悪性化の分子機構」を刊行した。
		2014年4月1日	科目「遺伝子」の教科書「薬学のための分子生物学」を刊行した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) TMEPAI, a transmembrane TGF- β -inducible protein, sequesters from active participation in TGF- β signaling	共著	2010年1月	Mol. Cell, vol 37, No. 1, 123-134

(論文) Requirement of TCF7L2 for TGF- β -dependent transcriptional activation of the TMEPAI gene.	共著	2010年12月	J. Biol. Chem., vol. 285, No. 49, 38023-38033
(著書) がん増殖と悪性化の分子機構 regulator of transforming growth factor- β signaling	共著	2012年9月	化学同人
(著書) 薬学のための分子生物学	共著	2014年4月	廣川書店
(論文) C18 ORF1, a novel negative regulator of transforming growth factor- β signaling	共著	2014年5月	J. Biol. Chem., vol. 289, No. 18, 12680-12692
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
2013年4月～現在	日本薬学会関東支部幹事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 学修支援室	職名 教授	氏名 宇都宮 郁
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2009年3月31日	科目「免疫学」において、板書による丁寧な講義を行った。(授業評価:3.9)
		2012年9月30日	科目「生体機能調節と生理活性分子Ⅱ」において、パワーポイントを用いた講義を行った。(授業評価:4.0)
		2013年9月30日	科目「疾患と薬物治療Ⅲ」において、動画やビデオを活用した講義を行った。(授業評価:4.1)
2 作成した教科書、教材、参考書		2009年10月29日	科目「免疫学」に関する対策本「薬学CBTこあかり2物質と生命」を刊行した。
		2014年2月28日	科目「基礎生物学」の教科書「薬学生のための基礎シリーズ:基礎生命科学」を刊行した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2013年9月11日	教授会において、「学修支援に対する抱負」を説明した。
		2013年11月12日	帝京大学で開催された「教育ピアレビュー」において、学修支援について意見交換を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2013年10月25日	本学のFDワークショップ(衛生分野)に参加した。
		2014年3月15日	本学のFDワークショップ(大学院)に参加し、司会を担当した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書)薬学CBTこあかり2物質と生命	共著	2009年10月	医学評論社
(著書)薬学生のための基礎シリーズ:基礎生命科学	共著	2014年2月	培風館
(論文) Identification of amino acids in the pore region of Kv1.2 potassium channel that regulate its glycosylation and cell surface expression.	共著	2010年2月	J. Neurochem. vol.112 No.4 913-923.
(論文) Chronic administration of cardanol (ginkgol) extracted from Ginkgo biloba leaves and cashew nutshell liquid improves working memory-related learning in rats.	共著	2012年1月	Biol. Pharm. Bull. vol.35 No.1 127-129.
(論文) Effect of paclitaxel on transient receptor potential vanilloid 1 in dorsal root ganglion.	共著	2013年6月	Pain vol.154 No.6 882-889.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名)パクリタキセル誘発末梢神経障害モデルラットにおける脊髄でのP2X ₄ 受容体の関与		2014年10月	58回日本薬学会関東支部大会
(演題名)オキサリプラチン誘発末梢神経障害におけるCa ²⁺ チャネルサブユニットCa $\alpha_2\delta_1$ の関与		2014年10月	58回日本薬学会関東支部大会
III 学会および社会における主な活動			
2008年4月~2014年5月 現在	日本薬理学会評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 体育学	職名 教授	氏名 江成 元伸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2013年7月1日	科目「運動と健康」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。(授業評価: 4.3)
2 作成した教科書、教材、参考書		2014年4月7日	科目「運動と健康」において毎時間「運動と健康」の配付資料を作成した。
		2008(~2013)年 4月~7月	科目「運動と健康」において毎時間「運動と健康」の配付資料を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 2013コーチレフェリーシンポジウム資料 HANDBALL	共著	2013年4月	(財)日本ハンドボール協会
(著書) ハンドボール競技規則2010年版	共著	2010年7月	(財)日本ハンドボール協会
(著書) 大会開催マニュアル平成21年度版	単著	2009年7月	(財)日本ハンドボール協会
(著書) マッチバイザーの任務平成21年度版	単著	2009年7月	(財)日本ハンドボール協会
(著書) テクニカルでレゲートの任務平成26年度版	単著	2014年3月	(財)日本ハンドボール協会
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
2008年4月~2014年5月 現在	公益財団法人日本ハンドボール協会常務理事		
2008年4月~2014年5月 現在	公益財団法人日本体育協会国体競技運営部会員		
2014年4月~2014年5月 現在	全日本社会人ハンドボール連盟理事長		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬品化学	職名 教授	氏名 岡本 巖
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2008年9月～1月 2009年9月～1月 2010年4月～7月 2011年4月～7月 2012年4月～7月 2013年4月～7月 2014年4月	科目「基礎有機化学Ⅰ」において、基礎薬学の分野でも基礎となる、有機化学の基本的反応等を講義した。講義時間中にある程度の理解を達成するために、スライド等は使用せずに時間をかけて反応機構を板書中心に説明した。分子模型を実際に使用させて、立体化学を理解させることを重点的に行った。(授業評価: 3.9, 4.2, 4.3, 4.4, 4.5, 4.2)
		2009年6月～7月	科目「薬学英語Ⅲ-1」において、薬学の実践で用いる英語を念頭におき、研究分野に於ける英語の重要性和、実験報告を英語で行うことを取り上げた。主体的に取り組むように、ディスカッション形式も取り入れた。(授業評価: 4.0)
		2013年5月	科目「化学系特論」において、生命化学における重要問題を、化学の視点から取り上げた。実際に想像が容易な問題を取り上げ、課題として扱った。
		2008年9月～10月 2009年9月～10月 2010年9月～10月 2011年4月～5月 2012年4月～5月	科目「有機化学実習Ⅰ」において、医薬品を含む化学物質の基本的な反応性を理解するための有機化学実習。初めて有機化学を実際に実験として行う実習であり、分離・精製操作から誘導体合成まで扱う。
		2012年6月 2013年6月	科目「有機化学実習Ⅱ」において、医薬品の合成を主とした有機化学実習。実際に装置を組み立て反応をかけることで、有機合成と反応を理解する実習。
2 作成した教科書、教材、参考書		2008年～2010年9月 2011年～2012年4月	実習における安全から、基本的操作、また原理と応用について詳細に述べた教材を作成した。
		2012年3月15日	科目「基礎有機化学Ⅰ」に関する参考書「基礎有機化学」を共著にて刊行した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Polymorphism and Pseudopolymorphism of an Aromatic Amide: Spontaneous Resolution and Crystal-to-Crystal phase Transition.	共著	2008年10月	Crystal Growth & Design, 8 (10), 3871-3877.

Synthesis and evaluation of opioid receptor-binding affinity of elaeocarpenine and its analogs.	共著	2010年9月	Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters, 20 (5), 1601-1603.
Convenient Synthesis of Aminopyridinecarboxylic Acids.	共著	2011年9月	Heterocycles, 83 (10), 2343-2352.
Acid-Induced Conformational Alteration of cis-Preferential Aromatic Amides Bearing N-Methyl-N-(2-pyridyl) Moiety.	共著	2011年9月	Tetrahedron, 67 (44), 8536-8543.
Redox-Responsive Conformational Alteration of Aromatic Amides Bearing N-Quinonyl System.	共著	2012年6月	Tetrahedron, 68 (27-28), 5346-5355.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Conformational preferences and alteration of N,N-diaryl amides bearing tropolone and pyridine.		2014年8月	248th American Chemical Society National Meeting & Exposition
(演題名) Acid-induced folding of aromatic N-methyl amides bearing pyridine-2-carboxylic amides.		2014年8月	248th American Chemical Society National Meeting & Exposition
(演題名) N-ピリジル型およびN-トロポニル型芳香族アミドの立体構造特性と構造変換		2014年9月	第44回複素環化学討論会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 の名 衛生化学	職名 教授	氏名 小椋 康光
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2014年3月31日	科目「食品衛生学」において、独自に編集した副教材を利用した講義を行った。(授業評価: 4.10)
2 作成した教科書、教材、参考書		2013年4月1日 2013年9月1日 2014年2月1日	科目「食品衛生学」に関する教科書「衛生薬学」を刊行した。 科目「衛生化学実習」の実習書「衛生化学実習書」を作成した。 卒業研究教育の参考書として「毒性の科学」を刊行した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2012年12月19日	本学のFDワークショップを企画・運営した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Toxicological and pharmacological analysis of selenohomolanthionine in mice.	共著	2013年1月	Toxicol. Res., vol.2, 115-122
(著書) 食品中の微量元素	共著	2013年1月	日本食品衛生協会
(著書) 衛生薬学	共著	2013年4月	丸善
(著書) 生物学辞典	共著	2013年5月	岩波書店
(著書) 毒性の科学	共著	2014年2月	東京大学出版会
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) PC12細胞の神経分化に伴う細胞内銅濃度と銅制御因子群の変動		2014年7月	日本微量元素学会年会
(演題名) CHANGES IN INTRACELLULAR COPPER CONCENTRATION AND EXPRESSION OF COPPER-REGULATING GENES AFTER DIFFERENTIATION OF RAT PHEOCHROMOCYTOMA (PC12) CELLS INTO NEURAL CELLS		2014年8月	17th Biennial National Atomic Spectroscopy Symposium
III 学会および社会における主な活動			
2008年1月~2014年7月 現在	日本微量元素学会 評議員		
2009年1月~2010年12月	日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員		
2009年1月~2014年7月 現在	英国王立化学会 Metallomics誌 International Advisory Board、Editorial Board		
2009年4月~2012年3月	日本分析化学会 ぶんせき誌 編集委員、編集幹事		
2009年6月~2014年7月 現在	日本薬学会 環境・衛生部会 常任世話人		
2010年2月~2014年7月 現在	日本薬学会 代議員		
2010年2月~2014年7月 現在	医薬品医療機器総合機構 専門委員		
2010年4月~2014年7月 現在	日本薬学会編 衛生試験法・注解2015 編集委員長		
2011年4月~2014年7月 現在	CBT問題精選委員		
2012年1月~2013年12月	日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員		
2013年1月~2014年7月 現在	日本毒性学会 評議員		
2013年1月~2014年7月 現在	J Anal Bioanal Technol誌 Accosiate Editor		

2013年7月～2014年7月 現在	英国王立化学会 フェロー
2014年4月～2014年7月 現在	薬剤師国家試験出題委員
2014年6月～2014年7月 現在	経済産業省金属の生物蓄積性に関する検討委員会委員
2014年6月～2014年7月 現在	Fund Toxicol Sci誌 Associate Editor

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 生薬学	職名 教授	氏名 北島 潤一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2013年5月29日	科目「漢方処方」において、漢方処方を自己選択し調剤を行う実習講義を行った。(授業評価: 4.2)
		同年10月2日	科目「生薬学実習」において、漢方煎じ薬の味見をする実習を行った。(授業評価: 4.1)
2 作成した教科書、教材、参考書		2012年3月5日	科目「生薬学II」に関する教科書「新訂生薬学」を刊行した。
		2013年9月10日	科目「生薬学実習」の実習書「生薬学実習要項」を作成した。
		2014年4月1日	科目「漢方処方」の教材「漢方処方」を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Key Role of Chemical Hardness to Compare DPPH Radical Scavenging Power of Flavone and Flavonol O-Glycoside and C-Glycoside Derivatives	共著	2012年1月	Chem. Pharm. Bull., 60(1), 37-44 (2012)
(論文) Intrnal and external flavonoids from the leaves of Japanese Chrysanthemum species (Asteraceae)	共著	2012年4月	Biochemical Systematics and Ecology, 41, 142-149 (2012)
(論文) Identification of novel C-glycosylflavones and their contribution of flower colour of the Dutch iris cultivars	共著	2013年6月	Plant Physiology and Biochemistry, 72, 116-124 (2013)
(著書) 植物色素フラボノイド	共著	2013年6月	文一総合出版
(論文) Flavones and anthocyanins from the leaves and flowers of Japanese Ajuga species (Lamiaceae)	共著	2014年3月	Biochemical Systematics and Ecology, 51, 123-129 (2013)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
2006年4月～2014年5月 現在	公益社団法人日本生薬学会学会評議員		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 の名 英語	職名 教授	氏名 鈴木 英明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2013年9月30日	科目「薬学英语入門Ⅰ」において、薬学準備教育ガイドラインに準拠した教科書を用い、創意工夫をしながら授業を行った。(授業評価：3.8)
		2013年9月30日	科目「薬学英语入門Ⅱ」において、英語の苦手な学生に対して、英語の基礎から無理なく学べる授業を行った。(授業評価：3.9)
		2013年9月30日	科目「薬学英语入門Ⅲ」において、教材に最新の英字新聞やTOEIC対策用の問題集を用いて、実用的な英語力が身につく授業を行った。(授業評価：4.0)
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) 隔たりの経験——ポール・ド・マン「時間性の修辞学」における壁	単著	2009年10月	レイモンド・ウィリアムズ研究会、『レイモンド・ウィリアムズ研究』(1), 55-73
(論文) オスカー・ワイルドにおける疎外論の不可能性と不可避性	単著	2011年3月	日本オスカー・ワイルド協会、『オスカー・ワイルド研究』(12), 65-71
(論文) Arnoldian State as a Whole Community: The State and the Idea of Community in Raymond Williams's Culture and Society	単著	2012年7月	レイモンド・ウィリアムズ研究会, <i>Raymond Williams Kenkyu</i> , Special Issue, 106-112.
(著書) オスカー・ワイルドの世界	共著	2013年5月	開文社出版
(著書) 文化と社会を読む 批評キーワード辞典	共著	2013年8月	研究社
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
2007年4月～2014年5月 現在		日本ワイルド協会理事	

2012年4月～2014年5月 現在	日本英文学会編集委員会委員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 漢方治療学教育 の名 高野	職名 教授	氏名 高野 昭人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2008 ~	科目「生薬学Ⅰ」において、カラー写真資料を作成配布し、授業中に学生が必要事項を書き込み、整理できるように工夫した。(授業評価(2013):3.8)
2	作成した教科書、教材、参考書	2013年5月10日 2013年9月5日	科目「生薬学Ⅰ」でカラー配布資料を作成した。 科目「生薬学Ⅰ」の教科書「薬用植物学改訂第7版」(共著)を刊行した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2010年7月 2011年3月 2011年3月	第18回医療薬学フォーラム(広島)にて「くさび型教育による実務実習事前学習」に関するポスター発表 日本薬学会第131年会(静岡)にて、長期実務実習を実施した学生及び指導薬剤師に対する意識調査の結果をポスター発表。 日本薬学会第131年会(静岡)にて、実務実習事前学習の薬局製剤実習の取り組みについてポスター発表。
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 日本の有毒植物	共著	2012年5月	学研教育出版
(論文) Efforts of Showa Pharmaceutical University toward Pre-training for Clinical Pharmacy Practice and Its Assessment	共著	2010年12月	Journal of Essential Oil Research, 22, 263-269
(論文) Composite Constituent: Lactucenyl Acetate, a Nobel Migrated Lupane Triterpenoid from <i>Lactuca indica</i> Revision of Structure of Tarolupenyl Acetate	共著	2011年6月	Chem. Pharm. Bull., 59(6), 767-769
(論文) Diterpene and Triterpene Glycosides from <i>Rubus pedunculatus</i> D. Don in Nepal	共著	2012年2月	生薬学雑誌, 66(1), 26-27
(論文) The Identification of Vitamin E Homologues in Medicinal Plant Samples Using ESI(+)-LC-MS3	共著	2012年8月	J. Agricultural and Food Chemistry, 60(38), 9581-9588
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 中国産 <i>Adiantum davidii</i> のトリテルペノイド		2014年9月	日本生薬学会第61回年会(福岡)
(演題名) 中国広東省汎用生薬広東土槿皮の生薬学的研究		2014年9月	日本生薬学会第61回年会(福岡)
III 学会および社会における主な活動			
2012年4月~2015年3月 現在	山梨県森林総合研究所 客員研究員		
2013年4月~2015年3月 現在	独立行政法人医薬品医療機器総合機構専門委員(日本薬局方原案委員会生薬等(B)委員会)		
2014年3月~2016年2月 現在	厚生労働省 日本薬局方外生薬規格検討委員会委員		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 薬品作用学教育 の名 田口	職名 教授	氏名 田口 恭治
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2014年5月27日	科目「細胞の機能」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。(授業評価: 4.0)
		2014年6月23日	科目「臨床試験の評価法」において、学外講師を招き共同でSGDを行い自主的な学習を進めた。(授業評価: 4.0)
2 作成した教科書、教材、参考書		2008年9月1日	科目「薬物治療学」に関する教科書「薬学生のための病態生理と薬物治療」を刊行した。
		2014年5月1日	科目「実務実習事前学習」の実習書を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2013年10月2日	日本医療薬学会において、「6年次学生に対するフィジカルアセスメント実習実施とその評価」を発表した。
		2014年3月30日	日本薬学会において、「薬学部4年生を対象にしたインスリン自己注射針の穿刺及び血糖自己値測定の実験実習とその教育効果」を発表した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Single administration of 1-benzyl-1,2,3,4-tetrahydroisoquinoline increases the release of dopamine in the striatum	共著	2008年2月	Neuroscience 160, 820-828 (2009)
(論文) IgM anti-GQ1b monoclonal antibody inhibits voltage-dependent calcium current in cerebellar granule cells	共著	2009年12月	Experimental Neurology 219, 74-80 (2009)
(論文) Identification of amino acids in the pore region of Kv1.2 potassium channel that regulate its glycosylation and cell surface expression	共著	2010年3月	Journal of Neurochemistry 112, 913-923 (2010)
(論文) IgG anti-GalNAc-GD1a antibodies bind to neuromuscular junctions of rat hemidiaphragm	共著	2012年4月	Muscle and Nerve 46, 505-710 (2012)
(論文) Effect of paclitaxel on transient receptor potential vanilloid 1 in rat dorsal root ganglion	共著	2013年3月	Pain 154, 882-889 (2013)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) パクリタキセル誘発末梢神経障害モデルラットにおける脊髄でのP2X ₄ 受容体の関与		2014年10月	第58回日本薬学会関東支部大会
III 学会および社会における主な活動			
2008年4月～2014年5月 現在	公益社団法人日本薬理学会 学術評議員		
2010年4月～2014年5月 現在	特定非営利活動法人 CBT 問題管理委員		
2013年7月～2014年5月 現在	一般社団法人日本緩和医療薬学会 評議員		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬化学	職名 教授	氏名 田村 修
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	毎年5月, 6月	有機化学実習において、グループごとに面接にて試験を行っている。実習内容、実験操作、その実験の背景となる化学的な理論に付いて口頭試問を行っている。場合によっては、その場で書かせる場合もある。学生はこの面接の前に集中的に勉強している。	
	2013年3月31日	科目「基礎有機化学II」において、ほぼ毎回小テストを行い、学生間で交換して採点を行わせ、解答者、採点者の双方の名を書き、提出させた。その答えは回数し、チェックし、解答例と共に自習返却した。これにより、学生の理解度をチェックした、メリハリを与えた。(授業評価: 3.9)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2008年12月10日	ベーシック薬学教科書シリーズ「有機化学」を共著で刊行した。	
	2009年10月29日	CBT用参考書「薬学CBTこあかり2」を共著で刊行した。	
	2009年6月8日	卒論研究の参考書「天然物の全合成」化学同人を共著で刊行した	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2013年11月12日	薬学教育懇話会 第2回教育ピアレビュー 帝京大学板橋キャンパスに参加した。	
	2014年	本学のFDの一環としてTBLワークショップを企画・運営した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 天然物合成で活躍した反応	共著	2011年10月	化学同人
(著書) Methods and Applications of Cycloaddition Reactions in Organic Syntheses	共著	2014年2月	Wiley & Sons
(論文) Total Synthesis of Tubulysins	共著	2010年10月	Chemistry - A European Journal, 15(38), 11678-11688.
(論文) Synthesis of the Proposed Structure of Phaeosphaeride A	共著	2011年9月	Organic & Biomolecular Chemistry, 9(16), 5825-5832
(論文) Redox-Responsive Conformational Alteration of Aromatic Amides Bearing N-Quinonyl System	共著	2012年7月	Tetrahedron, 68(27), 5346-5355.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) BF ₃ ·OEt ₂ -Mediated Cycloaddition of (tert-Butyldimethylsilyloxyimino)acetic Acid N,N-Dimethylamide with Olefines		2014年8月	15th International Meeting on Boron Chemistry
(演題名) Radical Cyclization of ω-Alkynyl O-tert-Butyldiphenylsilyloximes Using 4-tert-Butylbenzenethiol		2014年10月	15th Tetrahedron Symposium
A Concise Synthesis of cis-HPA-12 Using Branonitrone species		2014年10月	15th Tetrahedron Symposium
III 学会および社会における主な活動			

2008年3月～2011年2月	公益社団法人日本薬学会 ファルマシア委員
2009年3月～2012年2月	公益社団法人日本薬学会 Chemistry & Pharmaceutical Bulletin 編集委員
2011年3月～2013年2月	公益社団法人日本薬学会 ファルマシア アドバイザー
2013年3月～現在	公益社団法人日本薬学会 化学系薬学部会 広報担当

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬品分析化学	職名 教授	氏名 知久馬 敏幸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2008年9月18日	科目「分析化学」(授業評価: 3.7) 科目「薬局方概論」(授業評価: 3.8)	
	2009年4月4日	科目「細胞構成分子」(授業評価: 3.7) 科目「栄養と健康」(授業評価: 4.0)	
	2009年12月22日	科目「分析化学」(授業評価: 3.9)	
	2010年5月27日	科目「細胞構成分子」(授業評価: 3.8) 科目「英語 III」(授業評価: 4.0)	
	2010年9月8日	大学院科目「薬品分析学特論及び演習」(授業評価: 4.2) 科目「分析化学」(授業評価: 4.0)	
	2011年3月8日	科目「分析化学」(授業評価: 4.1)	
	2012年3月14日	科目「分析化学」(授業評価: 4.1)	
	2012年9月15日	大学院科目「医薬品・生体分子分析学特論及び演習」 (授業評価: 5.0)	
	2013年3月14日	科目「分析化学」(授業評価: 4.0)	
	2014年4月2日	科目「分析化学」(授業評価: 3.8)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2010年2月1日	科目「分析化学」と「機器分析」に関する教科書「分析化学 I」と「分析化学 II」を刊行した。	
	2010年11月5日	科目「生物無機化学」に関する教科書「無機化合物・錯体 第2版」を刊行した。	
	2011年8月10日	科目「分析化学」に関する教科書「NEW 薬学分析化学 第2版」を刊行した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Interleukin-6 induces prostaglandin E2 synthesis in mouse astrocytes	共著	2009年9月	J. Mol. Neurosci., 39 , 175-184.
(論文) Effects of memantine on soluble A β 25-35-induced changes in peptidergic and glial cells in Alzheimer's disease model rat brain regions	共著	2009年12月	Neuroscience, 164 , 1199-1209.
(論文) Monitoring of methylergometrine in human breast milk by solid-phase extraction and high-performance liquid chromatography with fluorimetric detection	共著	2012年6月	Pharmazie, 67 , 482-484.
(論文) Monitoring of fluconazole in serum of patients undergoing hemodiafiltration by solid-phase extraction and high-performance liquid chromatography with ultraviolet detection	共著	2012年9月	Pharmazie, 67 , 765-767.

(論文) Approaches for cesium uptake by vermiculite	共著	2013年9月	J. Chem. Technol. Biotechnol., 88 , 1603-1605.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 金属マテリアルから発生させた水素分子および重水素分子の活性酸素ラジカル消去活性能		2014年6月	第 24 回金属の関与する生体関連反応シンポジウム
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
	な し		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 臨床化学分析教育 千葉	職名 教授	氏名 千葉 良子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2008年4月～ 2014年5月 2008年9月～ 2013年1月	科目「薬局方概論」において、プリントを作成し、講義・演習を行った。(授業評価の平均: 4.0) 科目「臨床分析」において、プリントによる演習のほか、画像DVDを採り入れ視聴覚資料による講義を行った。(授業評価の平均: 3.8)
2 作成した教科書、教材、参考書		2008年4月～ 2014年4月 2010年5月～ 2010年8月	科目「実務実習事前学習」の実習テキストを作成した。(前・後期および導入実習) バイタルサインチェック・フィジカルアセスメント実習の構築を行った。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) ハッカ油添加ネブライザー溶液の抗原性に関する研究	共著	2009年11月	Aroma Research, Vol10(4)
(論文) High performance liquid chromatographic determination of clarithromycin in lymphocytes using a post-column with tris(2,2'-bipyridine)ruthenium(III) chemiluminescence detection	共著	2010年1月	Journal of Health Science, 56(1)
(論文) Solid-phase extraction and determination in human serum by high-performance liquid chromatography using electrogenerated chemiluminescence detection	共著	2011年3月	Analytical Letters 44
(論文) 胃瘻 造設患者の口腔ケアに対するスギ葉精油の有用性	共著	2013年8月	Aroma Research, Vol14(2)
(論文) Bitterness evaluation to assist selection of generic drugs	共著	2013年5月	医薬品相互作用研究 35(3)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
2008年1月～2014年5月現在	秋田産業サポータークラブ ・企業振興育成WG委員 及び秋田杉活用と地域活性化WG委員		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 医薬情報評価教育 戸田	職名 教授	氏名 戸田 潤
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2012年4月3日	科目「薬物治療特論Ⅱ」(5年次前・後期/臨床薬学コース)において、PBLを本格的に導入し、前年度より課題症例の数を半分に減らし、問題点の抽出作業や必要な知識・情報の調査とグループ討議の時間を大幅に増やすなど、方略に改善を加えた。(授業評価なし)
		2013年11月6日	科目「臨床薬剤師入門」(2年次後期)の一部の授業にTBLを導入し、学生の自主的な学習を高める工夫をした。(授業評価なし)
2 作成した教科書、教材、参考書		2008年4月1日	科目「実務実習事前実習」(3年次後期、4年次前・後期のための本学独自の実習書および症例のシナリオ、模擬処方せんの内容を検討して作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2010年10月2日	第54回日本薬学会関東支部大会(東京)のシンポジウムで「動き出した長期実務実習一円滑に行うための問題点とその対応策」をテーマに発表した。
		2010年10月10日	第43回に本薬剤師会学術大会(長野)のシンポジウムで「長期実務実習元年 一実りある実務実習を求めて」をテーマに発表した。
		2011年2月11日	平成22年度日本薬剤師会薬局実務実習担当者全国会議で、「次世代の薬剤師養成」をテーマに、「1年目の実習を振り返って」と題して講演した。
		2012年3月30日	日本薬学会第132年会(札幌)のシンポジウムで、「実務実習モデル・コアカリキュラムに準拠した実習の成果と課題」と題して発表した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2010年7月23日	本学のFDワークショップを企画・運営した。演者：井下千以子教授(桜美林大学)「高度専門職業教育における豊かな学びとは -発達論とカリキュラム論の視点から-
		2010年12月22日	本学のFD講演会を企画・運営した。演者：田野中浩一教授(東京薬科大学)「大学院の現状と課題」
		2011年12月22日	本学のFD講演会を企画・運営した。演者：泉美貴教授(東京医科大学)「学生を惹き付ける授業の基本」
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) 態度教育におけるグループワークの有効性について	単著	2009年3月	昭和薬科大学紀要, 43, 81-87
(論文) アンケートからみえてきた実務実習の成果と課題	単著	2011年1月	月刊薬事, 53 (1), 23-26
(論文) 薬物治療計画立案能力の修得における問題基盤型学習の効用	単著	2012年11月	医薬ジャーナル, 48 (11), 192-196
(論文) 授業改善の試み-薬物治療特論Ⅱの場合-	共著	2013年3月	昭和薬科大学紀要, 47, 10-20
(論文) 薬局実務実習における薬学生の自己評価と指導薬剤師の学生評価の比較による到達度不十分な実習項目の分析	共著	2014年3月	昭和薬科大学紀要, 48, 13-27
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
		なし	
III 学会および社会における主な活動			
2009年4月~2011年3月	一般社薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構委員長		

2009年4月～2014年5月	現在	一般(社)薬学教育評価機構 総務・財務委員会委員
2010年4月～2014年5月	現在	公益(社)神奈川県薬剤師会 実務実習委員会委員
2012年10月～2014年5月	現在	一般(社)日本薬学会関東支部会 薬剤師向け研修講演会実行委員会ワーキンググループ
2013年4月～2014年5月	現在	一般(社)薬学教育評価機構 評価委員会委員および評価実施委員
2013年10月～2014年5月	現在	一般(社)薬学教育協議会 薬学教育調査・研究・評価委員会委員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 薬品作用学教育 の名 萩原	職名 教授	氏名 萩原 幸彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2013年3月31日	科目「生体機能調節Ⅰ」ではパワーポイントを使用した。授業評価：担当者4.26、内容4.18の評価を受けた。
		2013年3月31日	科目「医薬品の安全性」では自作のプリントを使用した。授業評価：担当者4.16、内容4.13の評価を受けた。
		2013年9月30日	科目「疾患と薬物治療Ⅰ」では自作のプリントを使用し自分が体験した疾患と入院・治療についてSB0に沿って授業を行った。授業評価：担当者4.24、内容4.20の評価を受けた。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 薬品作用学教育 の名 濱島	職名：教授	氏名：濱島 肇
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2012年3月21日	科目「感染制御学」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。(授業評価：4.01)
2 作成した教科書、教材、参考書		2011年2月5日	科目「微生物学・感染制御学」に関する教科書「新しい微生物学[第4版]」を刊行した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			無し
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			無し
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) High performance liquid chromatographic determination of clarithromycin in lymphocytes using a post-column with tris(2,2'-bipyridine) ruthenium(III) chemiluminescence detection	共著	2010年1月	J. Health Science, 56 , 14-19
(論文) Antibacterial activities against Staphylococcus aureus of terpene alcohols with aliphatic carbon chains	共著	2010年5月	J. Essential Oil Research, 22 , 263-269
(論文) Effect of farnesol on mevalonate pathway of Staphylococcus aureus	共著	2012年7月	J. Antibiot., 64 , 547-549
(論文) Effect of Silver-Loaded Zeolite on the Susceptibility of Escherichia coli Against Antibiotics.	共著	2012年1月	J. Biomater. Nanobiotechnol., 3 , 114-117
(論文) Electrochemical analysis of the redox state of silver contained in antibacterial material	共著	2012年4月	J. Biomater. Nanobiotechnol., 3 , 136-139
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
無し			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 薬剤師実務教育 の名 濱本	職名 教授	氏名 濱本 知之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2010年9月8日	科目「実務実習事前学習」において、バイタルサインチェック・フィジカルアセスメント実習を本学で初めて導入した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2010年6月以降	科目「実務実習事前学習」の実習書「実務実習事前学習 実習テキスト」を年度あたり3回、毎年度作成している。
		2011年4月15日	科目「実務実習事前学習」に関する参考書「臨床調剤学」を刊行した。
		2011年7月20日	科目「患者情報から病態を読む」に関する教科書「薬剤師がはじめるフィジカルアセスメント」を刊行した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Effects of Showa Pharmaceutical University toward pre-training for clinical pharmacy practice and its assessment	共著	2010年12月	Journal of Drug Interaction Research (Japan), 34 (2), 27-33.
(論文) Nanoparticles electrostatically coated with folic acid for effective gene therapy	共著	2011年6月	Mol. Pharm., 8 (3), 913-919.
(論文) Report of the advanced practical training program of Showa Pharmaceutical University: questionnaire surveys on students and pharmacist instructors	共著	2012年3月	BULLETIN of Showa Pharmaceutical University, 46 , 1-12.
(論文) Effects and problems of education from first clinical pharmacy training at hospital in the six-year system of pharmaceutical education: questionnaire on students and instructing pharmacists	共著	同年4月	Journal of Drug Interaction Research (Japan), 35 (3), 31-40.
(論文) Current status of awareness and implementation of the "Yakuzai-Kanri Summary" in community pharmacies prescribing drugs under the health insurance system in Japan	共著	2013年6月	Jpn. J. Pharm. Health Care Sci., 39 (6), 366-374.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
2012年4月～2014年3月	公益社団法人東京都薬剤師会 実務実習委員会委員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 の名 育 福森	臨床化学分析教 職名 教授	氏名 福森 隆次
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2011年10月30日	科目「医薬品の安全性」において、薬剤師の薬の安全性に対する役割を理解させるために努力した。(授業評価：3.4)
		2012年10月15日	科目「生体機能調節」において、基礎学力の低い学生のため、プリントと板書を使い理解させることに努めた。(授業評価：3.9)
2 作成した教科書、教材、参考書		2010年3月31日	科目「医薬品の安全性」に関する教科書「医薬品の安全性学」を刊行した。
		2010年4月10日	科目「実務実習事前実習」の実習書「実務実習事前学習実習テキスト」を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) ハッカ油添加ネブライザー溶液の抗原性に関する研究	共著	2009年4月	AROMA RESEARCH vol10
(論文) Effect of Showa Pharmaceutical University toward Pre-training for Clinical Pharmacy practice and Its Assessment	共著	2010年4月	医薬品相互作用研究vol34
(論文) 胃瘻造設患者の口腔ケアに対するスギ葉精油の有用性	共著	2013年2月	AROMA RESEARCH vol14
(著書) 医薬品の安全性学	共著	2010年3月	廣川書店
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
2008年4月～2012年3月	日本薬理学会評議員		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 生物系薬学教育 の名 船本	職名 教授	氏名 船本 常男
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2012年5月	科目「生物学 II」において、DVD資料等を用いる事による講義内容の充実を行った。(授業評価：4.17)
		2012年9月	科目「生物学 I」において、身近な例をあげて講義内容の理解度を深めるよう努めた。(授業評価：4.02)
2 作成した教科書、教材、参考書		2012年9月	放送大学面接授業「実験基礎生物学」テキストを作成した。 ＜神奈川学習センター＞
		2013年9月	科目「基礎生物実習」の実習書「基礎生物学実習テキスト」を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2013年12月	本学のFDワークショップを企画・運営した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
DNA Barcoding of <i>Panax</i> Species	共著	2011年1月	Planta Medica 77 (2) 182-187
Karyomorphological Studies in Some Species of <i>Parnassia</i> L. (Saxifragaceae s. l.) in East Asia, and Intraspecific polyploidy of <i>P. palustris</i> L.	共著	2012年6月	Journal of Botany 2012, Article ID 874256 doi:10.1155/2012/874256 10 pages
A comparative study of chromosome characters in four species of <i>Elsholtzia</i> Will. (Lamiaceae) in Japan and China	共著	2012年12月	Chromosome Botany 7 (4) 119-123
Molecular phylogenetics of <i>Chelonopsis</i> (Lamiaceae: Gomphostemmateae) as inferred from nuclear and plastid DNA and morphology	共著	2013年4月	Taxon 62 (2) 375-386
Pollen morphology of the East Asiatic genus <i>Chelonopsis</i> (Lamiaceae: Lamiaceae) and allied genera, with reference to taxonomic implications and potential pollination ecology	共著	2013年10月	Plant Biosystems 147 (3) 620-628
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
染色体特性からみたシソ科Perillinae亜族に含まれる日本産3属の関係		2014年11月	国際染色体植物学会第9回大会
III 学会および社会における主な活動			

2006年6月～2014年5月 現在	国際染色体植物学会評議員
2008年4月～2012年3月	国際染色体植物学会機関誌[Chromosome Botany]電子版編集長
1999年4月～2014年5月 現在	放送大学非常勤講師（実験基礎生物学）

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	昭和薬科大学	研究室等 薬品作用学教育 の名 堀口	職名 教授 氏名 堀口 よし江
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2008年9月30日	担当講義科目は無。薬学6年制の4年次の実務実習事前学習・実習の準備のため実習のやり方などを検討した。
		2009年3月31日	担当講義科目は無。薬学6年制の4年次の実務実習事前学習・実習の準備のため実習のやり方などを検討した。
		2009年9月30日	科目「医薬品の有機化学」において、医薬品の構造と作用の関係を講義した。毎回講義終了時にまとめを行うこと、また各講義の開始時に前回の講義のまとめと復習を行うよう工夫した。(授業評価 4.37)。その他4年生の実務実習事前実習・学習を担当
		2010年3月31日	科目「医薬品の創製と最適化」において、医薬品の構造と作用の関係を講義した。毎回講義終了時にまとめを行うこと、また各講義の開始時に前回の講義のまとめと復習を行うよう工夫した。(授業評価 4.18)。その他4年生の実務実習事前実習・学習を担当。
		2010年9月30日	科目「医薬品の有機化学」を担当した。毎回講義終了時にまとめを行うことなど工夫した。(授業評価 4.29)。その他4年生の実務実習事前実習・学習を担当
		2011年3月31日	科目「医薬品の創製と最適化」を担当。講義においては毎回講義開始時と終了時に前回の講義の復習とまとめを行うよう工夫した。(授業評価 4.18)。その他4年生の実務実習事前実習・学習を担当
		2011年9月30日	科目「医薬品の有機化学」と科目「医薬品の創製と最適化」を担当(医薬品の有機化学 授業評価 4.20)(医薬品の創製と最適化 授業評価 4.32)。その他4年生の実務実習事前実習・学習を担当
		2012年3月31日	科目「医薬品の創製と最適化」を担当(授業評価 4.37)。その他4年生の実務実習事前実習・学習を担当。
		2012年9月30日	科目「医薬品の有機化学」、「医薬品の創製と最適化」を担当。(授業評価 4.30)。その他4年生の実務実習事前実習・学習を担当。
		2013年3月31日	科目「医薬品の創製と最適化」において、医薬品の構造と作用の関係を講義した。講義においては毎回講義終了時にまとめを行うこと、また各講義の開始時に前回の講義のまとめと復習を行うよう工夫した。(授業評価 4.37)
		2013年9月30日	科目「医薬品の有機化学」を担当。講義終了時のまとめと開始時に前回の講義の復習を行うよう工夫した。(授業評価 4.33)
		2014年3月31日	科目「医薬品の創製と最適化」担当。毎回の講義で重点項目の課題をだし、学生に解答させるなど工夫した。(授業評価 4.44)。その他4年生の実務実習事前実習・学習を担当
	2 作成した教科書、教材、参考書		2008年4月15日
		2012年2月15日	科目「医薬品の有機化学」及び「医薬品の創製と最適化」に関する教科書「パートナー医薬品化学第2版」を刊行した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			

4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Synthesis of Chiral 3-Methyl- and 3-Methyl-N-propargyl-1,2,3,4-tetrahydroisoquinoline and Prevention of MPP+-Induced Cytotoxicity	共著	2008年4月	Med. Chem., 2008 (4), 531-538.
(著書) Facile synthesis of 1-aryl-2,3-dihydro-1H-isoindoles by cyclization of N-formyliminium ion via geometrically disfavored 5-endo-trig process	共著	2009年3月	Heterocycles, 78, 1177-1181
(論文) Facile synthesis and in vitro properties of 1-alkyl- and 1-alkyl-N-propargyl-1,2,3,4-tetrahydroisoquinoline derivatives on PC12 cells	単著	2009年6月	Eur. J. Med. Chem., 44, 4034-4043
(論文) Preventative effects of 1,3-dimethyl- and 1,3-dimethyl-N-propargyl-1,2,3,4-tetrahydro-isoquinoline on MPTP-induced Parkinson's disease-like symptoms in mice	共著	2010年6月	Brain Reserch 1321, 133-142
(論文) An efficient and convenient synthesis of 4,5,6,7-tetrahydrothieno[3,2-c]pyridines by a modified Pictet-Spengler reaction via a formyliminium ion intermediated	共著	2010年8月	Heterocycles, 81, 1903-1921
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名：昭和薬科大学	研究室等の名 薬物治療学	職名：教授	氏名：水谷 顕洋
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2012年11月30日	科目「大学院先端薬学特論」において、学外講師を招き、大学院生はもとより、学部学生にも生物科学の重要性を示す講義を企画した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2012年3月2日	科目「薬物治療学I, II, III」に関する教科書、Pharmacotherapy改訂2版を共著で刊行した。
		2014年4月8日	科目「薬物治療学I, II, III」に関する教科書、やさしい臨床医学テキスト第3版を共著で刊行した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Phosphorylation of Homer3 by calcium/calmodulin-dependent kinase II regulates a coupling state of its target molecules in Purkinje cells	共著	2008年5月	J. Neurosci. 28 , 5369-6382
(論文) 80K-H Interacts with Inositol 1,4,5-Trisphosphate (IP3) Receptors and Regulates IP3-induced Calcium Release Activity.	共著	2009年1月	J Biol Chem 284 , 372-380
(論文) IRBIT coordinates epithelial fluid and HCO3-secretion by stimulating the transporters pNBC1 and CFTR in the murine pancreatic duct.	共著	2009年1月	J Clin Invest 119 , 193-202
(論文) Cot kinase promotes Ca ²⁺ oscillation/calcineurin-independent osteoclastogenesis by stabilizing NFATc1 protein.	共著	2012年7月	Mol Cell Biol. 32 2954-2963
(論文) IRBIT mediates synergy between Ca ²⁺ and cAMP signaling pathways during epithelial transport in mice.	共著	2013年7月	Gastroenterology. 145 , 232-241
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	昭和薬科大学	研究室等 化学系薬学教育 の名 毛利	職名 教授 氏名 毛利 邦彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2008年9月30日	科目「薬学の基礎としての化学：原子の構造と性質」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。化学の講義においては、毎回、最後にその日の講義内容に関する問題を解かせて学生の理解度をチェックし、次の講義冒頭にフィードバックしている(授業評価：3.8)。また、科目「早期体験学習/病院・薬局見学」を企画・運営した。他に、薬学専門系実習教育「物理化学」「有機化学I」を担当した。	
	2009年3月31日	科目「薬学の基礎としての化学：化学結合」において、視聴覚資料を多用した講義を行った(授業評価：4.0)。他に、薬学専門系実習教育「有機化学II」「天然物化学」を担当。	
	2009年9月30日	科目「薬学の基礎としての化学：原子の構造と性質」(授業評価：3.8)。また、科目「薬学への招待」においてアカデミック・リテラシーを含め薬学のイントロダクションをオムニバス形式でコーディネートした他、早期体験学習/病院・薬局見学、薬学専門系実習教育「物理化学」「有機化学I」を担当。	
	2010年3月31日	科目「薬学の基礎としての化学：化学結合」(授業評価：3.8)。科目「薬学英語入門」(授業評価：4.1)。他に、薬学専門系実習教育「有機化学II」「天然物化学」を担当。	
	2010年9月30日	科目「薬学の基礎としての化学：物質の構成と化学反応I」(授業評価：3.9)。また、科目「薬学への招待」の他、早期体験学習/病院・薬局見学、薬学専門系実習教育「物理化学」「有機化学I」を担当。	
	2011年3月31日	科目「薬学の基礎としての化学：物質の構成と化学反応II」(授業評価：4.3)。他に、薬学専門系実習教育「有機化学II」「天然物化学」を担当。	
	2011年9月30日	科目「薬学の基礎としての化学：物質の構成と化学反応I」(授業評価：4.4)。また、科目「薬学への招待」の他、早期体験学習/病院・薬局見学、薬学専門系実習教育「物理化学」「有機化学I」を担当。	
	2012年3月31日	科目「薬学の基礎としての化学：物質の構成と化学反応II」(授業評価：4.3)。他に、薬学専門系実習教育「有機化学II」「天然物化学」を担当。	
	2012年9月29日	科目「薬学の基礎としての化学：物質の構成と化学反応I」(授業評価：4.3)。また、科目「薬学への招待」の他、早期体験学習/病院・薬局見学、薬学専門系実習教育「有機化学I」を担当。	
	2013年3月30日	科目「薬学の基礎としての化学：物質の構成と化学反応II」(授業評価：4.3)。他に、薬学専門系実習教育「有機化学II」「天然物化学」を担当。	
	2013年9月30日	科目「薬学の基礎としての化学：物質の構成と化学反応I」(授業評価：4.1)。また、科目「薬学への招待」の他、早期体験学習/病院・薬局見学、薬学専門系実習教育「有機化学I」「有機化学II」を担当。	
	2014年3月31日	科目「薬学の基礎としての化学：物質の構成と化学反応II」(授業評価：4.0)。他に、薬学専門系実習教育「物理化学」を担当。	
	2014年5月1日	科目「薬学の基礎としての化学：物質の構成と化学反応I」。また、科目「薬学への招待」の他、早期体験学習/病院・薬局見学、薬学専門系実習教育「有機化学I」を担当。	

2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2013年7月22日	大学評価フォーラム、「学生からのまなざし—高等教育質保証と学生の役割」(大学評価・学位授与機構主催)に参加した。	
	2013年12月18日	FD委員長として、本学のFDワークショップを企画・運営した。	
	2014年3月9日	本学大学院FDの企画・運営とタスクフォースを担当した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Facile synthesis and in vitro properties of 1-alkyl- and 1-alkyl-N-propargyl-1,2,3,4-tetra-hydroisoquinoline derivatives on PC12 cells	共著	2009年5月	Eur. J. Med. Chem, 44 , 4034-4043.
(論文) Biomimetic Total Synthesis of (±)-8-Oxo-erymelanthine	共著	2009年8月	J. Org. Chem., 74 (16), 6010-6015.
(論文) AN EFFICIENT AND CONVENIENT SYNTHESIS OF 4,5,6,7-TETRAHYDROTHIENO[3,2-c]PYRIDINES BY A MODIFIED PICTET-SPENGLER REACTION VIA A FORMYL IMINIUM ION INTERMEDIATE	共著	2010年6月	Heterocycles, 81 (8), 1903-1921.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
2011年5月～2014年5月 現在	本学評議員		
2012年4月～2014年5月 現在	一般財団法人 神林伊賀育英会評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	昭和薬科大学	研究室等の名	薬物動態学
職名	教授	氏名	山崎 浩史
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2011年9月1日	薬物動態I講義 (授業評価4.1)
		2012年9月1日	薬物動態I講義 (授業評価4.0)
		2013年9月1日	薬物動態I講義 (授業評価4.1)
2 作成した教科書、教材、参考書		2010年2月22日	「薬物動態学」編著、廣川書店
		2010年2月23日	「医療薬物代謝学」編著、医学評論社
		2014年4月28日	「薬物動態学第二版」編著、廣川書店
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2014年7月25日	「薬物動態研究・教育に役立つ情報検索」薬物動態データベースセミナー講演
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2011年12月17日	学部FD研修会グループリーダー
		2012年12月17日	学部FD研修会グループリーダー
		2013年12月17日	学部FD研修会グループリーダー
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) Fifty Years of Cytochrome P450 Research	編集/共著	2014年5月	Springer Japan, Tokyo
(著書) Encyclopedia of Drug Metabolism and Interactions	共著	2012年4月	John Wiley & Sons, New York
(論文) Approach for in vivo protein bindings of 5-n-butyl-pyrazolo[1,5-a]pyrimidine bioactivated in chimeric mice with humanized liver by two-dimensional electrophoresis with accelerator mass spectrometry	共著	2009年2月	Chem Res Toxicol. 23, 152-158
(論文) Potential impact of cytochrome P450 3A5 in human liver on drug interactions with triazoles	共著	2010年4月	Br. J. Clin. Pharmacol. 69, 593-597.
(論文) Survey of variants of human flavin-containing monooxygenase 3 (FM03) and their drug oxidation activities	共著	2013年4月	Biochem. Pharmacol., 85, 1588-1593.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
医薬品開発におけるヒト代謝物研究の役割		2014年7月	第41回日本毒性学会年会
Reactive metabolite formation of drugs by human P450s in chimeric mice with humanized liver		2014年10月	第29回日本/第19回国際薬物動態学会年会
III 学会および社会における主な活動			
2006年4月～現在	内閣府食品安全委員会 専門委員		
2010年6月～現在	(一社) 医薬品開発支援機構 総務担当理事		
2010年1月～2017年12月	日本薬物動態学会 理事		
2011年1月～2014年12月	国際薬物動態学会 理事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	昭和薬科大学	研究室等の名	医薬分子化学
職名	教授	氏名	山本 恵子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2013年6月17日 2013年5月21日	科目「化学系特論」において、双方向の講義を行った。学生は自らの考えを発表し、レポートにもまとめた。(授業評価：4.12) 科目「分子標的医薬品の創製」において、外部講師を招き最新の情報を網羅した講義を行った。(授業評価：4.08)
2	作成した教科書、教材、参考書		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2012年10月13日	第56回日本薬学会関東支部大会(東京)において、「6年制薬学のメリットを活かした基礎研究を」を講演した。
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2012年12月19日	昭和薬科大学のFDワークショップのグループリーダーを務めた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Potent Antagonist for the Vitamin D Receptor: Vitamin D Analogues with Simple Side Chain Structure.	共著	2010年7月	J. Med. Chem. 53, 5813-5826 (2010).
Butyl pocket formation in the vitamin D receptor strongly affects the agonistic or antagonistic behavior of ligands.	共著	2012年4月	J. Med. Chem. 55, 4373-4381 (2012).
Design and characterization of a selenium-containing inhibitor of activated thrombin-activatable fibrinolysis inhibitor (TAFIa), a zinc-containing metalloprotease.	共著	2012年8月	J. Med. Chem. 55, 7696-7705 (2012).
Structural basis for inhibition of carboxypeptidase B by selenium-containing inhibitor: Selenium coordinates to zinc in enzyme.	共著	2013年9月	J. Med. Chem. 56, 7527-7535 (2013).
A mixed population of antagonist and agonist binding conformers in a single crystal explains partial agonism against vitamin D receptor: Active vitamin D analogues with 22R-alkyl group.	共著	2014年4月	J. Med. Chem. 57, 4351-4367 (2014)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) ビタミンD受容体と共有結合するリガンドの創製研究		2014年6月	日本ビタミン学会第66回大会
Design, synthesis and characterization of selenium-containing inhibitors of activated thrombin-activatable fibrinolysis inhibitor (TAFIa)		2014年6月	The 15th Tetrahedron Symposium

Design and synthesis of antagonist to prevent the active conformation of Vitamin D receptor	2014年6月	The 15th Tetrahedron Symposium
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
2006年4月～2014年3月	日本ビタミン学会評議員	
2006年4月～2014年5月 現在	脂溶性ビタミン総合研究委員会委員	
2007年4月～2014年5月 現在	日本ビタミン学会幹事	
2008年4月～2014年5月 現在	東京医科歯科大学生体材料工学研究所倫理審査委員	
2010年4月～2014年5月 現在	日本レチノイド研究会幹事	
2014年4月～2014年5月 現在	日本ビタミン学会代議員	

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 薬剤師実務教育 の名 山本	職名 教授	氏名 山本 美智子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2013年5月29日	科目「医薬品情報学」において、前回の復習のための小テストを課したり調査事項をレポートにまとめるなど自主的な学習を進めた。(授業評価: 3.89)
		2013年7月2日	科目「薬学への招待」において、PBLを積極的に行うに当たりSGDを編成し自主的な学習を進めた。
		2013年5月20日	科目「薬物治療特論Ⅱ」において、PBLを積極的に行うに当たりSGDを編成し自主的な学習を進めた。
2 作成した教科書、教材、参考書		2013年8月5日	科目「医薬品情報学」に関する教科書「図解 薬害・副作用学」を刊行した。
		2014年1月20日	科目「医薬品情報学」に関する教科書「図解 医薬品情報学」を刊行した。
		2014年4月30日	科目「事前学習」の実習書「事前学習手引き」を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2013年7月19日	日本製薬医学会第4回年次大会において、「薬学部における医薬品安全性教育の取り組み」を講演した。
		2013年9月13日	第3回レギュラトリーサイエンス学会シンポジウムにおいて、「薬剤師の教育：ファーマコビジランスの観点から」を講演した。
		2013年10月14日	日本社会薬学会32年会において「医薬品の安全性に関する取り組みと課題—医薬品の評価情報基盤と人材育成に向けて—」の基調講演を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2013年5月1日	熊本大学薬学部から招かれて、薬学教育に関する教育講演を行った。
		2013年7月20日	三重大学医学部から招かれて、医薬品の安全性教育に関する教育講演を行った。
		2013年12月20日	鈴鹿医療科学大学薬学部から招かれて、医薬品の安全性教育に関する教育講演を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) ステムを知られば薬がわかる	共著	2013年2月	じほう
(著書) 最悪に備えよ - 医薬品および他の医療関連危機を予測し回避または管理する	共著	2013年6月	じほう
(論文) A comparative study of the communication of drug safety information by government agencies in Japan and Western countries: the case of asthma medications	共著	2008年12月	Drug Inf. Journal., 42, 583-596.
(論文) Patient reports on adverse drug reactions: findings in a pilot study in Japan	共著	2013年10月	Pharmacoepidemiol Drug Saf., 22, 1134-1137.
(論文) Academic Detailing 医薬品適正使用のための根拠に基づくアプローチ 最適な薬物治療に向けたAcademic Detailingと薬剤師の役割	単著	2014年3月	薬学雑誌, 134(3), 355-362.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Academic detailingの流れ		2014年8月	日本アプライド・セラピューティクス学会

(演題名) 医薬品の情報提供の今後を考える	2014年9月	日本レギュラトリーサイエンス学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
2006年4月～現在	くすりの適正協議会専門委員	
2008年4月～現在	医薬品情報学会 研修委員会委員	
2010年4月～現在	独立行政法人医薬品医療機器総合機構 専門委員	
2010年4月～現在	熊本大学薬学部臨床教授	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 臨床心理学	職名 教授	氏名 吉永 真理
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2010年9月30日	科目「人と文化Ⅳ 人間の行動と心理」において、ロールプレイを積極的に行い参加型の講義を進めた。(授業評価：4.0)	
	2012年3月31日	科目「人と文化Ⅳ 人間の行動と心理」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。(授業評価：4.2)	
	2013年3月31日	科目「人と文化Ⅳ 人間の行動と心理」において、学外講師とともにワークショップ形式の講義を行い、学生の主体的学びを充実させた。(授業評価：4.3)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2010年3月31日	2009年度科目「薬学への招待」に初年次教育プログラムを導入する試みを行い、成果集をまとめた。	
	2010年9月1日	科目「事前実習」に参加する模擬患者 (SP) に対して「SP用学生対応マニュアル」を作成し、実習内容をわかりやすく解説できるようにした。	
	2013年3月31日	科目「人と文化Ⅳ 人間の行動と心理」で実施したワークショップの実施マニュアルを作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2012年3月	日本薬学会第131回年会 (北海道) 2012/3において「大学周辺コミュニティの特性を活かしたSP養成プログラムの開発と実践」について発表した。	
	2013年3月	日本薬学会第132回年会 (横浜) 2013/3において「『ヒューマンズムについて学ぶ：生と死』における4年間の学びの実感と自己効力感の関連性」について発表した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2013年3月	本学のFD講師としてポートフォリオ作成について他大学や他学部の実践例を紹介し、薬学分野の大学院教育での応用可能性について概説した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) 子ども白書2010「子どもの視線からのまちづくりに向けて」	共著	2010年8月	日本子どもを守る会編、32-33、草土文化、東京
(論文) まちでの遊びが子どもの生活リズムや心身健康状態に及ぼす影響に関する研究	共著	2009年8月	学校保健研究 51(3):183-192
(論文) 四世代遊び場マップができるまでー 2005～2008年まで4年間の遊びとまち研究会の軌跡ー	共著	2009年9月	「住まい・まち学習」10:79-82
(論文) 小中学生の地域活動への参加体験が心身健康度やコミュニティ・エンパワメント意識に与える影響	単著	2013年4月	こども環境学研究9(1):53-67
(論文) Effects of Participation in Community Activities on Self-Efficacy of Japanese Junior High School Students	共著	2014年	in press (Global Journal of Community Psychology Practice Volume 5, Issue 1)
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Child-Friendly Cities Movement in Asia-Pacific アジア・パシフィック地域における「子どもにやさしい都市」の広がり		2014年4月	こども環境学会2014年大会、京都
(演題名) The Movement of Child Friendly City in Indonesia インドネシアにおける「子どもにやさしい都市 (まち)」のムーブメント (発表賞受賞)		2014年4月	こども環境学会2014年大会、京都

(演題名)被災地とつながり、共に学び、支え合う：子どもが真ん中	2014年6月	コミュニティ心理学会第17回大会、自主シンポジウム「東日本大震災の被災者支援：子ども支援のその後の展開（パート2）、京都
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
2012年4月～2014年5月現在	公益社団法人こども環境学会理事	
2010年4月～2014年5月現在	NPO法人世田谷福祉住環境コーディネーター研究会監事	
2013年12月～2014年5月現在	町田市子ども・子育て会議委員（副議長）	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬理学	職名 教授	氏名 渡邊 泰男
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2008年9月30日	科目「薬の効き方Ⅰ」において、視聴覚資料を多用し、小テストを実施した講義を行った。(授業評価：4.2)	
	2009年3月31日	科目「薬の作用」において、視聴覚資料を多用し、小テストを実施した講義を行った。(授業評価：4.4)	
	2009年9月30日	科目「薬の効き方Ⅰ」において、視聴覚資料を多用し、小テストを実施した講義を行った。(授業評価：4.4)	
	2010年3月31日	科目「薬の作用」において、視聴覚資料を多用し、小テストを実施した講義を行った。(授業評価：4.3)	
	2010年9月30日	科目「薬の効き方Ⅰ」において、視聴覚資料を多用し、小テストを実施した講義を行った。(授業評価：4.6)	
	2011年3月31日	科目「薬の作用」において、視聴覚資料を多用し、小テストを実施した講義を行った。(授業評価：4.4)	
	2011年9月30日	科目「薬の効き方Ⅰ」において、視聴覚資料を多用し、小テストを実施した講義を行った。(授業評価：4.5)	
	2011年9月30日	科目「英語Ⅲ-1」において、視聴覚資料を多用した実践的講義を行った。(授業評価：4.4)	
	2012年3月31日	科目「薬の作用」において、視聴覚資料を多用し、小テストを実施した講義を行った。(授業評価：4.5)	
	2012年9月30日	科目「薬の効き方Ⅰ」において、視聴覚資料を多用し、小テストを実施した講義を行った。(授業評価：4.4)	
	2013年3月31日	科目「薬の作用」において、視聴覚資料を多用し、小テストを実施した講義を行った。(授業評価：4.5)	
	2013年9月30日	科目「薬の効き方Ⅰ」において、視聴覚資料を多用し、小テストを実施した講義を行った。(授業評価：4.5)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2009年7月17日	科目「薬の効き方Ⅰ」に関する参考書「薬学CBTこあかり」を刊行した。	
	2013年3月20日	科目「薬の作用・薬の効き方Ⅰ」に関する教科書「疾病の回復を促進する薬」を刊行した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Nitric oxide-mediated modulation of Calcium/Calmodulin-dependent protein kinase II	共著	2008年7月	Biochem. J. 412, 223-231
(論文) Modification of endothelial nitric oxide synthase through AMPK after experimental subarachnoid hemorrhage.	共著	2009年7月	J Neurotrauma. 26, 1157-65

(論文) Activation of PI3 kinase/Akt signaling in chronic subdural hematoma outer membranes.	共著	2011年7月	J Neurotrauma. 28 , 1127-31
(論文) Real-time monitoring of liver damage during experimental ischaemia-reperfusion using a nitric oxide sensor.	共著	2012年8月	Br J Surg. 99 , 1120-8
(論文) Redox signal regulation via nNOS phosphorylation at Ser847 in PC12 cells and rat cerebellar granule neurons.	共著	2014年4月	Biochem J. 459 , 251-63
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) NOによる細胞内Ca ²⁺ 流入増強メカニズムの解明		2014年5月	第14回日本NO学会学術集会
(演題名) 硫化水素産生酵素cystathionine γ -lyase (CSE)の阻害剤探索		2014年6月	日本ケミカルバイオロジー学会 第9回年会
(演題名) Reversible Inactivation of Ca ²⁺ /calmodulin-dependent Protein Kinase IV by Reactive Cysteine Persulfides Generated from Cystathionine- γ -lyase and Cystine		2014年6月	The 8th International Conference on the Biology, Chemistry, and Therapeutic Applications of Nitric Oxide
(演題名) Redox Signal Regulation via nNOS Phosphorylation at Ser847 in PC12 cells and Rat Cerebellar Granule Neurons		2014年6月	The 8th International Conference on the Biology, Chemistry, and Therapeutic Applications of Nitric Oxide
(演題名) ニトロソ化修飾を介したシスタチオンin γ -リアーゼの活性制御		2014年7月	第130回日本薬理学会関東部会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
2005年4月～	現在	公益社団法人日本薬理学会評議員	
2006年4月～	現在	一般社団法人日本生理学会評議員	
2008年4月～	現在	日本NO学会理事	
2012年4月～	現在	日本神経化学学会評議員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 の名 薬剤学	職名 教授	氏名 渡邊 善照
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2010年3月31日	科目「薬物送達法」において、視聴覚資料を用いた講義を行った。(授業評価：4.0)
		2010年9月30日	科目「医薬品の開発と生産」において、視聴覚資料を用いた講義を行った。(授業評価：3.8)
		2011年3月31日	科目「個別化治療の基礎」において、実践的内容を重視した講義を行った。(授業評価：3.8)
		2011年3月31日	科目「医薬品の安全性」において、自主的な学習を進めた。(授業評価：3.8)
		2012年9月30日	科目「薬物送達法」において、学外講師を招き、薬害教育を充実した。(授業評価：4.0)
		2013年9月30日	科目「薬物送達法」において、学外講師を招き、薬害教育を充実した。(授業評価：4.0)
2 作成した教科書、教材、参考書		2009年4月10日	科目「個別化治療の基礎」に関する教科書「臨床への薬物動態学」を刊行した。
		2012年4月10日	科目「薬物送達法」に関する教科書として「標準薬剤学改訂第3版」を刊行した。
		2014年4月5日	卒業研究教育の参考書として「薬剤学実験法」を編纂、刊行した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2009年7月4日	日本薬剤学会第34回製剤セミナー・フォーラムにおいて、「社会のニーズと薬剤学教育担当者の役割」を講演した。
		2011年5月31日	日本薬剤学会第26年会薬学教育シンポジウムにおいて、「薬学部教育に続く新大学院での教育と研究」を講演した。
		2013年5月25日	日本薬剤学会第28年会薬学教育シンポジウムにおいて、「薬学教育の国際化、国際交流の活性化に向けて」を講演した。
		2014年5月26日	日本薬剤学会第29年会薬学教育シンポジウムにおいて、「薬剤学教育における国際性の充実に向けて」を発表した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2011年5月7日	本学の大学院FDワークショップを大学院研究科長として企画、タスクフォースとして運営した。
		2012年3月17日	本学の大学院FDワークショップを大学院研究科長として企画、タスクフォースとして運営した。
		2012年12月22日	日本大学薬学部から招かれて、同薬学部FDワークショップで教育講演を行った。
		2013年3月9日	本学の大学院FDワークショップを大学院研究科長として企画、タスクフォースとして運営した。
		2014年3月15日	本学の大学院FDワークショップを大学院研究科長として企画、タスクフォースとして運営した。
II 研究活動			

1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文） Domain mapping of a claudin-4 modulator, the C-terminal region of C-terminal fragment of Clostridium perfringens enterotoxin, by site-directed mutagenesis	共著	2008年8月	Biochem. Pharmacol., 75 , 1639-1648.
（論文） Novel chronotherapeutic rectal aminophylline delivery system for therapy of asthma	共著	2009年6月	Int. J. Pharmaceut., 379 , 119-124.
（論文） Effects of application method o skin penetration of carboxyfluorescein incorporated in liposomes	共著	2010年3月	Chem. Pharm. Bull., 58 , 429-431.
（論文） Effects of application method o skin penetration of carboxyfluorescein incorporated in liposomes	共著	2011年4月	Int. J. Pharmaceut., 413 , 119-125.
（論文） Percolation analysis in electrical conductivity of Madin-Darby canine kidney and Caco-2 cells by permeation-enhancing agents	共著	2013年3月	Biol. Pharm. Bull., 36 , 384-389.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名） Sec61 β regulates barrier functions of tight junction via the expression of claudin-4 in epithelial cells		2014年4月	5th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress
（演題名） 各層除去皮膚におけるウフェナマートと基剤の皮膚移行量の関係		2014年5月	日本薬剤学会第29年会
（演題名） 疎水化ヒドロキシプロピルメチルセルロースを用いたo/w型乳剤の処方検討		2014年5月	日本薬剤学会第29年会
（演題名） イメージング用アデノウイルスベクターの開発		2014年7月	第30回日本DDS学会
（演題名） Effect of claudin-4 expression on the barrier function of tight junction in epithelial cells treated with TNF- α		2014年8月	74th FIP World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
2008年4月～2014年5月 現在	日本薬剤学会評議員		
2008年4月～2014年5月 現在	日本薬物動態学会評議員		
2008年4月～2014年5月 現在	日本DDS学会評議員		
2008年4月～2014年5月 現在	日本薬理学会学術評議員		
2008年4月～2014年5月 現在	ジェネリック医薬品協議会理事		
2008年4月～2010年3月	横浜市立大学医学部附属病院臨床試験審査委員会委員		
2009年4月～2011年3月	厚生労働省医道審議会・薬剤師分科会、国家試験出題基準改訂部会委員		
2010年4月～2014年5月 現在	日中医学協会共同研究等助成事業委員会委員		
2010年5月～2014年5月 現在	日本薬剤学会監事		
2013年12月～2014年5月 現在	独立行政法人日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名	学修支援室	職名 准教授 氏名 井上 能博
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2012年3月31日	科目「化学療法学」において、理解の一助となるような身の回りの感染症に関する話題を適宜提供する講義を行った。(授業評価：4.27)
		2012年9月30日	科目「微生物学」において、板書を書くペースを調節した講義を行った。(授業評価：4.4)
		2013年3月31日	科目「感染制御学」において、絵を用いた解説を多く取り入れる講義を行った。(授業評価：4.54)
		2013年9月30日	科目「微生物学」において、興味を引き出し、記憶の定着を促すため、ニュースや最新の研究成果などを紹介した。(授業評価：4.5)
		2014年3月31日	科目「感染制御学」において、板書だけでなく、動画や図などを取り入れ、より理解しやすい工夫をした。(授業評価：4.5)
2 作成した教科書、教材、参考書		2009年6月1日	科目「微生物の取り扱い」の実習書「微生物学実習書」を作成した。
		2010年5月27日	科目「微生物の取り扱い」の実習書「微生物学実習書」を作成した。
		2011年5月24日	科目「微生物の取り扱い」の実習書「微生物学実習書」を作成した。
		2011年2月5日	科目「微生物学」および「感染制御学」に関する教科書「新しい微生物学」(廣川書店)を刊行した。
		2012年9月3日	科目「微生物の取り扱い」の実習書「微生物学実習書」を作成した。
		2013年4月7日	リメディアル教育として行う物理補講のための「学習手引書」を作成した。
		2013年8月29日	科目「微生物の取り扱い」の実習書「微生物学実習書」を作成した。
		2014年4月2日	リメディアル教育として行う物理補講のための「学習手引書」を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2013年4月～6月	高等学校で物理学を未履修の学生対象にリメディアル教育の一環として補講を行った。
		2013年10月10日	学修支援部門の充実を図るため東京薬科大学へ視察と意見交換を行った。
		2014年4月～6月	学業不振学生(1, 5, 6年生および卒業延期生)対象の補講を行った。
		2014年5月～6月	高等学校で物理学を未履修の学生対象にリメディアル教育の一環として補講を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Light irradiation is a factor in the bactericidal activity of silver-loaded zeolite	共著	2008年	Chem. Pharm. Bull., 56, 692-694.
Antibacterial activities against <i>Staphylococcus aureus</i> of terpene alcohols with aliphatic carbon chains	共著	2010年	J. Essent. Oil Res., 22, 263-269

Effect of farnesol on mevalonate pathway of <i>Staphylococcus aureus</i>	共著	2011年	J. Antibiot., 64 , 547-549.
Effect of silver-loaded zeolite on the susceptibility of <i>Escherichia coli</i> against antibiotics	共著	2012年	J. Biomater. Nanobiotech., 3 , 114-117.
Electrochemical analysis of the redox state of silver contained in antibacterial material	共著	2012年	J. Biomater. Nanobiotech., 3 , 136-139.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
	未定		
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
	特になし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 臨床薬学教育	職名 准教授	氏名 小野寺 敏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			特記なし
2 作成した教科書、教材、参考書		2013年9月1日	科目「薬物治療」に関する参考書「疾病の成り立ちと薬物療法」を刊行した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特記なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			特記なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) 疾病の成り立ちと薬物療法	共著	2013年9月	医学評論社
(著書) シマ桑	共著	2014年5月	メディアパル
(論文) Interference of silibinin with IGF-1R signalling pathways protects human epidermoid carcinoma A431 cells from UVB-induced apoptosis.	共著	2013年2月	Biochemical and Biophysical Research Communication . Vol1432, No2
(論文) Pseudolaric Acid B-Induced Autophagy Contributes to Senescence via Enhancement of ROS Generation and Mitochondrial Dysfunction in Murine Fibrosarcoma L929 Cells.	共著	2013年3月	J Pharmacol Sci. Vol121, No3
(論文) Silibinin protects murine fibroblast L929 cells from UVB-induced apoptosis through the simultaneous inhibition of ATM-p53 pathway and autophagy.	共著	2013年	FEBS J, Vol 280
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) マウス線維肉腫細胞L929へのTNF α 細胞毒性作用に対しI型コラーゲンとゼラチンは異なる影響を示す		2014年6月	日本結合組織学会年会
(演題名) 沖縄県友人最南端「波照間島」に自生するシマ桑の食品機能調査		2014年7月	日本保健医療学会年会
III 学会および社会における主な活動			
2012年4月～2014年5月現在	日本医療福祉学会会長		
2006年10月～2014年5月現在	日本マイナスイオン応用学会副会長		

1996年2月～2013年4月	日本地域薬局薬学会会長（現在理事）
2003年10月～2014年5月現在	日本未病システム学会評議員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬品分析化学	職名 准教授	氏名 小林 茂樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2013年3月30日	科目「機器分析学」において、視聴覚資料や演習問題スピン2012を作成し講義に活用。(授業評価: 3.6 平均)
2 作成した教科書、教材、参考書		2008年9月1日	科目「分析化学」に関する教科書「分析化学I」を刊行した(朝倉書店)。
		2008年9月1日	科目「機器分析学」に関する教科書「分析化学II」を刊行した(朝倉書店)。
		2010年2月1日	科目「分析化学」に関する教科書「分析化学I」(基礎化学から医療薬学へ)を刊行した(廣川書店)。
		2010年2月1日	科目「機器分析学」に関する教科書「分析化学II」(機器分析の医療薬学への応用)を刊行した(廣川書店)。
		2014年2月1日	科目「分析化学実習」の実習書「容量分析学実習要項」を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文)Development of New Double-Stranded Phenylalanyl Chelators Using h- χ Diagrams and Binding Constants for Chelators and Lanthanide Ions.	共著	2010年5月	Chem. Pharm. Bull., 58 , 620-627.
(論文)Potent 2,2-Diphenyl-1-picrylhydrazyl Radical-Scavenging Activity of Novel Antioxidants, Double-Stranded Tyrosine Residues Conjugating Pyrocatechol	共著	2010年11月	Chem. Pharm. Bull., 58 , 1442-1446.
(論文)Key Role of Chemical Hardness to Compare 2,2-Diphenyl-1-picrylhydrazyl Radical Scavenging Power of Flavone and Flavonol O-Glycoside and C-Glycoside Derivatives	共著	2012年1月	Chem. Pharm. Bull., 60 , 37-44
(論文)Superoxide Scavenging Effects of Some Novel Bis-Ligands and Their Solvated Metal Complexes Prepared by the Reaction of Ligands with Aluminum, Copper and Lanthanum Ions	共著	2013年6月	Molecules, 18 , 6128-6141.
(論文)Effects of ionic radius of redox-inactive bio-related metal ions on the radical-scavenging activity of flavonoids evaluated using photometric titration	共著	2013年8月	Chem. Commun., 49 , 9842-9844
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
活性酸素種のスキャベンジングに対する新規Mgマテリアルの水素分子生成機構		2014年5月	日本コンピュータ化学会 2014春季年会
Antioxidant Effects of Hydrogen and Deuterium Produced from Metal Systems		2014年6月	第24回 金属の関与する生体関連反応シンポジウム

Antioxidant Activities and Mechanism of Production of Hydrogen and Deuterium Molecules Produced from Magnesium-Organic Acid Systems	2014年6月	第24回 金属の関与する生体関連反応シンポジウム
Ⅲ 学会および社会における主な活動		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	昭和薬科大学	研究室等の名	応用数学 繁田
職名	准教授	氏名	繁田 岳美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2012年4月	科目「情報科学実習・演習」の資料を作成することにより、効果的に実習・演習を行った。(授業評価:3.7(2013年度)、3.9(2014年度))	
	2012年6月	科目「微分積分学」の教科書の問題に対する詳細な解答・解説集を作成することにより、学生の自習を効果的に補助した。(授業評価:4.2(2012年度)、4.2(2013年度))	
	2012年6月	科目「医療統計学」の教科書の問題に対する詳細な解答・解説集を作成することにより、学生の自習を効果的に補助した。(授業評価:3.9(2012年度)、3.9(2013年度))	
	2012年9月	科目「微分方程式・線形代数」の教科書の問題に対する詳細な解答・解説集を作成することにより、学生の自習を効果的に補助した。(授業評価:4.1(2013年度))	
2 作成した教科書、教材、参考書	2012年4月	科目「情報科学実習・演習」の資料「コンピュータとインターネットのしくみ」、「情報倫理、情報セキュリティ、情報検索」、「ウェブページの作成」を作成した。	
	2012年6月	科目「微分積分学」の教科書の問題に対する詳細な解答・解説集を作成した。	
	2012年6月	科目「医療統計学」の教科書の問題に対する詳細な解答・解説集を作成した。	
	2012年9月	科目「微分方程式・線形代数」の教科書の問題に対する詳細な解答・解説集を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Method of fundamental solutions with optimal regularization techniques for the Cauchy problem of the Laplace equation with singular points	共著	2009年4月	J. of Comp. Phys., 228 (6), 1903-1915
(論文) Mathematical aspects and numerical computations of an inverse boundary value identification using the adjoint method	単著	2010年2月	Far East J. of App. Math., 39 (2), 81-93
(論文) Regularized solutions with a singular point for the inverse biharmonic boundary value problem by the method of fundamental solutions	共著	2011年7月	Eng. Ana. with Boun. Elem., 35 (7), 883-894
(論文) Mathematical and numerical studies on meshless methods for exterior unbounded domain problems	共著	2011年7月	J. of Comp. Phys., 230 (17), 6900-6915
(論文) Adaptive multilayer method of undamental solutions using a weighted greedy QR decomposition for the Laplace equation	共著	2012年8月	J. of Comp. Phys., 231 (21), 7118-7132
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Poisson方程式における重複領域分割法の最適なパラメータに関する数学的理論		2014年9月	日本応用数理学会
Mathematical theory on the optimal parameter for an overlapping domain decomposition method in the Poisson equation		2014年10月	The 5th Boundary Element Method Conference

Ⅲ 学会および社会における主な活動		
2014年6月～	現在	学校法人明法学院 明法中学・高等学校 評議員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	昭和薬科大学	研究室等の名	天然物化学
職名	准教授	氏名	中根 孝久
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2008年4月1日	科目「生薬学1」において、薬局方の生薬関連分野の条項作成を例示し、講義を行った。(授業評価: 3.5) 科目「機器分析」において、演習問題が充実している教科書を用い、演習を講義に導入した。(授業評価: 3.3)	
	2009年4月1日	科目「生薬学1」において、生薬が抱える問題点を動画を用いて講義を行った。(授業評価: 3.5) 科目「機器分析」において、演習問題を作成し、講義を行った。(授業評価: 3.6)	
	2010年4月1日	科目「生薬学1」において、ハーブやサプリメントなどの取扱い、食薬区分などを例示し、講義を行った。(授業評価: 3.6) 科目「機器分析」において、演習問題の解説を多く取り入れ講義を行った。(授業評価: 3.7)	
	2011年4月1日	科目「化学英語」において、生薬・天然物化学関連の構造決定に関する論文を教材とし、講義を行った。(授業評価: 3.6) 科目「生薬学1」において、薬局方の改正に伴い、改正点を整理して講義を行った。(授業評価: 3.8) 科目「機器分析」において、演習問題がより充実している教科書を選定し、講義のなかで演習時間を設け、理解度の向上に努めた。(授業評価: 3.5)	
	2012年4月1日	科目「生薬学1」において、ここの生薬と主要成分の構造式及び確認試験法の関連が理解し易いように関連付けを行いながら講義を行った。(授業評価: 3.9) 科目「機器分析」において、独自に得た化合物のチャートを例示して、構造解析法の解説を行った。(授業評価: 3.5)	
	2013年4月1日	科目「生薬学1」において、薬局方と国際調和など生薬を取り巻く環境を考慮しながら講義を行った。(授業評価: 3.6) 科目「薬局方概論」において、演習問題を配布し、解説して個々の理解度を高めるように指導した。(授業評価: 3.7)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2008年4月1日	科目「生薬学1」の補助教材として「生薬学1」講義プリントを作成・更新した。科目「機器分析」の補助教材として「機器分析演習問題」を作成・更新した。科目「天然物化学実習」の実習書「天然物化学実習指針」を刊行した。	
	2009年4月1日	科目「生薬学1」の補助教材として「生薬学1」講義プリントを作成・更新した。科目「機器分析」の補助教材として「機器分析演習問題」を作成・更新した。科目「天然物化学実習」の実習書「天然物化学実習指針」を刊行した。	
	2010年4月1日	科目「生薬学1」の補助教材として「生薬学1」講義プリントを作成・更新した。科目「機器分析」の補助教材として「機器分析演習問題」を作成・更新した。科目「天然物化学実習」の実習書「天然物化学実習指針」を刊行した。	
	2011年4月1日	科目「生薬学1」の補助教材として「生薬学1」講義プリントを作成・更新した。科目「機器分析」の補助教材として「機器分析演習問題」を作成・更新した。科目「天然物化学実習」の実習書「天然物化学実習指針」を刊行した。	

	2012年4月1日	科目「生薬学1」の補助教材として「生薬学1」講義プリントを作成・更新した。科目「機器分析」の補助教材として「機器分析演習問題」を作成・更新した。科目「天然物化学実習」の実習書「天然物化学実習指針」を刊行した。	
	2013年4月1日	科目「生薬学1」の補助教材として「生薬学1」講義プリントを作成・更新した。科目「機器分析」の補助教材として「機器分析演習問題」を作成・更新した。科目「薬局方概論」の教材及び補助教材として「日本薬局方及び演習」を作成した。科目「天然物化学実習」の実習書「天然物化学実習指針」を刊行した。	
	2014年4月1日	科目「生薬学1」の補助教材として「生薬学」を作成・更新した。科目「薬局方概論」の教材及び補助教材として「日本薬局方及び演習」を作成・更新した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2009年3月26日	日本薬学会第129年会において、若手シンポジウム、生薬学の伝統と革新—将来増に求められるものとは？—のなかで、シンポジストとして「6年生薬学教育における生薬学のあり方について考える」を講演した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 日本の有毒植物(フィールドベスト図鑑)	共著	2012年5月	学研
(論文) Water-Soluble Undenatured Type II Collagen Ameliorates Collagen-Induced Arthritis in Mice	共著	2011年3月	<i>J of Medicinal Food</i> , 16(11), 1039-1045 (2013)
(論文) Officinatrione: an unusual (17S)-17,18-seco-lupane skeleton, and four novel lupane-type triterpenoids from the roots of <i>Taraxacum officinale</i>	共著	2012年12月	<i>Tetrahedron</i> , 69, 1583-1589 (2012)
(論文) The Identification of Vitamin E Homologues in Medicinal Plant Samples Using ESI(+)-LC-MS3	共著	2012年8月	<i>Journal of agricultural and food chemistry</i> , 60(38), 9581-9588 (2012)
(論文) Composite Constituent: Lactucenyl Acetate, a Novel Migrated Lupane Triterpenoid from <i>Lactuca indica</i> Revision of Structure of Tarolupenyl Acetate	共著	2013年2月	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> , 59(6), 767-769 (2011).
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 中国産 <i>Adiantum davidii</i> のトリテルペノイド		2014年9月	日本生薬学会
(演題名) 中国広東省汎用生薬広東土槿皮の生薬学的研究		2014年9月	日本生薬学会
III 学会および社会における主な活動			
2008年4月～2014年5月現在	日本薬学会ファルマシア地区通信委員として、薬学会機関誌へ学内人事の掲載依頼などを行った。		
2008年4月～2014年5月現在	昭和薬科大学の地域貢献の一環として、年6回薬草教室を開催した。		
2008年4月～2014年5月現在	植物中毒に関する研究会委員として、厚労省HPなどを通じて植物中毒の周知、警鐘を行った。		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 薬剤師実務教育 の名 廣原	職名 准教授	氏名 廣原 正宜
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2010年9月8日	4年次「実務実習事前学習」において、バイタルサインチェック・フィジカルアセスメント実習を取り入れた。	
	2010年9月8日	4年次「実務実習事前学習」において、無菌製剤（抗がん剤の取り扱い）実習では、閉鎖系混合システムなど、最新の医療材料を取り入れ、学生が実際に体験できるように工夫した。	
	2014年4月8日	5年次「薬物治療特論Ⅱ」において、症例検討をPBL形式で行い、学生が自ら問題点を見つけ、解決（提案）できるように講義内容を検討、SGDでは学生の意欲が高まるように促した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2010年6月以降	科目「実務実習事前学習」の実習書「実務実習事前学習 実習テキスト（無菌製剤）」を年度あたり3回、毎年度作成している。	
	2013年2月28日	（参考書）症例検討入門 第2版 一薬物治療に最適なプロセスとは―	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2009年12月以降	薬学共用試験(OSCE)、評価者直前講習会、評価者養成伝達講習会の企画・運営	
	2012年9月16日 2013年1月13日 2013年9月15日	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(神奈川県)のタスクフォース	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Effects of Showa Pharmaceutical University toward pre-training for clinical pharmacy practice and its assessment	共著	2010年12月	Journal of Drug Interaction Research (Japan), 34 (2), 27-33.
(論文) Report of the advanced practical training program of Showa Pharmaceutical University: questionnaire surveys on students and pharmacist instructors	共著	2012年3月	BULLETIN of Showa Pharmaceutical University, 46 , 1-12.
(論文) Effects and problems of education from first clinical pharmacy training at hospital in the six-year system of pharmaceutical education: questionnaire on students and instructing pharmacists	共著	2012年4月	Journal of Drug Interaction Research (Japan), 35 (3), 31-40.
(論文) 授業改善の試み 一薬物治療特論Ⅱの場合―	共著	2013年3月	昭和薬科大学紀要, 47 , 10-20.
(論文) 指導薬剤師を対象としたフィジカルアセスメントに関する意識調査	共著	2013年3月	昭和薬科大学紀要, 47 , 21-32.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
保険薬局の構造設備に対する一考察 - 抗がん剤注射薬の無菌調剤に向けて -		2014年6月	医療薬学フォーラム2014

Ⅲ 学会および社会における主な活動		
2013年4月～	現在	公益社団法人 神奈川県病院薬剤師会 実務実習委員会委員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 の名 薬剤学	職名 准教授	氏名 藤井 まき子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2010年9月30日	科目「剤形をつくる」において、写真を多用したパワーポイントで医薬品製造への理解を深めた。(授業評価: 4.2)	
	2012年9月30日	科目「製剤材料の性質」において、下級年次の復習を含む演習を多用した講義を行った。(授業評価: 4.1)	
	2013年9月30日	科目「化粧品科学」において、ビデオ、簡単な皮膚機能評価、調査結果の発表などを取り入れた学生が積極的に取り組める講義を行った。(授業評価: 4.5)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2012年2月5日	科目「製剤材料の性質」に関する参考書「物理薬剤学・製剤学 改訂第2版」の分担執筆を行った。	
	2012年4月10日	科目「製剤材料の性質」「剤形をつくる」に関する教科書「標準薬剤学 改訂第3版」の分担執筆を行った。	
	2014年4月1日	科目「製剤実習」の実習書「製剤実習要項」を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2012年12月5日	ディプロマポリシーに関する本学のFDに参加し、発表資料を作成した。	
	2013年12月14日	本学の独自なカリキュラムについてのFDワークショップに参加した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
The preparation of a solid dispersion powder of indomethacin with crospovidone using a twin-screw extruder or kneader	共著	2009年	Int. J. Pharmaceut. 365 , 53-60
Effect of powder characteristics on oral tablet disintegration	共著	2009年	Int. J. Pharmaceut. 365 , 116-120
Study on penetration of titanium dioxide (TiO ₂) nanoparticles into intact and damaged skin in vitro	共著	2010年	J.Toxicol. Sci. 35 , 107-113
Evaluation of the physicochemical characteristics of crospovidone that influence solid dispersion preparation	共著	2011年	Int. J. Pharmaceut., 413 , 119-125
Oil-in-water emulsion lotion providing controlled release using 2-methacryloyloxyethyl phosphorylcholine n-butyl methacrylate copolymer as emulsifier	共著	2012年	Results in Pharma Sciences 2 , 16-22
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Effect of alcohol on skin permeation and metabolism of p-hydroxyl benzoic acid methyl ester		2014年4月	5th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress
疎水化ヒドロキシプロピルメチルセルロースを用いたO/W型乳剤の処方検討		2014年5月	日本薬剤学会第29年会

角層除去皮膚におけるウフェナマートと基剤の皮膚移行量の関係	2014年5月	日本薬剤学会第29年会
異なる皮膚状態におけるウフェナマートの皮膚移行に与える基剤の影響	2014年5月	日本薬剤学会第29年会
グリチルレチン酸ステアリルの皮膚移行性にO/W型乳液の内油相が与える影響の人工膜を用いた検討	2014年6月	第39回日本香粧品学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
2007年1月～2014年5月現在	厚生労働省 薬事・食品衛生審議臨時委員	
2007年4月～2014年5月現在	日本香粧品学会 理事	
2010年2月～2014年2月	厚生労働省 医薬品添加物規格検討委員会委員	
2012年4月～2014年5月現在	日本薬剤学会投稿論文審査委員長	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
大学名 昭和薬科大学	研究室等 の名 英語	職名 准教授	氏名 堀内 正子	
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2012年9月30日	本学で初めて入学時のプレースメントテストにより到達度別にクラス分けを行い、科目「薬学英語入門Ⅰ」の演習・講義を行った。(授業評価: 4.1)	
2 作成した教科書、教材、参考書		2009年3月25日	科目「薬学英語入門」に関する教科書「薬学英語2」を刊行した。	
		2011年2月2日	科目「薬学英語入門」に関する教科書「薬学英語入門」を刊行した。	
		2012年2月20日	科目「薬学英語入門」に関する教科書「薬学英語1(改定版)」を刊行した。	
		2013年2月10日	科目「薬学英語入門」に関する教科書「薬学英語2(改定版)」を刊行した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2008年9月7日	日本社会薬学会で「薬学モデル・コアカリキュラム『A(3)信頼関係の確立を目指して』の実践報告を行った。	
		2011年6月26日	JACET(大学英語教育学会)関東支部・第5回大会シンポジウムで「Can Do Statementsを用いた薬学英語開発」を発表した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2009年9月～ 2011年2月	日本薬学会編による初の薬学英語テキスト「薬学英語入門」の編集委員責任者を務めた。	
		2012年4月21日	学内の1年生ワークショップを企画・運営した。	
		2013年10月13日	日本社会薬学会第32年会で、シンポジウム1「薬学生と薬剤師の未来を拓く英語力」を企画・運営した。	
II 研究活動				
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) オスカー・ワイルドの世界		共著	2013年5月	開文社出版
(論文) 薬学部の制度改革に伴うESP教材開発と実践		共著	2009年12月	Annual Report of JACET-SIG on ESP, 11, 77-85.
(論文) 薬学準備教育ガイドラインに沿った英語教材開発		共著	2010年12月	Annual Report of JACET-SIG on ESP, 12, 41-49.
(論文) Can Do Statements を用いた薬学英語教材開発		共著	2012年3月	JACET-KANTO Journal, 8, 37-47.
(論文) English Education at School of Pharmacy in Japan: Meeting Curricular Needs Through Authentic ESP Materials		共著	2013年12月	The Asian EFL Journal Special Edition, 15-4, 355-364.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)			発表年・月	学会名

(演題名) 日本薬学英语研究会による薬学教育ガイドライン準拠 教材開発プロジェクト	2014年7月	第17回日本医学英語教育学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
2010年4月～2012年3月	大学英語教育学会 ESP関東SIG 副代表	
2012年4月～現在	大学英語教育学会 ESP関東SIG アドバイザー	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	昭和薬科大学	研究室等の名	臨床薬学教育
職名	准教授	氏名	増田 豊
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2013年9月19日 2013年9月26日	科目「環境科学」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。(授業評価: 4.1) 科目「社会と健康」において、厚労省HpからWeb上の情報を積極的に用い講義に反映させた。(授業評価: 4.0)
2	作成した教科書、教材、参考書	2010年4月1日 2012年4月1日	科目「環境科学実習」の実習書「環境科学実習」を作成した。 科目「環境科学実習」の実習書「環境科学実習」を作成した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) A scaffold protein, AHNAK1, is required for calcium signaling during T cell activation.	共著	2008年1月	Immunity, 28 (1), 64 ~ 74.
(論文) Expression of thrombin-activatable fibrinolysis inhibitor (TAFI) is up-regulated by increase in intracellular cyclic AMP levels in cultured HepG2 cells.	共著	2009年12月	Thrombosis and Haemostasis, 102 (6), 1204 ~ 1211.
(論文) Glucagon regulates intracellular distribution of adipose differentiation-related protein during triacylglycerol accumulation in the liver.	共著	2010年9月	Journal of Lipid Research, 51 (9), 2571 ~ 2580.
(論文) Peroxisome proliferator-activated receptor- α agonists repress expression of thrombin-activatable fibrinolysis inhibitor by decreasing transcript stability.	共著	2012年7月	Thrombosis and Haemostasis, 108 (1), 74 ~ 85.
(論文) Nobiletin, a polymethoxyflavone in citrus fruits, reduces TAFI expression in HepG2 cells through transcriptional inhibition.	共著	2013年6月	Thrombosis and Haemostasis, 109 (6), 1060 ~ 1069.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
2009年4月~2013年3月	日本生化学会「生化学」誌企画委員会委員		
2007年4月~2009年10月	日本生化学会生化学教育委員会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬品化学	職名 准教授	氏名 山崎 龍
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2014年11月15日	科目「基礎有機化学Ⅱ」(I年次後期必修)において、中間試験を実施し、さらにその中にアンケートとして授業の改善点を学生にあげてもらい、実際に対策した。 本学着任初年度ということで特に授業の進行速度や量について早い段階で学生のレベルを把握する必要があった。実際にアンケートとテスト結果をもとに進行速度や一部プリント利用により板書を減らすなどの工夫を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Synthesis of monocyclic nine-membered compounds by the [4+3+2] cycloaddition-bond cleavage strategy	共著	2013年6月	Tetrahedron Lett., 54 , 3507-3509.
(論文) Synthesis of [2]Rotaxanes by the Copper-Mediated Threading Reactions of Aryl Iodides with Alkynes	共著	2013年6月	Org. Lett., 15 , 2684-2687.
(論文) Synthesis and Polymerization of Styrene Monomer Carrying Isothiocyanate Moiety and Its Copolymerization with HEMA Based on Chemo-Selectivity to Nucleophiles	共著	2013年10月	J. Polym. Sci. Part A., 51 , 5215-5220.
(論文) Synthesis of rotacatenanes by the combination of Cu-mediated threading reaction and the template method: the dual role of one ligand	共著	2014年1月	Chem. Commun., 50 , 204-206.
(論文) Acid-mediated Ring-Expansion Reaction of N-Aryl-2-vinylazetidines: Synthesis and Unanticipated Reactivity of Tetrahydrobenzazocines	共著	2014年4月	J. Org. Chem., 79 , 4367-4377.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) N-ピリジル型およびN-トロポニル型芳香族アミドの立体構造特性と構造変換		2014年9月	複素環化学討論会

Ⅲ 学会および社会における主な活動		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 の名 薬剤師実務教育 渡部	職名 准教授	氏名 渡部 一宏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2013年9月30日	科目「臨床試験の評価法」(6年次前期)において、臨床研究デザイン・解析に関する講義に加え、複数回に渡り、演習(TBL、SGD)を行った。(授業評価: 4.47)	
	2013年9月30日	科目「薬物治療特論Ⅱ」(5年次前期)において、症例検討PBLのSGD、を積極的に行い、学生の自主的な学習を進めた。(授業評価: 日本薬学会 第133年会(横浜)に一般演題発表)	
	2014年3月31日	科目「実務実習事前学習Ⅱ」(4年次後期)において、ローテーション実習「糖尿病患者教育」において、インスリン自己注射手技や自己血糖測定器を用いた血糖値の測定などの実践的な実技演習・実習を行い、学生の糖尿病患者教育に関する学習を進めた。(日本薬学会 第134年会(熊本)に一般演題発表)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2011年9月1日	科目「薬物治療特論Ⅱ」に関する教科書「症例検討入門第2版(京都廣川書店)」を刊行した。	
	2009年4月1日～	科目「実務実習事前学習」の大学における実習書を作成した。(毎年改定)	
	2013年1月1日～	科目「臨床試験の評価法」(6年次前期)の参考書として「月刊薬事「時めき臨床研究」」を連載している。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2011年2月23日	薬学教育協議会フォーラム2011: 昭和薬科大学における初年度実務実習の実施状況	
	2011年3月31日	日本薬学会第131年会(静岡): 長期実務実習を実施した学生及び指導薬剤師の意識調査	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2013年1月13、14日	神奈川県薬剤師会 実務実習指導薬剤師ワークショップ運営	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Pharmaceutical Evaluation of Metronidazole External Hospital Preparation for Cancerous Malodor	共著	2008年5月	Jpn. J. Pharm. Health Care Sci., 34(5), 433-440
進行性乳癌の癌性皮膚潰瘍に対する新規メトロニダゾールゲルの有用性評価	共著	2008年2月	乳癌の臨床、23(2)、105-109
Preparation and Evaluation of Stability and Drug Release of Lidocaine containing Metronidazole Ointments Prepared in a Hospital for Cancerous Malodor	共著	2010年3月	Journal of Drug Interaction Research, 34(2), 93-98
Status of provision of drug information to hypertensive patients at community-based pharmacies	共著	2011年12月	General Medicine, 12(2), 75-81
Current Status of Awareness and Implementation of the "Yakuzai-Kanri Summary" in Community Pharmacies Prescribing Drugs under the Health Insurance System in Japan	共著	2013年6月	Jpn. J. Pharm. Health Care Sci., 39(6), 433-440
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名

乳腺専門診療所におけるnon-Luminal 乳癌に対する術前化学療法の効果	2014年7月	第22回 日本乳癌学会学術総会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
2008年4月～ 現在	一般社団法人 日本医療薬学会 認定指導薬剤師	
2008年4月～2014年3月	一般社団法人 日本病院薬剤師会 学術委員会 委員（第4小委員会）	
2013年4月～ 現在	一般社団法人 薬学教育協議会 関東地区調整機構 大学委員	
2014年5月～	一般社団法人 日本乳癌学会 評議員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 の名 衛生化学	職名 講師	氏名 阿南 弥寿美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2010年9月30日	科目「栄養と健康」において、要点をまとめた資料と教科書を併用し、学習を進めた。(授業評価: 3.7)	
	2012年3月31日	科目「栄養と健康」において、要点をまとめた資料と教科書を併用し、効果的な学習を進めた。(授業評価: 3.8)	
	2013年3月31日	科目「栄養と健康」において、「衛生化学実習」の内容と関連させながら講義を進めた。(授業評価: 3.96)	
	2013年9月30日	科目「化学物質の毒性」において、実例を多く挙げるなど学生の興味を引くよう工夫した。(授業評価: 3.85)	
	2014年3月31日	科目「栄養と健康」において、関連する国家試験問題の解説などを取り入れた。(授業評価: 4.2)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2010年9月1日	科目「衛生化学実習」の実習書「衛生化学実習実習書」を作成した。	
	2011年9月1日	科目「衛生化学実習」の実習書「衛生化学実習実習書」を作成した。	
	2012年9月1日	科目「衛生化学実習」の実習書「衛生化学実習実習書」を作成した。	
	2013年9月1日	科目「衛生化学実習」の実習書「衛生化学実習実習書」を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Comparison of selenoneine found in marine organisms with selenite in the interaction with mercury compounds in vitro.	共著 (Y. Anan et al.)	2011年12月	J. Toxicol. Sci. 36, 725-731.
(論文) Distribution and metabolism of selenite and selenomethionine in the Japanese quail.	共著 (Y. Anan et al.)	2012年5月	Metallomics 4, 457-462.
(論文) Comparison in accumulation of lanthanide elements among three Brassicaceae plant sprouts.	共著 (Y. Anan et al.)	2012年7月	Bull. Environ. Contam. Toxicol. 89, 133-137
(論文) Chromatographic behavior of selenoproteins in rat serum detected by inductively coupled plasma mass spectrometry.	共著 (Y. Anan et al.)	2013年8月	Anal Sci, 29, 787-792.
(論文) Speciation and identification of tellurium-containing metabolites in garlic, Allium sativum.	共著 (Y. Anan et al.)	2013年9月	Metallomics, 5, 1215-1224.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Speciation of selenium and mercury in the liver of Japanese quails ingesting sodium selenite and mercury chloride. (演者)		2014年9月	2014 BNASS/TraceSpec Tandem Conference
水銀とセレンシアン酸または亜セレン酸を投与したラットにおける水銀とセレンの体内分布 (共同演者)		2014年9月	フォーラム2014: 衛生薬学・環境トキシコロジー
培養細胞におけるセレン化合物による無機水銀の毒性軽減作用の解析 (共同演者)		2014年9月	フォーラム2014: 衛生薬学・環境トキシコロジー

ラットにおける無機及び有機テルル化合物の体内分布の比較（共同演者）	2014年9月	フォーラム2014：衛生薬学・環境トキシコロジー
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
2011年4月～2014年3月	ファルマシア、トピックス小委員	
2014年4月～	現在	J. Toxicol. Sci誌、Editorial board

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 の名 学修支援室	職名 講師	氏名 池野 聡一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2008年10月－11月	実習教育(科目「生化学実習」)を全12回実施した。判りやすい図や写真を多用し、毎回24～30名の学生に対して酵素の反応速度論を解説した。実習中は学生に質問をしながら巡回すると共に、学生から質問にはその場で平易に解説するように心掛けた。
		2009年4月－5月	実習教育(科目「情報科学実習」)を全4回実施した。本実習では、統計処理ソフト(エクセル等)を用いたデータ処理方法を指導した。パソコンの基本的な操作方法から対象ソフトの使用法まで、平易な表現で丁寧に解説するように心掛けた。
		2009年10月－11月	実習教育(科目「生化学実習」)を全12回実施した。判りやすい図や写真を多用し、毎回24～30名の学生に対して酵素の反応速度論を解説した。実習中は学生に質問をしながら巡回すると共に、学生から質問にはその場で平易に解説するように心掛けた。
		2010年4月－5月	実習教育(科目「情報科学実習」)を全6回実施した。本実習では、統計処理ソフト(エクセル等)を用いたデータ処理方法を指導した。パソコンの基本的な操作方法から対象ソフトの使用法まで、平易な表現で丁寧に解説するように心掛けた。
		2010年10月－11月	実習教育(科目「生化学実習」)を全12回実施した。判りやすい図や写真を多用し、毎回24～30名の学生に対して酵素の反応速度論を解説した。実習中は学生に質問をしながら巡回すると共に、学生から質問にはその場で平易に解説するように心掛けた。
		2011年5月－6月	実習教育(科目「生化学実習」)を全12回実施した。判りやすい図や写真を多用し、毎回24～30名の学生に対して酵素の反応速度論を解説した。実習中は学生に質問をしながら巡回すると共に、学生から質問にはその場で平易に解説するように心掛けた。
		2012年5月－6月	実習教育(科目「生化学実習」)を全12回実施した。判りやすい図や写真を多用し、毎回24～30名の学生に対して酵素の反応速度論を解説した。実習中は学生に質問をしながら巡回すると共に、学生から質問にはその場で平易に解説するように心掛けた。
		2012年6月18日	6年次生対し、「生物系特論」の講義を実施した。見やすい図表を多用しながら、代表的なシグナル伝達経路について解説した。さらに、自身の研究対象であるTGF- β シグナル伝達経路を例に、本経路とがん化との関連性を最新の研究成果を交えながら解説した。
		2013年5月－6月	実習教育(科目「生化学実習」)を全12回実施した。判りやすい図や写真を多用し、毎回24～30名の学生に対して酵素の反応速度論を解説した。実習中は学生に質問をしながら巡回すると共に、学生から質問にはその場で平易に解説するように心掛けた。
		2014年4月9日	5年次基礎学力アップ補講(生物:90分×2)を実施。国家試験科目「物理・化学・生物」の生物分野の補講を行った。単元を細かく設定し、各単元の問題を解かせた直後に、要点を解説する事で、記憶への定着率を高めるよう工夫した。また、一つの単元に掛ける時間を30分(テスト10分、解説20分)と短くし、飽きさせないように心掛けた。

	2014年4月18日	5年次基礎学力アップ補講（生物：90分×1）を実施。国家試験科目「物理・化学・生物」の生物分野の補講を行った。単元を細かく設定し、各単元の問題を解かせた直後に、要点を解説する事で、記憶への定着率を高めるよう工夫した。また、一つの単元に掛ける時間を30分（テスト10分、解説20分）と短くし、飽きさせないように心掛けた。	
	2014年4月23日	5年次基礎学力アップ補講（生物：90分×2）を実施。国家試験科目「物理・化学・生物」の生物分野の補講を行った。単元を細かく設定し、各単元の問題を解かせた直後に、要点を解説する事で、記憶への定着率を高めるよう工夫した。また、一つの単元に掛ける時間を30分（テスト10分、解説20分）と短くし、飽きさせないように心掛けた。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2008年～2013年	「生化学実習」に使用した実習書の改訂（担当した「酵素の阻害剤に関する実験」項目）を行った。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Identification of amino acids in the pore region of Kv1.2 potassium channel that regulate its glycosylation and cell surface expression.	共著	2010年2月	J. Neurochem., 112(4) , 913-923.
(論文) Effect of paclitaxel on transient receptor potential vanilloid 1 in rat dorsal root ganglion.	共著	2013年6月	Pain 154(6) , 882-889.
(論文) C18 ORF1, a novel negative regulator of transforming growth factor- β signaling.	共著	2014年3月	J. Biol. Chem., 289(18) , 12680-12692.
(論文) TGF- β signaling cooperates with AT motif-binding factor-1 for repression of the α -fetoprotein promoter.	共著	2014年5月1日現在	Journal of Signal Transduction, in press .
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) PDZK11P1によるTGF- β シグナル抑制機構		2014年4月3日	ハイテクリサーチ報告会（昭和薬科大学）
(演題名) Elucidation of the inhibitory mechanism of PDZK11P1 against TGF- β /Smad signaling.		2014年5月8日	TGF- β Meeting 2014. (LUMC, The Netherlands)
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 医薬分子化学	職名 講師	氏名 伊藤 俊将
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2012年7月5日	科目「生物有機化学」において、構造が覚えやすいように、構造を系統的に分類し講義を行った。(授業評価: 4.0)
		2013年7月13日	科目「生物有機化学」において、タブレットを使用し、スライドに電子の動きが分かるように書き込むことで、生物は有機反応を基礎としていることが分かるようにした。(授業評価: 4.0)
2 作成した教科書、教材、参考書		2010年11月10日	科目「基礎化学実験」の実習書「溶液の濃度調整と比重測定の項」を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Peroxisome Proliferator Activated Receptor γ and Oxidized Docosahexaenoic Acids as New Class of Ligand.	共著	2008年1月	Naunyn Schmiedebergs Arch. Pharmacol. 2008, 377, 541-547.
(論文) Structural basis for the activation of PPAR γ by oxidized fatty acids.	共著	2008年8月	Nat. Struct. Mol. Biol. 2008, 367, 566-572.
(論文) Synthesis of oxidized fatty acid derivatives via an iodolactonization reaction.	共著	2010年5月	Heterocycles. 2010, 80, 689-695.
(論文) A 3D model of CYP1B1 explains the dominant 4-hydroxylation of estradiol.	共著	2010年5月	J. Chem. Inf. Model. 2010, 50, 1173-1178.
(論文) A Mixed Population of Antagonist and Agonist Binding Conformers in a Single Crystal Explains Partial Agonism against Vitamin D Receptor: Active Vitamin D Analogues with 22R-Alkyl Group	共著	2014年4月	J. Med. Chem. 2014, 57, 4351-4367.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Reducing agent promotes hydroxylation of fatty acid by lipoxygenase		2014年6月	15th Tetrahedron Symposium, (ロンドン, UK)
III 学会および社会における主な活動			
2012年4月~2014年5月現在	公益社団法人 日本薬学会 トピックス小委員		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬理学	職名 講師	氏名 神戸 敏江
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2013年1月16日	3年次科目「薬の効き方Ⅱ」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。またすでに履修済みの関連科目の基礎的内容を解説すると主に、アドバンストな内容も盛り込み学生の学習意欲・知欲の向上に努めた。(授業評価：3.65)	
	2013年10月18日	1年次科目「生体機能調節と生体活性分子Ⅰ」において、内容をイメージしやすいように視聴覚資料(ビデオ)を多用した講義を行った。(授業評価：3.8)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2008年9月1日	科目「薬理学実習」の項目「薬物の神経伝導速度に及ぼす影響」について、視聴覚教材を作成した。	
	2008年9月～2014年	科目「薬の効き方Ⅱ」の講義資料の作成。毎年改訂	
	2008年9月1日 2009年9月1日	科目「薬理学実習」の実習書「薬理学実習指針」の改訂を行った。	
	2013年9月20日	1年次科目「生体機能調節と生体活性分子Ⅰ」において、参考資料を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2011年10月9, 10日	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ研修会(神奈川県)においてタスクフォースを務めた。	
	2012年1月8, 9日	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ研修会(東京)においてタスクフォースを務めた。	
	2012年9月16, 17日	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ研修会(神奈川県)においてタスクフォースを務めた。	
	2013年1月13, 14日	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ研修会(東京)においてタスクフォースを務めた。	
	2013年10月13, 14日	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ研修会(神奈川県)においてタスクフォースを務めた。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2010年4月～ 2012年3月	本学初の英語能力別クラスの実地に向けプレースメントテストの導入等について企画・運営を行った。	
	2013年12月18日	本学のFDワークショップを企画・運営した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Nitric oxide-mediated modulation of calcium/calmodulin-dependent protein kinase II.	共著	2008年6月	Biochem J., 412(2), 223-31.
Inactivation of Ca ²⁺ /calmodulin-dependent protein kinase I by S-glutathionylation of the active-site cysteine residue.	共著	2010年6月	FEBS Lett., 584(11), 2478-84.
Nitric oxide prevents phosphorylation of neuronal nitric oxide synthase at serine1412 by inhibiting the Akt/PKB and CaM-K II signaling pathways.	共著	2012年7月	Int J Mol Med., 30(1), 15-20.

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）パクリタキセル誘発末梢神経障害モデルラットにおける脊髄でのP2X4受容体の関与	2014年10月	第58回日本薬学会関東支部大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 医薬情報評価教育 の名 育 串田	職名 講師	氏名 串田 一樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2008年9月17日以降	科目「社会薬学」において、ワークシートを導入し、学生にポイントとなるキーワードを書かせる工夫をした。
		2010年9月17日以降	科目「社会と薬局」において、1人ずつ薬局の名称、平面図、正面図などをデザインさせ、発表を取り入れた。
2 作成した教科書、教材、参考書		2010年6月以降	科目「実務実習事前学習」の導入実習(3年次)の実習書を毎年作成
		2010年6月以降	科目「実務実習事前学習」の前期・後期実習(4年次)の実習書を毎年作成
		2010年9月以降	科目「社会と薬局」の後期(3年次)の教材を毎年作成
		2011年4月以降	科目「在宅医療と薬局」(6年次)の教材を毎年作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2008年9月7日	日本社会薬学会第27年会(東京)で「薬学教育モデル・コアカリキュラム『A-(3)信頼関係の確立を目指して』の実践報告」を発表。
		2009年3月28日	日本薬学会第129年会(京都)で「薬学における初年次教育の意義—高校生から大学1年生への円滑な移行を目指して」を発表。
		2010年3月29日	日本薬学会第130年会(岡山)で「2025年の超高齢社会が求める地域医療—薬学アドバンスト教育の構築意義」を発表。
		2011年9月24日	第5回日本緩和医療薬学会年会(千葉)で「6年間の学部教育で取り組んだ緩和医療教育」を発表した。
		2012年3月30日	日本薬学会第132年会(札幌)で「地域社会から学ぶ『いのち』の教育—緩和医療教育の構築を目指して」を発表。
		2012年9月28日	第38回日本重症心身障害児学会(東京)で「障がい児との触れ合いを通して—薬学教育の視点から」を発表。
		2013年3月29日	日本薬学会第133年会(横浜)で「離島医療に対する薬学教育の取組」を発表した。
		2013年9月15日	第7回日本緩和医療薬学会(幕張)で「多くの学びから選んだ緩和ケアへの道」を発表。
4 その他教育活動上特記すべき事項		2009年5月14日	1年次ワークショップ合宿の委員として企画、運営に参加した。
		2010年8月20日	日本肢体不自由児協会主催の高木記念キャンプにボランティアとして学生と一緒に参加した。
		2011年4月以降	横浜市瀬谷区にあるめぐみ在宅クリニックのカンファレンスに毎回学生を引率し、在宅現場の実際を学ぶ機会としている。月に1回さんかしている。継続中
		2011年4月以降	町田市主催の「障がい児」のスポーツ教室にボランティアとして、学生と一緒に参加している。継続中
		2011年11月以降	町田市主催の「夢舞生っすい祭り」に認知症の友の会のサポーターとして学生と一緒に参加している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書)健康とは何か—新しい健康観を求めて—	共著	2008年3月	共立出版、2008年3月
(論文)在宅医療と薬剤師	単著	2008年5月	薬剤学, 68, 2008

(著書)日本の科学技術一世紀転換期の社会史 1995年～2011年 医薬分業	共著	2011年12月	日本の科学技術一世紀転換期の社会史 第4巻, 2011
(著書)日本の科学技術一世紀転換期の社会史 1995年～2011年 医療廃棄物の適正処理	共著	2011年12月	日本の科学技術一世紀転換期の社会史 第4巻, 2011
(著書)最新実地医家のための在宅医療実践ガイドー入門から最前線までー	共著	2013年4月	文光堂 2013
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 医薬分業と在宅医療ー在宅緩和医療を支援する医薬品提供体制ー		2008年6月	第31回日本プライマリ・ケア学会(岡山)
(演題名) 薬学における初年児教育の意義ー高校生から大学1年生への円滑な移行を目指してー		2009年3月	日本薬学会第129年会(京都)
(演題名) 在宅医療における薬局機能及び薬剤師に役割		2010年6月	第12回日本医療マネジメント学会(札幌)
(演題名) Promoting Home Palliative Care -The Role of Pharmacists		2011年9月	71 st International Congress of FIP, 2011
(演題名) がん診療連携拠点病院における退院時調整について		2012年6月	第23回日本在宅医療学会(横浜)
(演題名) 地域緩和医療における薬物治療の共同管理		2013年9月	第7回日本緩和医療薬学会(幕張)
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
2008年4月～2014年3月 現在	日本社会薬学会 幹事 事務局長(2014年4月から副会長)		
2008年4月～2014年5月 現在	有害・医療廃棄物研究会 理事 学術委員		
2008年4月～2014年5月 現在	日本プライマリケア学会 編集委員		
2008年4月～2014年5月 現在	Home Infusion Pharmacy (HIP研究会) 会長		
2009年3月	日本薬学会第129年会の演題「自殺防止に薬剤師が果たせる役割」がハイライト演題に選出された。		
2009年10月25日	第19回日本医療薬学会年会シンポジウム「地域医療から在宅医療まで」のシンポジストを務めた。		
2010年3月	東京薬科大学・学生支援GP外部評価委員を委嘱される。		
2010年11月	第20回日本医療薬学会年会 シンポジウム19「多職種連携によるがん患者のキュアとケア」のオーガナイザーを務めた。		
2010年9月	第4回日本緩和医療薬学会年会 シンポジウム11「全人的なケアを目指した緩和医療教育についてー薬学教育6年制における薬学アドバンス教育の構築」のシンポジストを務めた。		
2013年9月	第7回緩和医療薬学会シンポジウム「地域緩和医療における薬物治療の共同管理」のオーガナイザー及びシンポジストを務めた。		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	昭和薬科大学	研究室等 の名	化学系薬学教育 小池
職名	講師	氏名	小池 猛
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2008年, 2009年 「9月30日」	科目「化学演習1」[1/2分担部分の責任者](1年次前期:2年間で合計16コマ担当[1コマ=90分]):プロジェクト一視覚資料を多用した講義を行った。(2009年9月の授業評価:3.6)	
	2008年4月7日~ 9月30日	科目「卒業実習教育:旧4年制度下」[科目責任者](4年次前期卒業延期生を担当):当個人研究室で卒業研究演習ゼミのため、4年次卒業延期生を合計2名、指導した。	
	2008, 2009, 2010 , 2011, 2012, 2013 年「9月30日」	科目「物質の性質と化学分析1実習」[科目担当責任者](2年次前期:6年間で合計78日間(再実習[試験]6日間含む)を担当):プロジェクト一視覚資料を多用した実習講義、及び実習実技を教員4名にて分担し行った。高性能HPLC機器を用いた実践的教育を充実した。(2013年9月の授業評価:3.9)	
	2008, 2010, 2011 , 2012, 2013 [5月 ~翌年3月] (2014年3月31日 まで)	科目「病院薬局実務実習」[分担者:薬局実務実習担当教員](旧4年次と現5年次前後期:5年間で合計のべ18薬局へ[40日間]出張し、学生合計数19名を担当):病院薬剤部or薬局で実務実習する学生の評価指導のため、薬局を訪問した。	
	2008年(旧4年 制:9月30日)と 2012, 2013, 2014年(6 年制:3月31日)	科目「最終総合演習(卒業薬学演習試験)」[分担者](旧4年次前期認定試験と現6年次後期:4年間で合計30問題の作成を担当):卒業試験と薬剤師国家試験を念頭におき、6年間で学んだ総復習的な最終試験問題の作成を分担し行った。	
	2009年 「9月30日」	科目「薬学英語3」[1/3分担部分の責任者](3年次前期:合計8コマ担当):プリント資料を用いた実践的な化学英文献の読解の講義を行った。(2009年9月ので授業評価:3.9)	
	2009, 2010, 2011 , 2012, 2013, 2014 年「3月31日」	科目「基礎化学実験(実習)」[科目担当責任者](1年次後期:6年間で合計78日間(再実習[試験]6日間含む)を担当):プロジェクト一視覚資料を多用した実習講義及び実習実技を教員4名で分担し行った。(2014年3月の授業評価:4.0)	
	2009, 2010, 2011 , 2012, 2013, 2014 年「3月31日」	科目「天然物医薬品の化学構造1実習」[分担部分の実習担当者](3年次後期:6年間で合計84日間(再実習12日間含む)を担当):実習講義用の図式解説用模造紙・プリント資料を用いた実習講義及び実習実技を教員4名で分担し行った。	
	2010, 2011, 2012 , 2013年「10月下 旬~11月上旬」	科目「早期体験学習:解剖見学実習」[コーディネータ:分担者](1年次後期:4年間で合計12回、聖マリア[11日間]出張し担当):解剖見学実習のため「聖マリアナ医科大学」へ訪問し、1年生を引率・分担し実習をした。	
	2011年「9月30 日」	科目「情報科学実習」[分担の実習担当者](1年次前期:合計12日間を担当):コンピュータ機器を用いた実習(Word, Chem Draw等)を教員4名にて分担し実習した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2008年6月1日	科目「物質の性質と化学分析1実習」[科目担当責任者](2年次前期):実習プリント[液体クロマトグラフ(HPLC)法]項目の実習要項、及びHPLC実習機器操作法の解説用OHP(プロジェクト使用型)を6年制に伴い作成した。	

	2010年11月10日 2011年11月10日	科目「基礎化学実験(実習)」[科目担当責任者](1年次後期)：[酢酸エチルの合成]実習項目の実験操作法の解説用OHP(プロジェクタ使用型)、及び実習(全体)プリントの追加作成と改訂を行った。	
	2011年9月1日	科目「天然物医薬品の化学構造1実習」[分担部分の実習担当者](3年次後期)：実習講義用の図式解説用教材模造紙の作成とプリントの修正改訂作業を行った。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし		
4 その他教育活動上特記すべき事項	2008.4月～ 2014.5.1(6年間) 2008.4月～ 2014.5.1(6年間) 2009.7月～ 2011.3.31(1年半)	本学の環境保全委員会委員として、学生へ「排水・廃棄物管理指針」の説明のための講義、学生実習用廃液と研究室実験用廃液の回収と搬出、廃棄物対策への審議・活動を行った。 本学の英語教育委員会委員として、6年制での英語教育方針・カリキュラム等についての審議・活動を行った。 本学の創立80周年記念事業実行委員会[寄付事業担当委員]として、在学生・卒業生に対し記念事業(卒業生名簿確認作業、寄付金集め、コンサート会場案内等)の活動を行った。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(原著論文) Takeshi Koike: A New Interesting Phenolic Compound from the Resin of <i>Dracaena draco</i>	単著	2014年2月	昭和薬科大学紀要, vol. 48: 1-11.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動			
2008年4月1日～2014年5月1日 現在	一般社団法人 昭薬同窓会委員(=代議員)を務めた。		
2009年5月～2010年4月	昭薬同窓会 同議会議事録署名人を務めた。		
2008年4月1日～2014年5月1日 現在	(社)日本薬学会、(社)有機合成化学協会、アメリカ化学会、イギリス化学会の4学会に役員等ではなく、単なる正会員として所属をしていた。		
2013年11月23日	昭和薬科大学第3回D-32期Aクラス同窓会(卒業30周年記念)会合の代表幹事「会場：昭和薬科大学(大学見学会会場)、及びホテルザエルシィ町田(パーティー会場)」を務めた。		

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬剤学	職名 講師	氏名 小泉 直也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2009年9月30日	学生実習「製剤材料の性質と剤形の調製実習」において、各種製剤の特徴を理解できるような実習をおこなった。	
	2010年9月30日	学生実習「製剤材料の性質と剤形の調製実習」において、各種製剤の特徴を理解できるような実習をおこなった。	
	2011年9月30日	学生実習「製剤材料の性質と剤形の調製実習」において、各種製剤の特徴を理解できるような実習をおこなった。	
	2012年9月30日	学生実習「製剤材料の性質と剤形の調製実習」において、各種製剤の特徴を理解できるような実習をおこなった。	
	2013年9月30日	学生実習「製剤材料の性質と剤形の調製実習」において、各種製剤の特徴を理解できるような実習をおこなった。	
	2013年9月30日	科目「薬物送達システム」において、他の科目との関連性をわかりやすく講義することを工夫し、これまで用いられてきた医薬品の製剤学的な技術と今後利用される医薬品技術の講義を行った。(授業評価:4.3)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2009年9月30日	科目「製剤材料の性質と剤形の調製」の実習書「製剤材料の性質と剤形の調製 実習要項」を作成した	
	2010年9月30日	科目「製剤材料の性質と剤形の調製」の実習書「製剤材料の性質と剤形の調製 実習要項」を作成した。	
	2011年9月30日	科目「製剤材料の性質と剤形の調製」の実習書「製剤材料の性質と剤形の調製 実習要項」を作成した。	
	2012年9月30日	科目「製剤材料の性質と剤形の調製」の実習書「製剤材料の性質と剤形の調製 実習要項」を作成した。	
	2013年9月30日	科目「製剤材料の性質と剤形の調製」の実習書「製剤材料の性質と剤形の調製 実習要項」を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		該当なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Ephrin A2 receptor targeting does not increase adenoviral pancreatic cancer transduction in vivo.	共著	2009年6月	World J Gastroenterol., 15(22) , 2754-2762
(論文) A highly efficient short hairpin RNA potently down-regulates GCR5 expression in systemic lymphoid organs in the hu-BLT mouse model.	共著	2010年2月	Blood, 115(8) , 1534-1544
(論文) A novel HIV-1 reporter virus with a membrane-bound Gaussia princeps luciferase.	共著	2012年7月	J. Virol. Methods., 183(1) , 49-56
(論文) Percolation analysis in electrical conductivity of Madin-Darby Canine Kidney and Caco-2 cells by permeation-enhancing agents	共著	2013年3月	Biol. Pharm. Bull., 36(6) , 384-389
(論文) Sec61 β Regulates Barrier Functions of Tight Junction through Expression of Claudin-4 in Madin-Darby Canine Kidney Cells.	共著	2014年6月	Biol. Pharm. Bull., 37(6) , 1-8

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）メーキング用アデノウイルスベクターの開発	2014年7月	第30回日本DDS学会
（演題名）上皮細胞へのアデノウイルス感染におけるSnail転写因子の影響	2014年7月	第30回日本DDS学会
（演題名）細胞膜透過促進能を持つアデノウイルスshaftタンパク質の結合要因の解析	2014年7月	第30回日本DDS学会
（演題名）異なる皮膚状態におけるウフェナマートの皮膚移行に与える基剤の影響	2014年5月	日本薬剤学会第29年会
（演題名）角層除去皮膚におけるウフェナマートと基剤の皮膚移行量の関係	2014年5月	日本薬剤学会第29年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
2009年4月～2014年3月	日本DDS学会 広報委員会委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 生化学	職名 講師	氏名 坂田 宣夫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2012年9月19日- 2012年11月14日	科目「細胞構成分子」において、パワーポイントによる講義 (e-learningによる小テストを含む) を7コマx2回行った。(授業評価:3.8)	
	2013年4月10日- 2013年7月10日	科目「生体エネルギー」において、パワーポイントによる講義 (e-learningによる小テストを含む) を14コマx2回行った。(授業評価:3.7)	
2 作成した教科書、教材、参考書	2012年6月1日	科目「生化学実習」の実習書新規項目「ジデオキシシ法によるDNA塩基配列の決定とBLASTによるホモロジー検索」を作成した。	
	2014年6月2日	科目「生化学実習」の実習書新規項目「SDS-ポリアクリルアミドゲル電気泳動法によるタンパク質の分離」を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2013年12月19日	昭和薬科大学FDワークショップ「本学独自のカリキュラムを作る」に参加し、グループ教員と協力してモデルカリキュラムを作製した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) ZFH4 Interacts with the NuRD Core Member CHD4 and Regulates the Glioblastoma Tumor-Initiating Cell State.	共著	2014年2月	Cell Rep., 6 , 313-324.
(論文) C18 ORF1: A Novel Negative Regulator of TGF- β Signaling.	共著	同年3月	J. Biol. Chem., 289 , 12680-12692.
(論文) TGF- β signaling cooperates with AT motif-binding factor-1 (ATBF1) for repression of the α -fetoprotein promoter.	共著	同年5月	J. Signal Transduct., <i>in press</i>
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Negative regulation of α -fetoprotein gene transcription by TGF- β signaling with AT motif binding factor 1 (ATBF1)		2014年5月	TGF- β Meeting 2014 in Leiden
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 医薬分子化学	職名 講師	氏名 佐藤 美鶴
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2011年4月12日	科目「化学I」において、ノートを取りやすいように講義用パワーポイント資料を講義前に配布して講義を行った。(授業評価:3.5)	
	2012年4月27日	科目「化学I」において、演習問題を学務システムに事前にアップし、自主的な学習を進めた。(授業評価:3.5)	
	2013年5月2日	科目「化学I」において、演習問題を学務システムに事前にアップし、自主的な学習を進めるとともに講義後解答を学務システムにアップし復習を促した。(授業評価:3.5)	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Kaurene-Type Diterpenoids from <i>Aristolichia brasiliensis</i>	共著	2011年1月	生薬学雑誌, 65 (1), 54-55
(論文) Phenolic Diterpenes Derived from <i>Hyptis incana</i> Induce Apoptosis and G2/M Arrest of Neuroblastoma Cells	共著	2012年11月	Anticancer Research, 32, 4781-4790
(論文) New Humulenes from <i>Hyptis incana</i> (Labiatae)	共著	2013年12月	Nat. Prod. Comm., 8 (12), 1665-1668
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬物動態学	職名 講師	氏名 清水 万紀子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2012年	科目「薬物動態ⅠおよびⅡ」において、パワーポイントを用いて講義を行った。(授業評価: 3.7)	
	2013年	科目「薬物動態ⅠおよびⅡ」において、パワーポイントを用いて講義を行った。(授業評価: 3.9)	
	2014年	科目「薬物動態Ⅰ」において、パワーポイントを用いて講義を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2009年	科目「薬物動態学実習」の実習書「薬物動態実習要項」を作成した。	
	2010年5月	科目「薬物動態学実習」の実習書「薬物動態実習要項」を作成した。	
	2011年	科目「薬物動態学実習」の実習書「薬物動態実習要項」を作成した。	
	2012年9月	科目「薬物動態学実習」の実習書「薬物動態実習要項」を作成した。	
	2013年9月	科目「薬物動態学実習」の実習書「薬物動態実習要項」を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当しない	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2009年12月	昭和薬科大学FD研修会参加	
	2010年12月	昭和薬科大学FD研修会参加	
	2011年12月	昭和薬科大学FD研修会参加	
	2012年12月	昭和薬科大学FD研修会参加	
	2013年3月	昭和薬科大学大学院FDワークショップ参加	
	2013年12月	昭和薬科大学FD研修会参加	
	2014年3月	昭和薬科大学大学院FDワークショップ参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Developmental variations in metabolic capacity of flavin-containing monooxygenase 3 in childhood.	共著	2011年4月	Brit. J. Clin. Pharmacol. 71 , 585-591
Variants in the flavin-containing monooxygenase 3 (FMO3) gene responsible for trimethylaminuria in a Japanese population.	共著	2012年11月	Mol. Genet. Metab., 107 , 330-334
Survey of variants of human flavin-containing monooxygenase 3 (FMO3) and their drug oxidation activities.	共著	2013年6月	Biochem. Pharmacol., 85 , 1588-1593
Molecular and functional characterization of flavin-containing monooxygenases in cynomolgus macaque.	共著	2013年4月	Biochem. Pharmacol., 85 , 1837-1847
Relationships between flavin-containing monooxygenase 3 (FMO3) genotype and trimethylaminuria phenotype in a Japanese population	共著	2014年5月	Brit. J. Clin. Pharmacol., 77 , 839-851

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
19th North American Regional ISSX Meeting and 29th JSSX Annual Meeting	2014年10月	国際薬物動態学会、 日本薬物動態学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
2009年4月～2014年5月 現在	日本薬学会薬理系薬学部会 若手世話人	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	昭和薬科大学	研究室等の名	薬品分析化学
職名	講師	氏名	鈴木 憲子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		
2	作成した教科書、教材、参考書	2014年5月20日	「分析化学実習」のためのプリントおよび説明会資料(パワーポイント)を作成した。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2008年10月25日	日本化学会からの要請で化学実験実技講習会の講師を務めた。テーマ：イオン交換反応はなぜ起こる ―その理論と応用―
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 図解最先端イオン交換技術のすべて	共著	2009年3月	工業調査会
(論文) Interfering Effect for the Cesium Ion-Exchange Property of Sodium Difluorotetrasilicate and Sodium Taeniolite by Alkaline-Earth Metal Ions.	共著	2008年7月	Bull. Chem. Soc. Jpn., 81 (7), 912-916.
(論文) Relation between Drug-Induced Taste Disorder and Chelating Behavior with Zinc Ion; Statistical Approach to the Drug-Induced Taste Disorder, Part II.	共著	2008年8月	Chem. Pharm. Bull., 56 (8), 1177-1180
(論文) Electrochemical Disinfection Using Palladium-Coated Carbon Cloth Electrodes II. Electrochemical Disinfection Using a Solar Battery.	共著	2010年7月	Electrochemistry, 78 (7), 594-596
(論文) Approaches for cesium uptake by vermiculite.	共著	2013年9月	J. Chem. Technol Biotechnol, 88 (9), 1603-1605.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Cesium Adsorption Behavior of Vermiculite and its application to the column method.		2014年11月	6th International Ion Exchange Conference
III 学会および社会における主な活動			
2008年8月～2013年10月	日本イオン交換学会常任理事・庶務委員長		
2008年8月～2010年7月	日本学術振興会特別審査会専門委員		

2012年9月～2014年5月 現在	日本粘土学会常務委員会庶務委員
2014年3月～2014年5月 現在	日本分析化学会「ぶんせき」誌編集委員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 臨床薬学教育	職名 講師	氏名 高田 公彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2013年5月30日	科目「化粧品科学」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。(授業評価: 4.4)
		2014年1月15日	科目「社会と健康」において、厚労省HpからWeb上の情報を積極的に用い講義に反映させた。(授業評価: 4.0)
2 作成した教科書、教材、参考書		2010年4月1日	科目「環境科学実習」の実習書「環境科学実習」を作成した。
		2012年4月1日	科目「環境科学実習」の実習書「環境科学実習」を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Expression of thrombin-activatable fibrinolysis inhibitor (TAFI) is up-regulated by increase in intracellular cyclic AMP levels in cultured HepG2 cells.	共著	2009年	Thrombosis and Haemostasis, 102 (6), 1204 ~ 1211.
(論文) Ursolic acid and oleanolic acid, members of pentacyclic triterpenoid acids, suppress TNF- α -induced E-selectin expression by cultured umbilical vein endothelial cells.	共著	2010年	Phytomedicine, 17 (14), 1114 ~ 1119.
(論文) Peroxisome proliferator-activated receptor-alpha agonists repress expression of thrombin-activatable fibrinolysis inhibitor by decreasing transcript stability.	共著	2012年	Thrombosis and Haemostasis, 108 (1), 74 ~ 85.
(論文) Intravenous and oral administrations of DD2 [7-Amino-2-(sulfanylmethyl)heptanoic acid] produce thrombolysis through inhibition of plasma TAFIa in rats with tissue factor-induced microthrombosis.	共著	2012年	Thrombosis Research, 130 (4), e222 ~ e228.
(論文) Nobiletin, a polymethoxyflavone in citrus fruits, reduces TAFI expression in HepG2 cells through transcriptional inhibition.	共著	2013年	Thrombosis and Haemostasis, 109 (6), 1060 ~ 1069.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
2014年4月~2014年5月 現在	町田市薬剤師会学校薬剤師		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 数理学 瀧澤	職名 講師	氏名 瀧澤 誠
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2008年4月から7月	科目「力学・波動」において、演習とセットにした講義を行った。(授業評価:3.3)	
	2009年4月から7月	科目「力学・波動」において、演習とセットにした講義を行った。(授業評価:3.3)	
	2010年4月から7月	科目「力学・波動」において、演習とセットにした講義を行った。(授業評価:3.9)	
	2011年4月から7月	科目「力学・波動」において、演習とセットにした講義を行った。(授業評価:3.9)	
	2012年4月から7月	科目「力学・波動」において、演習とセットにした講義を行った。(授業評価:3.9)	
	2012年9月から2013年2月	科目「電磁気学・量子論」において、演習とセットにした講義を行った。(授業評価:2.9)	
	2013年4月から7月	科目「力学・波動」において、演習とセットにした講義を行った。(授業評価:3.3)	
	2013年9月から2014年2月	科目「電磁気学・量子論」において、演習とセットにした講義を行った。	
	2014年4月から5月	科目「力学・波動」において、演習とセットにした講義を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2011年11月25日	科目「力学・波動」および「電磁気学・量子論」に関する教科書「薬学生のための基礎シリーズ3 基礎物理学」(培風館)を刊行した。	
	2014年4月10日	科目「情報科学演習・実習」に関する教科書「薬学生のための基礎シリーズ8 情報リテラシー」(培風館)を刊行した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2008年10月18日	明治薬科大学ITコンソーシアムにおいて、「昭和薬科大学の情報教育システム」を講演した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2008年4月から2012年3月	大学の情報教育システムの設計、管理運営を担当した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書)Sun試験対策 Javaプログラマ教科書 SJC-P6 [CX-310-065]対応	共著	2010年5月	ソフトバンククリエイティブ株式会社
(論文) DD^{bar} production and their interactions	共著	2010年7月	Phys. Rev. D 82 , 014011, 1-18
(論文) X(3872) as a hybrid state of charmonium and the hadronic molecule	共著	2013年9月	Prog. Theor. Exp. Phys. 093D01 , 1-18

(論文) The Isospin Mixing in the X(3872) Decay Spectrum	共著	2013年12月	Few-Body Syst. DOI 10.1007/s00601-013-0784-0, 1-5
(論文) Radiative X(3872) Decays in Charmonium-Molecule Hybrid Model	共著	2014年2月	Few-Body Syst. DOI 10.1007/s00601-014-0830-6, 1-4
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
2009年9月～2012年4月	日本物理学会 会誌編集委員		
2010年9月～2014年5月 現在	日本物理学会 研究費配分に関する教育研究環境検討委員会委員		
2012年9月～2014年5月 現在	人事院 国家公務員採用一般職試験 (大卒程度) (物理) 試験専門委員		
2013年10月～2014年5月 現在	大学等放射線施設協議会 常議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	昭和薬科大学	研究室等 の名称	薬剤師実務教育 土肥
職名	講師	氏名	土肥 弘久
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2013年10月30日 2013年11月6日	3年次の科目「医療薬学概論」において、学生が大学で学ぶ各科目の内容と臨床業務のつながりを意識した講義を実践した。
		2013年2月15日	3年次の科目「実務実習事前学習」における計数調剤の項目で、簡単な実験を取り入れることで医薬品の製剤としての特徴と体内動態を関連付けることができるように工夫した。
		2013年－2014年	5年次の科目「患者情報から病態を読む」において、PBLを実践し学生の自主的な学習を進めた。
2 作成した教科書、教材、参考書		2013年5月17日	科目「実務実習事前学習」の実習書「実務実習事前学習 実習テキスト（疑義照会の基本を学ぶ）」を毎年度作成している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2008年－2012年 (4月－7月)	埼玉医科大学総合医療センター看護専門学校 非常勤講師として15コマ/年(1コマ90分) 講義を行った。
		2012年4月－7月	日本薬科大学において、科目「薬剤学Ⅱ」の講義を行った。(授業評価：3.8)
		2012年11月3,4日	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(埼玉県)のタスクフォース
		2012年－2013年 (4月－7月)	日本医歯薬専門学校 登録販売者学科 非常勤講師として15コマ(1コマ90分) 講義を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) The Application of Proteomics to PK-PD Modeling and Simulation.	共著	2011年8月	J. Bioequiv. Availab. S2-002.
(著書) 薬学性のための実務実習事前学習テキスト	共著	2013年8月	ネオメディカル出版
(著書) イラストでみる疾病の成り立ちと薬物療法	共著	2013年9月	医学評論社出版
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
2012年4月－2013年3月	埼玉県薬剤師会	実務実習委員会委員	
2014年4月－現在	東京都薬剤師会	実務実習委員会委員	

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 生物系薬学教育 の名 中里	職名 講師	氏名 中里 朱根
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2010年9月30日	科目「生物学I」において、視聴覚資料を多用した講義を行った。(授業評価: 3.61)
		2012年3月31日	科目「生物学II」において、学生の理解度を測るため小テストを授業中に行い、学生の自主的な学習を促した。(授業評価: 4.15)
		2013年9月30日	科目「A3: 信頼関係の構築～コミュニケーション～」において、SGDやロールプレイを行い、実践的教育を充実した。(授業評価アンケートは単独では行わず)
2 作成した教科書、教材、参考書		2011年9月1日	科目「基礎生物学実習」に関する資料を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 植物細胞壁	共著	2013年3月	講談社サイエンティフィック
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) イールディンとミトリササゲ内在性 α -ガラクトシダーゼの比較		2014年9月	日本植物学会第78回大会
III 学会および社会における主な活動			

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬物動態学	職名 講師	氏名 村山 典恵
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2009年6月	薬物動態学Iにおいてパワーポイントと補足のプリントを配布した授業を行った。(評価3.7)
		2009年10月	化学物質と毒性においてパワーポイントを用いて授業を行った。(評価3.5)
		2010年4月～7月	薬物動態学Iにおいてパワーポイントと補足のプリントを配布した授業を行った。(評価3.4程度)
		2011年4月～7月	薬物動態学Iにおいてパワーポイントと補足のプリントを配布した授業を行った。(評価3.5程度)
		2011年5月～7月	薬物動態学Iにおいてパワーポイントと補足のプリントを配布した授業を行った。(評価3.5)
		2012年6月	薬物動態学Iにおいてパワーポイントと補足のプリントを配布した授業を行った。(評価3.5)
		2012年9月～10月	薬物動態学IIにおいてパワーポイントと補足のプリントを配布した授業を行った。(評価3.6)
2 作成した教科書、教材、参考書		2009年～2014年現在	毎年の薬物動態学実習書を改訂
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2012年4月～2014年6月現在	FD委員として活動に参加している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
がん増殖と悪性化への分子機構	共著	2012年9月	化学同仁社
Evaluation of 23 lots of commercially available cryopreserved hepatocytes for induction assays of human cytochromes P450	共著	2014年3月	Drug Metab. Desps. Vol. 42 (5)
Thalidomide increases human hepatic cytochrome P450 3A enzymes by direct activation of the pregnane X receptor.	共著	2014年2月	Chem. Res. Toxicol. vol. 27 (2)
Monkey liver cytochrome P450 2C9 is involved in caffeine 7-N-demethylation to form theophylline.	共著	2013年12月	Xenobiotica vol. 43(12)

In vivo drug interactions of the teratogen thalidomide with midazolam: heterotropic cooperativity of human cytochrome P450 in humanized TK-NOG mice	共著	2013年3月	Chem. Res. Toxicol. vol. 26 (3)
CYP3A4 intron 6 C>T polymorphism (CYP3A4*22) is associated with reduced CYP3A4 protein level and function in human liver microsomes.	共著	2013年1月	J. Toxicol. Sci. vol 38(3)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Roles of auto-induction of human P450 3A enzymes involved in the teratogenicity of thalidomide		2014年10月	ISSX/JSSX Meeting
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
2013年10月～2014年6月現在	内閣府食品安全委員会 化学物質・汚染物質評価委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬化学	職名 講師	氏名 森田 延嘉
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2009年9月30日	実習「有機化学実習I」において、作成した実習書を利用して実習を行った。実習終了後、面談を実施し、各学生の理解度を把握すると共に少人数での指導を行った。
		2010年3月31日	科目「有機化学I」において、授業中に例題等を与えながら、講義を行った(授業評価:3.75)。また自習的な学習を進めた。実習「有機化学実習I」は前年度と同様に、教育を行った。
		2011年3月31日	科目「有機合成化学I」において、独自に作成した資料を利用して、講義を行った(授業評価:4.35)。授業中に例題等を与え、自習的な学習を進めた。また実習「有機化学実習I」は前年度と同様に、教育を行った。
		2012年3月31日	科目「有機合成化学I」において、独自に作成した資料を利用して、講義を行った(授業評価:4.23)。授業中に例題等を与え、自習的な学習を進めた。また実習「有機化学実習I」は前年度と同様に、教育を行った。
		2013年3月31日	科目「有機化学II」において、授業中に例題等を与えながら講義を行った(授業評価:4.46)。課題を与え、自習的な学習を進めた。また実習「有機化学実習I」は前年度と同様に、教育を行った。
		2014年3月31日	科目「有機化学II」において、過去に出題された問題等を利用して講義を行い、学生の理解度を深めた(授業評価:4.41)。また実習「有機化学実習I」は前年度と同様に、教育を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書		2009年4月1日	「有機化学実習I」の実習書(2009年度版)を作成した。
		2010年4月1日	「有機化学実習I」の実習書(2010年度版)を作成した。
		2011年4月1日	「有機化学実習I」の実習書(2011年度版)を作成した。
		2012年4月1日	「有機化学実習I」の実習書(2012年度版)を作成した。
		2013年4月1日	「有機化学実習I」の実習書(2013年度版)を作成した。
		2014年4月1日	「有機化学実習I」の実習書(2014年度版)を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			特になし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Stereoselective Vinylogous Mannich Reaction of 2-Trimethylsilyloxyfuran with N-Gulosyl Nitrones.	共著	2011年8月	<i>Org. Biomol. Chem.</i> 2011 , 9, 7411-7419.
(論文) Synthesis of the Proposed Structure of Phaeosphaeride A.	共著	2011年5月	<i>Org. Biomol. Chem.</i> 2011 , 9, 5825-5832.

(論文) Synthesis and Biological Evaluation of Tubulysin D Analogues Related to Stereoisomers of Tubovaline.	共著	2011年1月	<i>Bioorg. Med. Chem. Lett.</i> 2011 , 21, 431-434.
(論文) Total Syntheses of Tubulysins.	共著	2010年8月	<i>Chem. Eur. J.</i> 2010, 16, 11678-11688.
(論文) Synthesis and Evaluation of Opioid Receptor-binding Affinity of Eleoocarpenine and its Analogs.	共著	2010年3月	<i>Bioorg. Med. Chem. Lett.</i> 2010 , 20, 1601-1603.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Gold-catalyzed Efficient synthesis of Cyclic Ethers bearing carbonyl group via Tandem Meyer-Schuster Rearrangement and Oxa-Michael Addition		2014年8月	5th EuCheMS Chemistry Congress
(演題名) 金(I)/(III)触媒による環状エーテル類の合成: 価数による環化様式の制御		2014年9月	第44回複素環化学討論会
(演題名) 金触媒を利用したペペリジン類の合成: 価数による環化様式の制御		2014年11月	第40回反応と合成の進歩シンポジウム
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
2008年4月~2011年3月	ファルマシアトピックス小委員会		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 の名 薬品化学	職名 助教	氏名 伊藤 愛
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2013年6月 2014年6月	科目「有機化学実習Ⅱ」において、薬理作用のあるアンチピリンの合成および精製を行う有機化学実習。実際に反応装置を組み、合成することで授業で学んだ反応について体験し理解する。
2 作成した教科書、教材、参考書		2013年5月～ 2014年5月	「有機化学実習Ⅱ実習書」において、有機化学実習における安全、基本的操作また原理と応用について詳細に述べた教材を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
On the Structure of “5-Nitrosotropolone” .	共著	2009年2月	J. Org. Chem., 74 , 1275-1281.
Novel Synthesis of Ureas: Application of t-Butylureas.	共著	2010年1月	Chem. Pharm. Bull., 58 (1), 82-86.
(R)- and (S)-4-Amino-3-(trimethylsilyl)methylbutanoic Acids Ameliorate Neuropathic Pain without Central Nervous System-related Side Effects.	共著	2012年10月	Bioorg. Med. Chem. Lett., 22 (24), 7602-7604.
Deprotonation Equilibrium of 5-Tropolonediazonium Salt Strongly Favors 1,2,5-Tropoquinone-5-diazide Structure in Certain Solvents.	共著	2013年7月	J. Org. Chem., 78 , 5470-5475.
A Novel Aromatic Carboxylic Acid Inactivates Luciferase by Acylation of an Enzymatically Active Regulatory Lysine Residue.	共著	2013年9月	PLoS ONE, 8 , e75445.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Conformational preferences and alteration of N,N-diaryl amides bearing tropolone and pyridine.		2014年8月	248th American Chemical Society National Meeting & Exposition
(演題名) Acid-induced folding of aromatic N-methyl amides bearing pyridine-2-carboxylic amides.		2014年8月	248th American Chemical Society National Meeting & Exposition
(演題名) N-ピリジル型およびN-トロポニル型芳香族アミドの立体構造特性と構造変換		2014年9月	第44回複素環化学討論会
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬物動態学	職名 特任助教	氏名 上原 正太郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			なし
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) A novel CYP2A26 identified in cynomolgus monkey liver metabolizes coumarin.	共著	2010年9月	Xenobiotica, 40, 621-629.
(著書) CYP2G2, pseudogenized in human, is expressed in nasal mucosa of cynomolgus monkey and encodes a functional drug-metabolizing enzyme.	共著	2011年4月	Drug Metab. Dispos., 39, 717-723.
(著書) Immunochemical detection of cytochrome P450 enzymes in liver microsomes of 27 cynomolgus monkeys.	共著	2011年11月	J. Pharmacol. Exp. Ther., 339, 654-661.
(論文) CYP2C76 non-synonymous variants in cynomolgus and rhesus macaques.	共著	2012年6月	Drug Metab. Pharmacokinet., 27, 344-348.
(論文) Evaluation of 23 lots of commercially available cryopreserved hepatocytes for induction assays of human cytochromes P450.	共著	2014年5月	Drug Metab. Dispos., 42, 867-871.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Metabolism of 1-Methyl-4-phenyl-1,2,3,6-tetrahydropyridine in liver and brain microsomes of common marmosets		2014年10月	19th International Society for the Study of Xenobiotics
III 学会および社会における主な活動			
	特になし		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 統合感染免疫学	職名 助教	氏名 梶川 瑞穂
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書		2013年8月29日	科目「微生物学実習」の実習書「微生物学実習書」を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2012年12月19日	本学FDワークショップに参加した。
		2013年10月13日	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップを受講した。
		2013年12月18日	本学FDワークショップに参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) The intertransmembrane region of Kaposi's sarcoma-associated herpesvirus modulator of immune recognition 2 contributes to B7-2 downregulation.	共著	2012年3月	J. Virol., 86 (9), 5288-5296.
(論文) Involvement of an NKG2D ligand H60c in epidermal dendritic T cell-mediated wound repair.	共著	2012年4月	J. Immunol., 188 (8), 3972-3979.
(論文) The long-term immunosuppressive effects of disulfide-linked HLA-G dimer in mice with collagen-induced arthritis.	共著	2013年4月	Hum. Immunol., 74 (4), 433-438.
(論文) NKG2D triggers cytotoxicity in murine epidermal $\gamma\delta$ T cells via PI3K-dependent, Syk/ZAP70-independent signaling pathway.	共著	2014年2月	J. Invest. Dermatol., 134 (2), 396-404.
(論文) Loss of MHC II ubiquitination inhibits the activation and differentiation of CD4 T cells.	共著	印刷中	Int. Immunol., 26 (5), 283-289.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)			学会名
(演題名)			
(演題名)			
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 機器分析研究施設 の名 設	職名 助教	氏名 清谷 多美子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Synthesis of the proposed structure of phaeosphaeride A	共著	2011年8月	Org. Biomol. Chem. 9 , 5825-5832
(論文) Furanoditerpenes from <i>Arcangelisia flava</i> (L.) Merr. and their antifungal activity	共著	2011年9月	Phytochemistry Lett. 4 , 333-336.
(論文) L-Leucylglycine 0.67-hydrate and [(4S)-2,2-dimethyl-4-(2-methylpropyl)-5-oxoimidazolidin-3-ium-1-yl]acetate	共著	2012年12月	Acta Cryst. Sec.C C68 , o498-o501.
(論文) Instrument Design and Performance Evaluation of a New Single Crystal Neutron Diffractometer SENJU at J-PARC	共著	2014年3月	JPS Conf. Proc. 1 , 014013
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Towards direct observation by μ SR of electron transfer due to enzymatic reaction in trypsin		2014年7月	2nd International Symposium on Science at J-PARC
(演題名) Observation of electron transfer associated with enzymatic process by μ SR		2014年8月	23rd International Union of Crystallography Congress and General Assembly (IUCr2014)
III 学会および社会における主な活動			
2008年8月~2012年3月	日本結晶学会男女共同参画推進委員会委員長・幹事		
2012年4月~2014年3月	日本結晶学会評議員		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 実習・教育支援室	職名 助教	氏名 佐藤 良夫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) 特集 小児の漢方療法-エキス剤を使いこなそう II. 漢方の基礎と薬効・その発展 漢方薬はなぜ効くのか	共著	2010年3月	診断と治療社, 小児科診療, 73(3), 375-379
(論文) Kaurene-Type Diterpenoids from <i>Aristolichia brasiliensis</i>	共著	2011年1月	生薬学雑誌, 65(1), 54-55
(論文) Phenolic Diterpenes Derived from <i>Hyptis incana</i> Induce Apoptosis and G2/M Arrest of Neuroblastoma Cells	共著	2012年	Anticancer Research, 32, 4781-4790
(論文) New Humulenes from <i>Hyptis incana</i> (Labiatae)	共著	2013年12月	Nat. Prod. Comm., 8(12), 1665-1668
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 天然物化学	職名 助教	氏名 篠崎 淳一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Dammaradiene Synthase, a Squalene Cyclase, from <i>Dryopteris crassirhizoma</i> Nakai	共著	2008年10月	Phytochemistry, 69, 2559-2564
Identification of medicinal <i>Dendrobium</i> species by phylogenetic analyses using matK and rbcL sequences	共著	2010年2月	J. Nat. Med., 64, 133-138
Molecular evolution of fern squalene cyclases	共著	2010年2月	ChemBioChem, 11, 426-433
Composite constituent: lactucenyl acetate, a novel migrated lupane triterpenoid from <i>Lactuca indica</i> . Revision of structure of tarolupenyl acetate	共著	2011年6月	Chem. Pharm. Bull., 59, 767-769
Cyclization of all-E- and 2Z-geranyl farnesols by a bacterial triterpene synthase: insight into sesterterpene biosynthesis in <i>Aleuritopteris</i> ferns	共著	2013年11月	Biosci. Biotechnol. Biochem., 77, 2278-2282
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Mining the genes involved in carthamin biosynthesis in safflower, <i>Carthamus tinctorius</i> L.		2014年9月	ICP2014 (International Conference on Polyphenols)
中国産 <i>Adiantum davidii</i> のトリテルペノイド		2014年9月	日本生薬学会第61回年会
中国広東省汎用生薬広東土槿皮の生薬学的研究		2014年9月	日本生薬学会第61回年会
ベニバナ色素キノカルコン類のMS ² 解析		2014年9月	日本生薬学会第61回年会
III 学会および社会における主な活動			

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 統合感染免疫学	職名 助教	氏名 嶋 秀明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2014年4月1日	卒業研究教育において実験の取り組み方について指導した。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Identification of TOSO/FAIM3 as an Fc receptor for IgM,	共著	2010年3月	Int. Immunolo. 22 (3), 149-156
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬品物理化学	職名 助教	氏名 宿里 充穂
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2014年2月1日～	学部4～6年生の卒業研究指導。 配属直後には関連する英語論文の読み合わせなどを行い、研究に必要な最低限の知識の定着と、取り組み方の指導を行った。 学生が研究を遂行するにあたっては、極力、学生自ら実験計画を立てるように促し、自分で考える力を養うように努めた。
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			該当なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Human whole-body biodistribution and dosimetry of a new PET tracer, [11C]ketoprofen methyl ester, for imagings of neuroinflammation.	共著	2014年4月	Nucl Med Biol. 14, 00114-0.
(論文) 神経炎症におけるシクロオキシゲナーゼのPET分子イメージング	共著	2014年3月	医学のあゆみ 248巻12号 907-911.
(論文) アルツハイマー病の治療薬、イメージング剤としてのNSAIDsの可能性	共著	2013年4月	PETジャーナル 21号 10-12.
(論文) Assessment of radioligands for PET imaging of cyclooxygenase-2 in an ischemic neuronal injury model.	共著	2013年10月	Brain Res. 1533, 152-62.
(論文) In vivo expression of cyclooxygenase-1 in activated microglia and macrophages during neuroinflammation visualized by PET with 11C-ketoprofen methyl ester.	共著	2011年6月	J Nucl Med. 52(7), 1094-101.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 多発性硬化症のPET診断		2014年8月	PETサマーセミナー2014
(演題名) 演題タイトル未定 セッションタイトル: Immunology and Theranostics		2014年11月	Asia Regional Cooperative Council for Nuclear Medicine
III 学会および社会における主な活動			
該当なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬理学	職名 特任助教	氏名 高田 剛
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2014年4月17日 ～5月22日	科目「薬理学実習」において、円滑な進行を促すための準備を行い、実習中は指導にあたる。また、実習終了時には、結果について考察するなどのディスカッションを行い理解を深めるようにする。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Inactivation of Ca ²⁺ /calmodulin-dependent protein kinase I by S-glutathionylation of the active-site cysteine residue	共著	2010年6月	FEBS Lett., 584 , 2478-2484
(論文) Calcium/calmodulin-dependent protein kinases as potential targets of nitric oxide	共著	2011年8月	Nitric Oxide., 25 , 145-152
(論文) Nitric oxide promotes nicotine-triggered ERK signaling via redox reactions in PC12 cells	共著	2011年10月	Nitric Oxide., 25 , 344-349
(論文) 90-kDa ribosomal S6 kinase 1 is inhibited by S-glutathionylation of its active-site cysteine residue during oxidative stress	共著	2013年6月	FEBS Lett., 587 , 1681-1686
(論文) Nitric oxide enhances increase in cytosolic Ca ²⁺ and promotes nicotine-triggered MAPK pathway in PC12 cells	共著	2013年11月	Nitric Oxide., 34 , 3-9
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) カルモデュリンキナーゼIVのシステイン過硫化修飾による活性制御		2014年5月	第14回日本NO学会学術集会
(演題名) Reversible inactivation of Ca ²⁺ /calmodulin-dependent protein kinase IV by reactive cysteine peresulfides generated from cystathionine γ -lyase and cysteine		2014年6月	8th International Conference on the Biology, Chemistry and Therapeutic Application of Nitric Oxide
III 学会および社会における主な活動			
2009年11月～2014年5月現在	日本薬理学会会員		
2010年7月～2014年5月現在	日本生化学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 の名 薬理学	職名 助教	氏名 土屋 幸弘
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2010年9月21日-10月19日	科目「薬理学実習」において、実習説明および指導を行なった。円滑に実習が進むよう具体的な指示を行なった。	
	2011年10月24日-11月24日	科目「薬理学実習」において、実習説明および指導を行なった。円滑に実習が進むよう具体的な指示を行なった。	
	2012年4月9日-5月10日	科目「薬理学実習」において、実習説明および指導を行なった。円滑に実習が進むよう具体的な指示を行なった。	
	2012年6月11日	科目「生物系特論」において、タンパク質に焦点を当てた授業を行った。分かりやすさに重点を置いたスライドを作成し行なった。	
	2013年4月15日-5月20日	科目「薬理学実習」において、実習説明および指導を行なった。円滑に実習が進むよう具体的な指示を行なった。	
	2014年4月14日-5月22日	科目「薬理学実習」において、実習説明および指導を行なった。円滑に実習が進むよう具体的な指示を行なった。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2010年9月31日	科目「薬理学実習」の実習書「薬理学実習指針」を作成した。	
	2011年10月3日	科目「薬理学実習」の実習書「薬理学実習指針」を作成した。	
	2012年3月19日	科目「薬理学実習」の実習書「薬理学実習指針」を作成した。	
	2013年3月25日	科目「薬理学実習」の実習書「薬理学実習指針」を作成した。	
	2014年3月24日	科目「薬理学実習」の実習書「薬理学実習指針」を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Ubiquitin C-terminal Hydrolase L1 (UCH-L1) Acts as a Novel Potentiator of Cyclin-dependent Kinases to Enhance Cell Proliferation Independently of Its Hydrolase Activity.	共著	2013年5月	J. Biol. Chem., 288 , 12615-12626.
(論文) 90-kDa ribosomal S6 kinase 1 is inhibited by S-glutathionylation of its active-site cysteine residue during oxidative stress.	共著	2013年6月	FEBS Lett., 587 , 1681-1686.
(論文) TDP-43 associates with stalled ribosomes and contributes to cell survival during cellular stress.	共著	2013年7月	J. Neurochem., 126 , 288-300.

(論文) Nitric oxide enhances increase in cytosolic Ca ²⁺ and promotes nicotine-triggered MAPK pathway in PC12 cells.	共著	2013年11月	Nitric Oxide, 34 , 3-9.
(論文) Reactive cysteine persulfides and S-polythiolation regulate oxidative stress and redox signaling.	共著	2014年5月	Proc. Natl. Acad. Sci. U. S. A., 111 , 7606-7611.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) NOによる細胞内Ca ²⁺ 流入増強メカニズムの解明		2014年5月	第14回日本NO学会学術集会
(演題名) Role of nNOS expression in nicotine-induced cytosolic Ca ²⁺ influx in PC12 cells.		2014年6月	The 8th International Conference on the Biology, Chemistry and Therapeutic Application of Nitric Oxide
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
2001年3月～2014年5月 現在	日本薬学会会員		
2002年10月～2014年5月 現在	日本生化学会会員		
2010年4月～2014年5月 現在	日本NO学会会員		
2010年4月～2014年5月 現在	日本薬理学会会員		
2013年6月～2014年5月 現在	日本酸化ストレス学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬化学	職名 助教	氏名 橋本 善光
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Total Synthesis and Absolute Stereochemistry of Seragakinone A	共著	2011年2月	<i>Angew. Chem. Int. Ed.</i> , 50 , 2297–2301 (2011).
(論文) Synthesis of isoxazoles en route to semi-aromatized polyketides: dehydrogenation of benzonitrile oxide-para-quinone acetal cycloadducts	共著	2012年5月	<i>Org. Biomol. Chem.</i> , 10 , 6003–6009 (2012).
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名)			
(演題名)			
III 学会および社会における主な活動			

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬物治療学	職名 助教	氏名 濱田 浩一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2013年7月1日	科目「分子腫瘍学」において、視覚資料を多用し、腫瘍学の基礎から最新の知見を講義した。
2	作成した教科書、教材、参考書		特になし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		特になし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Combined deficiency for MAP kinase-interacting kinase 1 and 2 (Mnk1 and Mnk2) delays tumor development.	共著	2010年8月	Proc Natl Acad Sci U S A. 2010;107(32):13984-90
Regulation of the MDM2-P53 pathway and tumor growth by PICT1 via nucleolar RPL11.	共著	2011年7月	Nat Med. 2011;17(8):944-51
iRhom2 regulation of TACE controls TNF-mediated protection against Listeria and responses to LPS.	共著	2012年1月	Science. 2012;335(6065):229-32
Cancer susceptibility and embryonic lethality in Mob1a/1b double-mutant mice.	共著	2012年11月	J Clin Invest. 2012;122(12):4505-18
Flotillin-2 deficiency leads to reduced lung metastases in a mouse breast cancer model.	共著	2013年10月	Oncogene. 2013;32(41):4989-94
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Critical Role of the PI3K/PTEN/GSK-3 Signaling Pathway in HIV latent infected cells		2012年12月	日本生化学会
IP3 受容体結合タンパク質IRBIT による細胞遊走能の解析		2013年2月	文部科学省科学研究費 新学術領域研究「個体レベルでのがん研究支援活動」
阿蘇黄土による病原性大腸菌の増殖抑制効果の検討		2014年3月	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動			
2011年5月～2014年5月 現在		財団法人日本がん予防協会 理事	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬剤師実務教育	職名 助教	氏名 太田 綾子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2011年9月16日	科目「実務実習事前学習」において、一般用医薬品・健康食品に関する講義を行った。風邪症状に対する薬の選択・受診勧奨等について講義の途中で問題形式にし、学生の理解度を確かめた。	
	2012年9月21日	科目「実務実習事前学習」において、一般用医薬品・健康食品に関する講義を行った。健康食品について成分の有効性・危険性、情報収集の手段についてなど身近なものを例にとり、薬剤師の役割について講義をした。	
	2012年7月3日	科目「医薬品情報評価学」において、医中誌、PubMedによる文献検索に関する演習を行った。課題を与え、一人ひとりPCを用い、取り組ませた。課題を提出し学生の理解度を確認した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2011年5月1日	科目「実務実習事前学習」において、計数調剤、計量調剤の項目に関して実習書を作成した。	
	2012年9月1日	科目「実務実習事前学習」において、一般用医薬品に関する実習書を作成した。	
	2012年9月1日	科目「実務実習事前学習」において、一般用医薬品に関する実習書を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2012年3月～12月	一般社団法人ソーシャルユニバーシティとSU共同研究を行い、世界各国の薬局を対象とした学術論文に関する研究を行った。	
	2013年1月12日～1月13日	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ（東京都）の運営に係わった。	
	2012年5月、12月	SP養成講習会の運営・企画に係わった。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）症例検討入門 薬物治療に最適なプロセスとは？	共著	2011年2月	京都廣川書店
（著書）診療・治療ガイドライン活用指南 乳がん（薬物療法）	共著	2010年11月	月刊薬事2010.11 vol. 52 No. 12
（論文）Report of the Advanced Practical Training Program of Showa Pharmaceutical University: Questionnaire Surveys on Students and Pharmacist Instructors	共著	2012年2月	昭和薬科大学紀要（人文・社会・自然）(0371-4845)46号
（論文）薬局実務実習における薬学生の自己評価と指導薬剤師の学生評価の比較による到達度不十分な実習項目の分析	共著	2014年2月	昭和薬科大学紀要（人文・社会・自然）(0371-4845)48号
（論文）初年度薬局実務実習の教育効果と問題点の検討 学生及び指導薬剤師のアンケート調査	共著	2013年3月	昭和薬科大学紀要（人文・社会・自然）(0371-4845)47号

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Ⅲ 学会および社会における主な活動		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等 の名 薬剤師実務教育	職名 助教	氏名 中村 美樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2011年9月8日～ 2011年10月28日	科目「実務実習事前実習Ⅱ」において、計数調剤などの実習教育を行った。新たに模擬処方せんを作成し、随時フィードバックを行いながら実習した。
		2012年2月27日 ～2012年3月6日	科目「実務実習事前実習Ⅰ」において、製剤調製の実習教育を行った。製剤についての概要を説明し、理解度を高めるために実習書は穴埋め方式を用いて学習させた。また、実際に現場で処方される軟膏剤の調剤を指導した。
		2012年6月4日～ 2012年6月28日	科目「実務実習事前実習Ⅰ」において、患者応対と服薬指導についての実習教育を行った。小グループに分け、6症例を用いてロールプレイを行った。
		2012年7月3日	科目「医薬品情報学」において、医薬品情報と文献情報の検索に関する演習を行った。2課題を提示し、各学生にフィードバックを行った。
		2012年9月6日～ 2012年10月30日	科目「実務実習事前実習Ⅱ」において、OTC医薬品の提供、散剤調製などの実習教育を行った。OTC医薬品の提供では新たに症例を作成し、小グループに分けてロールプレイを行った。
		2012年9月21日 2012年9月28日	科目「実務実習事前実習Ⅱ」において、「OTC医薬品と副作用」及び「OTC医薬品を販売する-かぜ薬の選び方-」に関する講義および演習を行った。かぜ薬の選択については、8症例を用意しクイズ形式で回答させた。
		2013年2月25日 ～2013年2月28日	科目「実務実習事前実習Ⅰ」において、製剤調製の実習教育を行った。製剤についての概要を説明し、理解度を高めるために実習書は穴埋め方式を用いて学習させた。また、実際に現場で処方される軟膏剤の調剤を指導した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2011年10月1日	科目「実務実習事前実習Ⅱ」の実習書「平成23年度実務実習事前学習 総合実習 方略」を作成した。
		2012年2月1日	科目「実務実習事前実習Ⅰ」の実習書「平成23年度実務実習事前学習(3年次導入実習)実習テキスト」を作成した。
		2012年5月1日	科目「実務実習事前実習Ⅰ」の実習書「平成24年度前期実務実習事前学習 実習テキスト」を作成した。
		2012年9月1日	科目「実務実習事前実習Ⅱ」の実習書「平成24年度後期実務実習事前学習 実習テキスト」を作成した。
		2012年10月1日	科目「実務実習事前実習Ⅱ」の実習書「平成24年度実務実習事前学習 総合実習 方略」を作成した。
		2013年2月1日	科目「実務実習事前実習Ⅰ」の実習書「平成24年度実務実習事前学習(3年次導入実習)実習テキスト」を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2014年5月1日	科目「実務実習事前実習Ⅰ」の実習書「平成26年度前期実務実習事前学習 実習テキスト」を作成した。

4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Effects and Problems of Education from First Clinical Pharmacy Training at Hospital in the Six-Year System of Pharmaceutical Education: Questionnaire on Students and Instructing Pharmacists	共著	2012年4月	医薬品相互作用研究, 35(3), 143-152.
地域の薬局薬剤師に対するバイタルサインチェック・フィジカルアセスメント講習会の評価(第1報)	共著	2013年2月	昭和薬科大学紀要(人文・ 社会・自然), 47, 1-9.
初年度薬局実務実習の教育効果と問題点の検討 学生及び指導薬剤師のアンケート調査	共著	2013年2月	昭和薬科大学紀要(人文・ 社会・自然), 47, 33-42.
病院実務実習における薬学生の自己評価と指導薬剤師の学生評価の比較による到達度不十分な実習項目の分析	共著	2014年2月	昭和薬科大学紀要(人文・ 社会・自然), 48, 29-40.
薬局実務実習における薬学生の自己評価と指導薬剤師の学生評価の比較による到達度不十分な実習項目の分析	共著	2014年2月	昭和薬科大学紀要(人文・ 社会・自然), 48, 13-27.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 生化学	職名 特任助教	氏名 中野 なおこ
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		なし
2	作成した教科書、教材、参考書		なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) TMEPAI, a transmembrane TGF- β -induced protein, sequesters Smad proteins from active participation in TGF- β signaling.	共著	2010年1月	Molecular Cell vol. 37: 123-134
(論文) Requirement of TCF7L2 for TGF- β -dependent transcriptional activation of the TMEPAI gene.	共著	2010年12月	The Journal of Biological Chemistry vol. 285: 38023-38033
(論文) Interference of E2-2-mediated effect in endothelial cells by FAM96B through its limited expression of E2-2.	共著	2011年10月	Cancer Science vol. 102: 1808-1814
(論文) C18ORF1: A novel negative regulator of TGF- β signaling.	共著	2014年3月	The Journal of Biological Chemistry vol. 289: 12680-12692
(論文) TGF- β signaling cooperates with AT motif-binding factor-1(ATBF1) for repression of the α -fetoprotein promoter.	共著	2014年	Journal of Signal Transduction in press
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) The functional relationship between C18ORF1 and TMEPAI in TGF- β /Smad signaling		2014年5月	TGF- β meeting
(演題名) TMEPAI family; TGF- β negative regulator		2014年9月	日本癌学会
III 学会および社会における主な活動			
2007年5月～2014年5 現在	日本癌学会会員		
2008年7月～2014年5月 現在	日本分子生物学会会員		
2013年7月～2014年5月 現在	日本生化学会会員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 昭和薬科大学	研究室等の名 薬化学	職名 特任博士 研究員	氏名 伴 慎太郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Structure-based design, synthesis, and nonalcoholic steatohepatitis (NASH)-preventive effect of phenylpropanoic acid peroxisome proliferator-activated receptor (PPAR) α -selective agonists	共著	2011年4月	Bioorg. Med. Chem., 2011, 19 (10), 3183-3191.
(論文) Bidirectional fluorescence properties of pyrene-based peroxisome proliferator-activated receptor (PPAR) α/δ dual agonist	共著	2012年4月	Bioorg. Med. Chem., 2012, 20 (11), 3460-3464.
(論文) Peroxisome proliferator-activated receptor delta antagonists inhibit hepatitis C virus RNA replication	共著	2013年7月	Bioorg. Med. Chem. Lett., 2013, 23 (17), 4774-4778.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。